

慈恵大学の
「今」を伝える
法人情報誌

The JIKEI

VOL. 42

2024/Summer

私は、前々任の講座担当教授であった故寺島芳輝先生の指示で、1989年から国立がんセンター（現国立がん研究センター）での基礎研究の道を歩み始めました。卵巣癌と子宮内膜癌においてp53遺伝子異常を見出し、Cancer Researchという英文ジャーナルに2編の論文を掲載することができました。当時は電子メールがなかったため、世界中から研究の別冊を依頼するハガキが約250通届き、基礎研究の楽しさと国際化に目覚めました。

その後、アメリカNIH留学のチャンスを得て、偶然注目した16kDの蛋白がp16遺伝子産物であり、p16遺伝子が新しいがん抑制遺伝子であることを見出しました。この経験を通じて、基礎医学の重要性和国際的な視野の大切さを学びました。

本学に戻ってからは、前任の田中忠夫教授の許しを得て、自分のラボを立ち上げ、個別治療につながる婦人科がんの包括的な遺伝子変化の研究を継続し、さらに多くの臨床試験にも関わりました。現在、遺伝子診断や分子標的治療薬が実臨床に導入されていることに深い感動を覚えています。このような経緯から現在は日本婦人科腫瘍学会、婦人科悪性研究機構（JGOG）、日本臨床細胞学会の理事長を兼任しており、実臨床と学術の向上のために尽力しております。

東京慈恵会医科大学
産婦人科学講座
講座担当教授

岡本 愛光

Aikou Okamoto



02 巻頭言

本学の教授が医療の場で貢献し、世界的にも注目されています

学校法人慈恵大学 理事長 栗原 敏

巻頭特集 1

03

救うことのできなかった命を救う

～ブタの腎臓を使った「異種移植」の未来～

東京慈恵会医科大学 内科学講座(腎臓・高血圧内科)
講座担当教授 横尾 隆

巻頭特集 2

07

世界内視鏡学会(WEO)の活動と今後の展望

東京慈恵会医科大学名誉教授
世界内視鏡学会(WEO)理事長 田尻 久雄

Ongoing

09 01 教育

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

救急医学講座 講座担当教授 武田 聡

11 02 研究

プライマリ・ケアの意義を可視化するヘルスサービス研究

総合医科学研究センター 臨床疫学研究部 准教授 青木 拓也

13 03 診療

難治性呼吸器疾患克服を目指した、
ヒト肺検体のシングルセル解析技術による病態解明

内科学講座(呼吸器内科) 講師 吉田 昌弘

Nursing

15

Reproductive Well-Beingのために

不妊症看護認定看護師 生殖医療コーディネーター
認定がん・生殖医療ナビゲーター 稲川 早苗

PDC から PDCA へ

16

第3期大学基準協会の受審を終えて

東京慈恵会医科大学 学長補佐
学校法人慈恵大学 内部質保証推進委員会委員長 柳澤 裕之

New Organization

17 新たな組織の
紹介

がんサバイバーシップ・デジタル医療学講座

産学連携教授 内富 庸介

18 新たな組織の
紹介

疲労医学講座

産学連携教授 近藤 一博

Topics

19

慈恵大学と渋沢栄一

学術情報センター 課長 阿部 信一

Column

20

新任講座担当教授 紹介

20 News Flash

2023年	12月	令和5年度 医学教育等関係業務功労者表彰
2024年	1月	先端医学推進拠点群・痛み脳科学センターシンポジウム並びに総合医科学研究センター神経科学研究部 加藤総夫教授 退任記念講演 第15回上智大学・慈恵医大ジョイントシンポジウム開催 令和5年度 退任記念講義・退任記念挨拶並びに退任記念懇親会
	2月	東京慈恵会医科大学・東京理科大学 第7回合同シンポジウムを開催 第1269回成医会例会「ヒトの老いと死について生物学的に考える」 東京大学定量生命科学研究所教授 小林武彦先生
	3月	報告：能登半島地震への慈恵からの支援 東京慈恵会医科大学 救急医学講座 武田 聡 令和5年度 医学科・看護学科卒業式
	4月	桐朋学園との高大接続協定締結 2024年度 新入職員就任式 令和6年度 医学部入学式
	5月	第4回慈恵－Mayo Clinicジョイントシンポジウム開催 東京慈恵会医科大学附属病院外来棟が「医療福祉建築賞2023」受賞 2024年 主な行事予定表

29 Notice

- 大学公報(行事／公示／学事／訃報／東京慈恵会公報)
- 財務報告
- 補助金・助成金
- プレスリリース
- 生涯学習・公開セミナー等
- メディア掲載一覧
- 院内表彰受賞者
- ガバナンス(行動憲章／行動規範)
- 寄付のお願い
- 専門医紹介動画のご紹介
- 医療連携窓口のご紹介

学校法人慈恵大学
理事長 栗原 敏本学の教授が
医療の場で貢献し、
世界的にも注目されています

本号では、内科学講座、腎臓・高血圧内科の横尾隆教授による、腎臓の異種移植が取り上げられています。横尾隆教授は、内科医師として多くの患者さんを診るだけでなく、腎臓の機能が低下した患者さんを何とか救おうと考え研究してきました。内科医師であると同時に研究者として、臨床の課題に取り組んでいるPhysician Scientistです。横尾教授の腎臓・高血圧内科では、腎機能が低下した患者さんに対して透析を行ってきました。現在では、多くの患者さんが透析を受けて日常生活を送ることができるようになっていますが、およそ50年前の人工透析装置は大きく、実習で大きな透析装置を見学したことを思い出します。その後、透析装置は改良され、多くの患者さんがその恩恵を受けています。しかし、週に2-3回の透析は患者さんにとって負担です。そこで、腎移植が行われるようになり、本学の腎臓・高血圧内科と泌尿器科が共同して、現在では毎年10件ほどの腎移植が行われています。しかし、移植にはドナーが必要で、ドナーを探すのには大変な労力を要します。そこで、ブタの腎臓を人間に移植して利用する“異種移植”が横尾教授のグループによって試みられており、本号でその詳細が紹介されています。

もう一つの特集には世界内視鏡学会の理事長に就任した田尻久雄教授が取り上げられています。田尻教授は、2001年に鈴木博昭教授の後任として、内視鏡科の第3代教授に就任されました。当時、内視鏡科は講座ではなく診療科でした。診療科員は不足

しており、4附属病院の内視鏡科診療を担うのは大変でした。私はよく相談を受け、ニーズが高まる内視鏡検査に対応できる内視鏡科の再興に苦労したことを思い出します。関係者の努力によって、内視鏡医を目指す若い医師は増え、松藤学長の英断で内視鏡医学講座が2018年に発足しました。

また、田尻教授は消化器・肝臓内科の講座担当教授に就任され、内視鏡医学講座を併任することになりました。このことによって、若い医師は、内視鏡の技術を学びながら消化器・肝臓内科で修練することができるようになり、大変良い流れができました。しかし、専門医機構の方針で、内科の専門医、消化器内科の専門医を取得していないと内視鏡専門医を取得できないという制度変更があり、これによって本学の内視鏡科医師は激減しました。その結果、内視鏡診療が円滑に行えなくなりました。

この間も、田尻教授は海外での活躍が目覚ましく、世界内視鏡学会における本学からの発表数は常にトップクラスとなり、その活動は後任の炭山和毅教授に継承されています。田尻教授のこのような海外での活躍が高く評価され、このたび世界内視鏡学会の理事長に就任されました。慈恵医大の一室を事務所として使い、世界の田尻教授として活躍されており、本学が世界的に注目されることになり、嬉しい限りです。これも、田尻教授が長年にわたり、多くの困難を乗り越えて来られたからで感慨深いものがあります。今後のご活躍を心から祈念いたします。

救うことの できなかつた 命を救う

～ブタの腎臓を使った「異種移植」の未来～



東京慈恵会医科大学
内科学講座(腎臓・高血圧内科)
講座担当教授

横尾 隆

はじめに

我々はこれまで発生中の異種胎仔臓器にある臓器発生環境(ニッチ)内でiPS細胞由来腎臓前駆細胞を分化させることにより、齧歯類において尿生成能を獲得した腎臓の再生に成功しました。現在ヒト臨床に対応できるように大型動物を用いたスケールアップを行っています。これはiPS細胞から臓器を作るという「再生医療」と異種胎仔臓器を用いるため「異種移植」の両者の利点を活かした全く新しい「異種再生医療」という概念を提唱するものであり、これまで不可能とされてきた**尿を作った臓器をあらたにつくる**ことを実現化できるものです。その内容については以前のThe Jikeiにも総説していますのでご興味のある方はそちらをご覧くださいと思います。その中で昨今の異種移植研究の国際的競争の激化に伴い、我々の持つ胎仔臓器移植技術を切り分けて異種移植研究に参入することが求められるようになりました。今回はその部分のコンセプトをお伝えしたいと思います。

異種移植の現状

異種移植はかなり昔から行われてきました。しかしそれまでの免疫抑制剤と遺伝子改変技術では長期生着は全く望めず、異種移植の実現化はほぼ諦められていました。そこに一つの革新的イノベーションがあり異種移植のランドスケープを全く変えることになりました。それこそが2014年に登場したCRISPR-Cas9であり複数の遺伝子を簡単に編集する技術になります。発明した2人の女性研究者は2020年にノーベル賞(化学賞)を受賞しています。これを用いることで免疫を制御する複数の遺伝子を編集しヒトに移植しても拒絶が生じにくくすることができるようになったため、異種移植が瞬く間に現実味を持つようになったのです。ブタ臓器のサルへの移植の成績が飛躍的に改善したことを受けて、2022年1月にまず数日から数週以内に死亡すると判断された重症心不全患者さんにFDAが認可した上で遺伝子改変臓器が移植されました。人道的措置とはいえ、先行的にFDAが認可したことは世界を驚かせました。その患者さんは残念ながら2ヶ月後に亡くなっています。原因はブタサイトメガロウイルス感染が疑われていますが、はっきりしていません。当然移植前にはPCRなどによりウイルスの感染がないと証明された臓器を移植しているわけですが、強烈な免

図1(上)

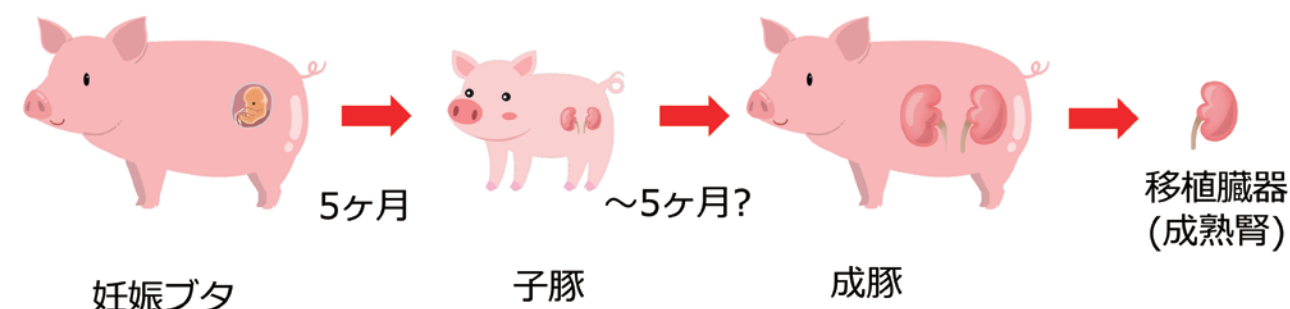
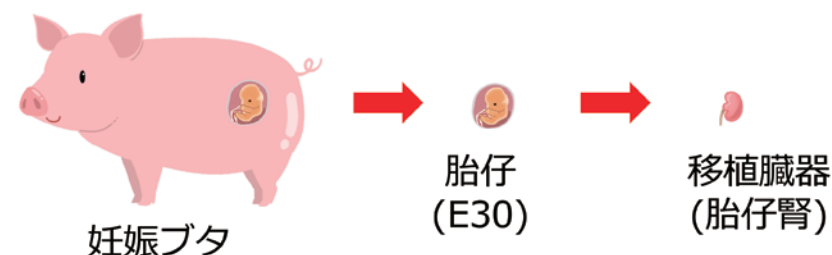


図1(下)



疫抑制剤の投与により検査に漏れたわずかなウイルスが不活化したのではないかと想定されています。ただ、死因が十分検証される前に2例目が2023年9月に行われています。この患者さんは約6週間で亡くなっています。このように米国が先行的に異種移植を進めようとしている背景には、中国や韓国を含む異種移植を新たな臓器不全治療の切り札と考えている諸外国が、この領域の覇権争いを行なっていることがあると考えています。やはりヒトで行なった時に判明する知見は知財に直結するため、早く行なったほうが圧倒的に有利になります。おそらくワクチン開発で出遅れた諸外国が次のターゲットとして臓器不足の解消を目論んでいると思われます。

一方、腎臓では透析という受け皿があるため人道的配慮のもと先行的に行われることはないと思われていて、脳死の患者さんへの移植の研究が進められていました。しかし驚いたことに米国で透析患者さんに遺伝子改変ブタの移植が2例行われました。無事透析を離脱して退院したということで、今後透析がなくなるのではないかと期待を煽る論調のニュースが多く見られました。しかし1人の患者さんは約2ヶ月後に突然死してしまいます。手術を行なったマサチューセッツ総合病院からは原因は移植に伴うものではないという声明が出されましたが、やはり透析患者さんに大いに負荷がかかる手術と過剰な免疫抑制剤が影響したので

はないかと考えられています。その中で、免疫抑制剤を過度に使用しなくても済むような条件でないと、透析患者さんに対して異種移植はうまくいかないのではないと思われるようになってきました。そこで我々の技術に注目が集まるようになったのです。

我々が行う異種胎仔移植とは

これまでの異種移植は、遺伝子改変ブタの種付けをし出産をさせ、臓器が移植に適するサイズまで大きくなることまで飼育した上で臓器を摘出し移植します(図1上)。ブタは生後食事をするし便も尿もします。したがってこの間完全に無菌的に飼育するために特別な施設が必要となります。アメリカにはそれ専用の施設がありますが数百億円の設立費のみならず1億円を超えるランニングコストがかかることされています。韓国にも同様の施設があると言われています。ただ日本で先行的にこれだけの投資ができるかといえば、もちろん答えはNOとなります。では日本は異種移植の覇権争いに参入できないのでしょうか。この答えもNOなのです。我々の技術を用いれば日本独自の異種移植の形を提唱できるのです。我々はこれまで腎臓再生用の足場として用いていた異種胎仔臓器をそのまま移植臓器として用いるのです(図1下)。既存の異種移植の方法より多くの利点があります。一つは無菌的な

表 1

	成熟腎臓移植	胎生腎臓移植
臓器内血管	異種	自己
移植後の成熟	なし	あり
免疫抑制	大量	少量
衛生的産出	長期・高額	安易・低額
病原体評価	困難	容易
母体	安楽殺	そのまま生存
効果	生着すれば有効	有効
尿生成までの時間	移植直後から	4週間後から

子宮内から無菌的に胎仔臓器を取り出せるので、莫大な無菌飼育施設が必要ありません。さらに種付けして約30日で移植臓器が取り出せるので時間がかかりません。また従来の成熟臓器移植は極めて強い拒絶反応を惹起しますが、胎仔移植は移植後にレシピエントの血管が迷入することにより成熟していくので血管系はレシピエントのものとなります。したがって拒絶の最前線の血管内皮細胞が自己由来なので拒絶がほとんど起きません。遺伝子改変も必要なくごくわずかな免疫抑制剤のみで生着できます。そのほか凍結保存できるので輸送も容易です(表1)。でも一つだけ欠点があります。それはホストの体内で成熟させるため、尿を作り始めるのに約4週間かかります。ではそのような条件に合った対象患者さんはいるのでしょうか?

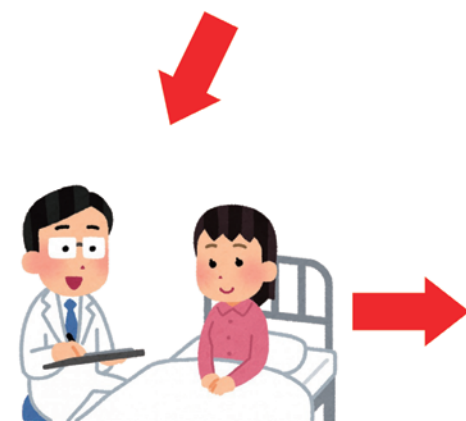
■ まずはポッター症候群患児を救う

慢性腎不全はどの時期にも起こります。糖尿病や腎炎の進行によって成人になって腎不全になる人もいますが、小児期から透析を行っている子もいます。でもお母さんのお腹にいるうちから腎不全になってしまう子供もいるのです。原因はいろいろあるのですが全てあわせてポッター症候群といいます。腎不全の程度はさまざまで、全く腎臓が無形成で機能がない場合は死産となりますが、ある程度腎機能が維持されているため妊娠は継続できて生まれてくる子供がいます。その子らは合併症などのため未熟児として生まれてくることが多く、その場合透析ができずせっかく生まれてきたのに死を待つだけになることがあります。なんとか透析ができるところまで命を繋ぐことができれば、その後両親からの移植などで普通に生きることができると命を落としてしまうのです。このような可哀想な赤ちゃん

図2



羊水過少で紹介受診、Potter症候群の診断



臨床研究の説明

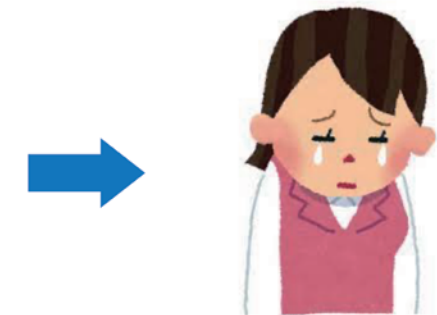
をまず救おうと考えています。生まれてすぐに尿が出るような状況にするためには唯一の欠点である4週間を稼ぐために、生まれる4週間前の胎児にブタの胎仔臓器を移植するのです。我々は胎児手術の専門家である本学産婦人科所属で国際成育医療センターで活躍している和田誠司先生らのグループと共同で大型動物を用いた研究を進めています。詳細はまだ明らかにすることはできませんが、技術的には問題なくできることがわかってきています。

■ 今の超えなければならない問題

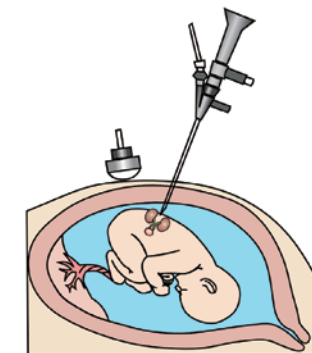
我々としては日本が異種移植に打って出るためにはこの方法しかないと考えています。支援してくれているAMEDや厚労省の担当者の方々、さらにメディアの方々も非常に協力的であり、大変助かっています。では何が問題になるのでしょうか。それはやはり社会的



赤ちゃんが障害なく生きて生まれる可能性がほとんどないことが説明される



望まない中絶を選択せざるを得ない



胎仔腎臟移植 36 週

出生はできるものの合併症のため透析ができない患児へ移植



赤ちゃんが授かる

コンセンサスの取得ということになります。日本には保守的な考え方の方も多く、「なにかあったらどうするか」という問いに100%の回答が出せない新しい取り組みについてストップをかける傾向があると思います。今回は日本では初めてとなる異種移植であること、自分の意思が言えない胎児への治療であること、またヒトを救うために動物を殺めて良いのかという点などがあり、社会的に容認されるのか世の中に問う必要があります。我々は学会での容認を得るためのシンポジウムの開催だけでなく、生命倫理の専門家を招いての公聴会や市民公開講座を企画し丁寧の説明して多くの方の同意を得たいと考えています。その一環として、例年行なっている本学と上智大学のジョイントセミナーを2024年度は市民公開講座として、上智大学の生命倫理、看護学の専門家の先生方や先述の和田先生にもご登壇いただき議論を深めたいと考えています。10月20日に本学2号館講堂で行われるこの市民

公開講座には、曄道佳明上智大学学長、松藤千弥本学学長にもご参画いただく予定となっています。ぜひ興味のある先生方にはご参加いただくとともに、このような会があることを身近な人たちにお伝えいただけますでしょうか。

■ 最後に

我々の本道である再生医療研究のゴールは成人の腎不全患者さんに適応できる再生臓器提供になります。しかし一足飛びにはいきません。その前にポッター症候群の赤ちゃんを救うことを先行させたいと思い臨床研究を計画しています(図2)。そこで得られる知見や社会の認知度上昇が発展することは、直接的に再生医療研究に応用できると考えています。ぜひとも「世界初慈恵発」の治療法開発にご理解ご協力いただければ幸いです。



2023年7月10日、エジプトのカイロで行ったWEOの教育コース（北アフリカと中東諸国のドクターが約200名参加）。



2023年11月にアラブ首長国連邦ドバイで開催された消化器病学会で撮影した中東諸国役員。真っ白のワンピース状のすっぽりとした服（カンドーラ）を着ていますが、病院や学会場でも背広の代わりの正装です。



内視鏡の遠隔トレーニング。米国ニューヨークとアフリカ・ウガンダの病院を中継した遠隔トレーニングの光景。



2024年5月20日ワシントンDCで開催された米国消化器病学会で、WEOとアメリカ消化器内視鏡学会の合同シンポジウム「発展途上国に対する教育」の司会と演者。アジア、南アメリカ、アフリカ、欧州、米国の代表がそれぞれの立場で発表して議論しました。

巻頭特集

2

世界内視鏡学会(WEO)の活動と今後の展望



東京慈恵会医科大学名誉教授
世界内視鏡学会(WEO)理事長

田尻 久雄

WEOの前身は、国際内視鏡学会(International Society of Endoscopy : ISE)であり、1966年に設立されました。1974年第3回ISEの時に名称がOMED(the Society of Organization Mondiale d'Endoscopie Digestive)となり、さらに2010年OMEDの名称を英語表記“World Endoscopy Organization”(WEO)に変更して今日に至っています。2017年からWEOとしての国際学会を新たにスタートしました(内視鏡の英文Endoscopyを略して、ENDOと称しています)。第1回世界内視鏡学会であるENDO 2017はインド、第2回ENDO 2020はブラジル、第3回ENDO 2022は日本(京都)、第4回世界内視鏡学会(ENDO 2024)は、私自身が会長として、7月4日から6日に韓国ソウルで開催いたしました。第5回ENDO 2026は、南アフリカ連邦のケープタウンで開催を予定しています。私は、2019年1月のA-PSDE(アジア太平洋消化器内視鏡学会)役員選挙でWEO President(理事長)に推薦され、2019年5月のWEO役員会議で正式に承認されました。2020年3

月からWEO President-elect(次期理事長)として役員会議に入り、2022年5月からWEO Presidentを務めています。

WEOの目標・使命は、内視鏡教育・トレーニング活動を通じて安全で質の高い内視鏡医療を世界中に提供することであり、世界的なネットワークを活用した国際的な学術研究活動を推進しています。WEOには、教育委員会、大腸がんスクリーニング委員会、研究促進委員会、Artificial Intelligence(AI)委員会などを含めて、15の委員会(7つの常設委員会、8つの特別委員会)がそれぞれの業務を遂行しており、毎週世界中のどこかで、WEO主催の教育講演会・実技コースが行われています。

Outreach委員会は、発展途上国の病院と提携した教育を促進しており、東南アジア、南米への教育トレーニング活動を行ってきましたが、最近では、アフリカの内視鏡教育とトレーニング活動に精力的に取り組んでいます。今年度から、インドの拠点病院と提携して、アフリカのドクターに対するトレーニングコースを実施しています。インドが選ばれた理由は、英語圏であること、アフリカ大陸と地理的に近いこと、インドの拠点病院の内視鏡レベルが先進国と同様に高いこと、トレーニングを受けるドクターにとって、欧州に比べて宿泊代

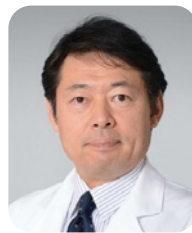
を含めた生活費が安いなど、諸条件が整っているためです。私は、長年、A-PSDEの副理事長・教育委員会委員長として、中国、タイ、ベトナム、インドネシア、カンボジア、モンゴルなどのアジア諸国の教育トレーニングコースを数多く経験してきました。しかし、中東・アフリカでの事業への取り組みは、私にとって未知の領域であり、チャレンジでありました。アフリカ諸国の内視鏡医療を視察してきた経験では、多くの患者とニーズがあることは明らかでしたが、実際には消化器内視鏡機器・検査が十分に運用されていないのが現状です。古い伝統・政治・管理体制、トレーニング機会や機器不足などの問題があり、教育トレーニング活動を展開していくための資金も不足しています。これらの問題を少しでも打破するため、アフリカにおける内視鏡の“遠隔トレーニング”の運用を始めています。このような試みを実現していくためには、経験豊かな多くの指導医が必要であり、60歳～65歳代以降で現役を引退した医師に活動へ参加いただき、双方にとって有意義となるための具体的方法について、協議を重ねています。一方、ロシア・ウクライナ戦争(ロシアによるウクライナ侵略)を機に、世界は一段と分断の道を進み、様々なところで対立が深まっています。イスラエル・ハマス戦争、イランの経済制裁(関連したWEO年会費未払い)など政治

的な問題は、WEOの運営にも影響を及ぼしています。また、台湾海峡を巡る周辺国との関係は複雑で、対応を間違えると紛争の渦に巻き込まれる可能性をはらんでおり、日々苦慮しています。

世界的な観点からも内視鏡教育とトレーニング活動は、今後も重要な課題であり、WEOは発展途上国において、多くの体験型のハンズオンコースを通じて、講義や実技のみならず、動物モデルやシミュレーターの活用などを駆使した教育活動に取り組んできました。それらの活動は、各地域の学会・研究会との関係も大切にしており、現地に適したトレーニングプログラムを発展させるように工夫も重ねています。また、世界的なコロナ感染の経験をもとに進んできたウェビナーやE-learningを今後も積極的に取り入れてくと同時に遠隔トレーニングも展開していくべきだと考えています。先進国や各地域の優れた点を探して、それらをいかにそれぞれの国や学会に導入していくかを創意工夫して、世界的レベルでの内視鏡医療の普及とさらなる発展のための支援と協力を続けていきたいと考えています。新興国・発展途上国は、それぞれの国の経済発展とともに、医療の急速な改善を目指しています。このような国々において日本の消化器病医・内視鏡医の技術指導による貢献が期待されています。

Ongoing 01 教育

救急医学講座 講座担当教授
武田 聡



文部科学省 大学教育再生戦略推進費

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

地方と都市の地域特性を補完して
地域枠と連動しながら広がる
医師養成モデル事業

～KANEHIROプログラム：病気を診ずして病人を診よ～



事業の概要

本事業は、宮崎大学と、宮崎県高岡町出身の高木兼寛先生を学祖とする東京慈恵会医科大学の間で締結された大学間包括的連携協定を基盤に、令和4年度入学学生選抜から地域枠を拡充した宮崎大学が代表校を、東京慈恵会医科大学がそれを支援する連携校を、務めている。両校には、年間7000万円7年間、の支援が予定されている。

新たに展開する今回の「KANEHIROプログラム」で

は、地域医療や多職種連携に関する講座型科目を拡充し、実習型科目の診療参加型臨床実習に地域医療、救急医療、総合診療、感染症に重点をおく専門コースを新設する。地方と都市の異なる地域特性を補完する単位互換制の交換実習を実施し、オンデマンド教材やVR・シミュレーションによる領域横断的な教育も展開していく。

地域枠と連動しながら、新たな時代の多様な医療ニーズに応え、診療にあたる地域を問わずに適切な医療を実践できる医師を養成し、地方が抱える医師不足や医師偏在の解消に資する教育モデルの確立を目指す。

事業の詳細

高木兼寛先生が提唱した「病気を診ずして病人を診よ」の精神は、「医学的力量のみならず、人間的力量をも兼ね備えた医師の養成」に向けた思いが凝縮されたものであり、本事業で新たに確立する教育プログラム・コースの基本理念となる。

コース選択制診療参加型臨床実習では、地域医療、救急医療、総合診療、感染症に重点をおいた6つの専門コースを新設し、地方の宮崎大学と都市部の東京慈恵会医科大学で異なる地域の構造や特性、医療ニーズを互いに補完し、単位互換制に基づいて学生を交換する診療参加型臨床実習を展開する。

特に東京慈恵会医科大学側の専門コースは、現時点でもほぼ毎月、宮崎大学からの医学生を1ヶ月間ずつ救急部で受け入れているが、慈恵大学病院救急部の特徴である「ER型救急」で総合医の育成を目指しているのを活かして、東京で経験できる救急医療、総合診療、感染症を総合的に学べる診療参加型臨床実習を開始する。

逆に、宮崎大学側の専門コースでは、宮崎県児湯郡都農町の連携協定に基づく「長期滞在型地域包括ケア実践コース」は、3ヶ月間にわたり都農町に滞在し、都農町国民健康保険病院で地域包括ケアを学ぶ、先駆的な取り組みを提供する。

さらに遠隔・オンラインで実施する「VR・シミュレーション実習」は、東京慈恵会医科大学が開発を担当し、宮崎大学や宮崎県内各地の臨床現場・教育現場とオンラインで結びながら、臨床現場に繋がる教育手法を導入する大学連携に基づく新たな取り組みとして注目されている。宮崎県内各地の実習施設と宮崎大学や東京慈恵会医



科大学をオンラインで結びながら、遠隔・オンラインでの実習の実践を計る予定である。



この他、講座型科目、実習型科目を中心に、セミナー形式で実施する教育内容も含めたオンデマンド教材の共同製作/共同利用は、時間や場所に制約されず、繰り返し学習できる、「ポストコロナ時代の医療人材育成」に適応した受講環境を整備する予定である。

今後の展開

本事業ではこれまでの宮崎大学と東京慈恵会医科大学の連携実績をもとに、地方と都市で異なる地域の構造や特性、医療ニーズを互いに補完し合う教育プログラム・コースの確立を目指している。令和4年度から始まったこの「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」～KANEHIROプログラム：病気を診ずして病人を診よ～も、3年目となる。最初の2年で機材や体制の整備を行ってきたが、いよいよ今年からは臨床現場での医療人材の養成に注力する、次なるフェーズに入ったと考えている。さらなる事業の充実を目指して邁進していきたい。

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

令和4年度予算額

8億円
(新規)



課題・背景

- 新型コロナウイルス感染症を契機に、医療人に求められる資質・能力が大きく変化。
- 高齢化の進展による医療ニーズの多様化や地域医療の維持の問題が顕在化。
- 高度医療の浸透や地域構造の変化（総合診療医の需要の高まり、難治性疾患の初期診断・緩和ケアの重要性等）により、従来の医師養成課程では対応できていない領域が発生、新時代に適応可能な医療人材の養成が必要。

事業内容

- 医療ニーズを踏まえた地域医療等に関する教育プログラムを構築・実施
 - ◆地域ニーズの高い複数分野（総合診療、救急医療、感染症等）を有機的に結合させ横断的に学ぶことのできる教育の実施により、地域医療のリーダーとなる人材の育成。
 - ◆地域医療機関での実習等を通じて、
 - ①地域の課題を踏まえた教育研究の実現や地域医療への関心を涵養
 - ②専門に閉じない未分化・境界領域への対応力を涵養
 - ◆オンデマンド教材等の教育コンテンツの開発
- 社会環境の変化に対応できる資質・能力を備えた医療人材養成のための教育プログラムの開発及び教育・研究拠点の形成
 - ◆地域の病院と大学病院の双方を連携・地域医療の課題を理解
 - ◆オンデマンド教育の充実

政策提言（経済財政運営と改革の基本方針2021）

第3章 感染症で顕在化した課題を克服する経済・財政一体改革

(1)感染症を機に進める新たな仕組みの構築

(略)あわせて、今般の感染症対応の検証や(略)潜在看護師の復職に係る課題分析及び解消、**医学部などの大学における医療人材養成課程の見直しや医師偏在対策の推進**などにより、質が高く効率的で持続可能な医療提供体制の整備を進める。



プライマリ・ケアの意義を可視化するヘルスサービス研究

背景

ヘルスサービス研究は、社会的要因、制度、組織の構造・プロセス、医療技術などが、医療へのアクセス、医療の質やコスト、ひいては人々の健康やウェルビーイングに及ぼす影響を解明する学際的な研究分野です。ヘルスサービス研究の成果は、医療の提供方式や医療政策の方向性を検討する上で活用されています。

今般、COVID-19パンデミックをきっかけに、身近で何でも相談できる総合的な医療（プライマリ・ケア）とともに、それを担うかかりつけ医や総合診療医に注目が集まっています。医療制度議論においても、かかりつけ医機能の強化が重要な論点になっている一方で、プライマリ・ケアが、住民に提供される医療の質や健康アウトカムにどのような影響を及ぼすかについては、これまで我が国での科学的な検証は行われていませんでした。

そこで我々の研究チームは、プライマリ・ケアに関する全国的な調査研究（National Usual Source of Care Survey:NUCS）を2021年から実施し、プライマリ・ケアやかかりつけ医の意義を可視化するヘルスサービス研究の成果を発信しています。

プライマリ・ケア機能とは

プライマリ・ケアは、それを特徴づける機能（我が国ではかかりつけ医機能とも呼ばれます）によって定義され、その主な構成要素として、近接性（医療システムの入口としてのアクセスの担保）、継続性（長期的な全人的関係に基づくケア）、包括性（幅広い医療サービスの

提供）、協調性（他の医療機関や介護サービス提供者などとの連携）、地域志向性（在宅医療や地域への積極的な参画）が挙げられます。我々の研究チームは、これらの機能を評価するツールとして、すでに信頼性・妥当性が検証されているJapanese version of Primary Care Assessment Tool (JPCAT)を用いて、研究を実施しています。

プライマリ・ケア機能と 予防医療の質との関連

本研究は、コロナ禍の2021年に実施したNUCSのベースライン調査に基づく研究です。コロナ禍での受診控えによって、検診など予防医療の質低下が課題になったことを鑑み、プライマリ・ケア機能と住民に提供される予防医療の質との関連を検証することを目的に実施しました。主要評価項目として、科学的根拠に基づき、計14項目の予防医療を選定しました。具体的には、スクリーニング（癌、生活習慣病、うつ症状など）、予防接種（インフルエンザウィルスワクチン、肺炎球菌ワクチンなど）、カウンセリング（減酒、禁煙、減量）の実施を評価しました。各住民の属性に応じて、推奨される予防医療の項目を同定し、そのうち実際に提供された割合（%）を質指標として算出しました。統計解析では、住民をかかりつけ医あり群・なし群、かかりつけ医あり群をさらにJPCATスコアで四分位群に分けて、予防医療の質指標を比較しました。比較を行う際には、多変量解析を用いて、住民属性の影響を統計学的に調整しました。1,757人が解析対象者となり、結果として、かかりつけ医を持つ住民は予防医療の実施割合が高く、特に

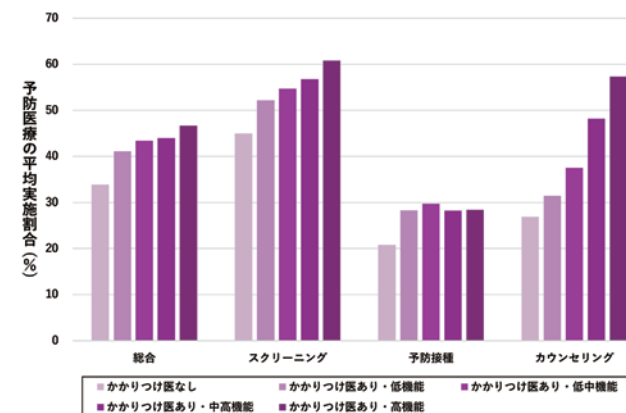


図1. プライマリ・ケア機能と予防医療の質指標との関連

プライマリ・ケア機能が高い（JPCATスコアが高い）かかりつけ医を持つ住民には、質の高い予防医療が提供されていることが明らかになりました（図1）。

プライマリ・ケア機能と 入院リスクとの関連

続いて本研究は、2021～2022年に実施した前向きコホート研究であり、パンデミック下におけるプライマリ・ケア機能と総入院リスクとの関連の検証を目的としたものです。追跡期間の12ヶ月間における入院の発生を主要評価項目に設定し、同様の多変量解析を実施しました。1,161人が解析対象者となり、同じく住民属性の影響を統計学的に調整した結果、かかりつけ医を持つ住民はコロナ禍での入院リスクが低く、中でもプライマリ・ケア機能が高いかかりつけ医を持つ住民ほど、入院リスクが低下することが検証されました（図2）。

応用・展開

これらの研究成果は、かかりつけ医機能の強化や総合診療医の育成をはじめ、プライマリ・ケアの強化を政策的に推進する上でのエビデンスを提供するものです。2023年の通常国会で、かかりつけ医機能が発揮される制度整備などを含む「全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律」が成立しましたが、その国会審議の場でも我々の研究成果が取り上げられました。

また、これらの成果を含む研究課題「COVID-19パンデミックにおける住民の受療行動とその要因の解明」

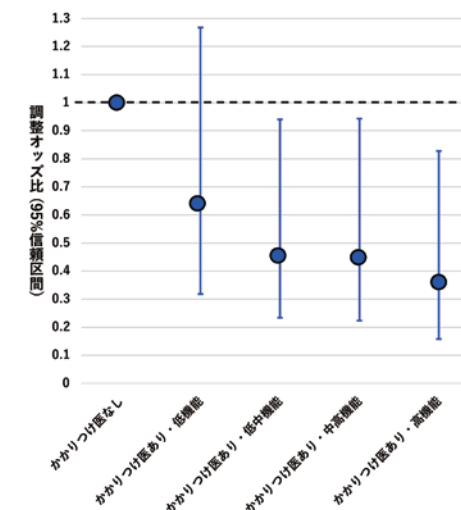


図2. プライマリ・ケア機能と総入院との関連
多重ロジスティック回帰分析、調整変数：年齢、性別、教育歴、慢性疾患、健康関連QOL

は、第31回日本医学会総会で奨励賞（社会医学系）を受賞しました。

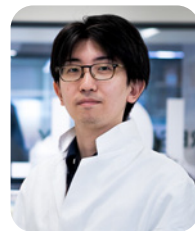
プライマリ・ケアは、本学の建学の精神である「病気を診ずして病人を診よ」を体現する全人的な医療であり、またその重要性は超高齢社会を迎えた我が国において益々高まっています。今後も医療提供方式や医療政策の検討に資するエビデンスをさらに発信していきたいと考えています。

当研究部の取り組み

当研究部では、松島雅人教授のご指導のもと、疫学研究やヘルスサービス研究に加え、行動科学研究、社会疫学研究など、幅広い研究課題に取り組んでいます。また教育活動として、医学部生を対象にしたEvidence-Based Medicine (EBM)、プライマリ・ケア、健康の社会的決定要因の教育、大学院生を対象にした疫学、生物統計学の教育、さらに地域医療に従事する、あるいは将来従事する予定の学内外の医師を対象にした「プライマリケアのための臨床研究者育成プログラム」を提供しています。今後もプライマリ・ケア、総合診療領域のエビデンス構築や医学教育を通して、本学と日本の医療の発展に貢献できるよう尽力致します。

参考文献

1. Aoki T, Fujinuma Y, Matsushima M. Usual source of primary care and preventive care measures in the COVID-19 pandemic: a nationwide cross-sectional study in Japan. BMJ Open. 2022;12:e057418.
2. Aoki T, Sugiyama Y, Mutai R, Matsushima M. Impact of Primary Care Attributes on Hospitalization During the COVID-19 Pandemic: A Nationwide Prospective Cohort Study in Japan. Ann Fam Med. 2023;21(1):27-32.



難治性呼吸器疾患克服を目指した、 ヒト肺検体のシングルセル解析技術による病態解明

はじめに

呼吸器内科では、呼吸器外科の協力のもと肺切除術を受けた患者の摘出肺の正常部位を研究利用し、ヒト肺検体を用いた病態研究を行っています。従来は肺組織全体をすりつぶしてRNAシーケンス解析を行い、肺全体の遺伝子発現を平均して解析しておりました。しかし近年の技術革新により、「シングルセル解析」と呼ばれる1つ1つの細胞毎の網羅的なRNA発現解析が可能になりました。ヒト肺は、上皮細胞、免疫細胞、間葉細胞、血管内皮細胞など50種類以上の多種多様な細胞が存在すると言われており、シングルセル解析技術により新たな知見が明らかになってきています。我々はヒト胎児、小児、成人、高齢者までヒトの生涯にわたる貴重な肺検体を用いたシングルセル解析を行っています(図1)。その研究成果はNatureやScience Immunologyなどの国際科学誌に掲載され(文献1・2・3)、将来的には肺の細胞老化の抑制や再生による治療の創出を目指しています。

ヒト胎児の肺における 免疫細胞の発生・成熟と、 免疫応答以外の新たな役割を解明

気道は直接外界と接し周囲の環境中の汚染物質や感染に晒されており、出生後は気道の生体防御機構により、内部環境の恒常性が維持されています。気道に常在する免疫細胞が担う免疫システムは、生体の主要な粘膜免疫機構の1つです。ヒト胎児肺の発生の過程で、肺に常在する免疫細胞系が確立され、生涯にわたる免疫システムの基盤が構築されます。しかしヒト胎児において免疫システムがどのように発生・成熟し、臓器の発育や再生に関与しているかは十分に解明されていませんでした。そこで本研究では胎生5週から22

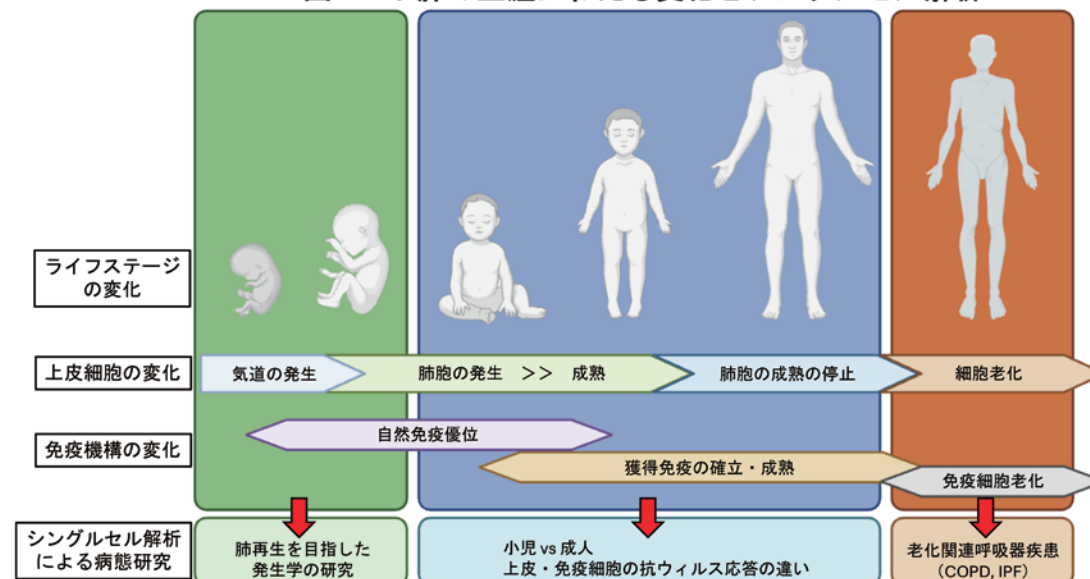
週までのヒト胎児肺の免疫細胞77,559 個のシングルセル解析を行い、各発生段階での免疫細胞を詳細にプロファイリングしました(文献2)。その結果、従来骨髄などの胎児造血器官で成熟と考えられていたB細胞リンパ球が肺内の微小環境で成熟することが世界で初めて明らかになりました。またマクロファージや樹状細胞は、発生中の気道の先端に位置する幹細胞の近傍に存在し、IL-1 β などのサイトカインを分泌することで、気道上皮の構築に関与することが明らかになりました。

以上の結果は、発育中の胎児の肺組織と免疫細胞との共生関係があることを示しています。一部の免疫細胞は肺組織を発育のための微小環境として利用し、出生時における病原体への応答に備える一方、他の免疫細胞は肺組織を形作るのに役立っています。免疫細胞が発育中の肺内の組織構築に影響を与える可能性があることを知ることは、免疫細胞を用いた臓器再生医療の可能性を開くものと期待されます。

小児COVID-19は なぜ成人に比較して重症化しにくいのか、 ヒト上気道の臨床検体を用いて 免疫機構の違いを解明

小児の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の臨床症状は、成人と比較して一般的に軽度であることが知られています。実際、小児の重症化リスクは当初考えられていたものよりも低く、100万人あたりの死亡者数は2人程度と報告されました。しかし小児と成人で異なる臨床経過を呈する分子的背景は十分に解明されていませんでした。本研究はSARS-CoV-2感染に対する小児特異的な応答を明らかにするために、新生児から老年期までの健常対照者と、無症候性から重症例までを含んだCOVID-19患者(93例)より鼻腔、気管支および血液サンプルを収集し、シングルセル解析技術を用

図1.ヒト肺の生涯にわたる変化とシングルセル解析



いて659,271個の細胞の遺伝子発現を詳細に解析しました(文献1)。SARS-CoV-2ウイルスはヒトの鼻腔の気道上皮細胞に感染し、体内に侵入しますが、小児の鼻腔(感染局所)では抗ウイルス蛋白であるインターフェロン(IFN)がウイルス感染前より活性化されており、成人に比して感染時に迅速で強力な抗ウイルス応答が生じることが分かりました。対照的に、小児の血液中(全身性)の免疫応答は成人に比べ軽微であることが分かりました。これは小児ではウイルスが鼻腔局所で制御されやすいためと考えられ、過剰な免疫応答による臓器障害(サイトカインストーム)が生じづらいことが示唆されました。さらに小児でも成人でも鼻腔のINF活性が弱い人は、重症化しやすいことも示されました。小児と成人では免疫細胞の構成比率や特徴が異なり、SARS-CoV-2ウイルス感染時に異なる種類の免疫細胞が活性化することも異なる臨床経過を呈する一因と考えられました。

これらの複合的な理由から、なぜ小児のCOVID-19が重症化しにくいのかという臨床的疑問を、1細胞レベルの遺伝子発現解析の結果から世界で初めて明らかにしました。さらに2022-2023年に英国で行われたヒトSARS-CoV-2 Challenge Study の解析にも参加しました。これは健康な成人を対象に行われた治験で、微量のSARS-CoV-2を鼻腔に感染させ、感染前後の免疫応答を詳細に解析したものです(文献3)。これらの解

析結果は次のパンデミックにおける迅速な病態解明、治療法開発の基盤となることが期待されます。

加齢に伴って発症する 難治性呼吸器疾患の病態解明

慢性閉塞性肺疾患(COPD)および特発性肺線維症(IPF)はいずれも加齢が発症危険因子である難治性呼吸器疾患であり、予後を改善させる根本的な治療法は存在しません。我々の研究室では肺を構成する上皮細胞の細胞老化や細胞死が病態形成に関与することを報告してきました(文献4)。さらなる病態解明のため、COPD肺を用いたシングルセルRNA解析(文献5)、IPF肺を用いたシングルセルRNA解析(論文投稿中)を実施し、世界に先駆けて貴重なアジア人の慢性呼吸器疾患のデータを発表、公開しています。

まとめと今後の展望

以上のように貴重なヒト肺検体を用いてシングルセル解析技術を行うことで、新たな知見が明らかになっていきます。特にアジア人のシングルセル解析データは世界的にも貴重であり、臨床医である強みを生かしたトランスレーショナルな研究を慈恵から世界へ発信していきたいと考えています。

参考文献 (*Contributed equally)

1. Yoshida M, Worlock KB, et al. *Nature*. 2022; 602(7896):321-327.
2. Barnes JL, Yoshida M, et al. *Sci Immunol*. 2023; 8(90): eadf9988.
3. Lindeboom RGH, Worlock KB, Dratva LM, Yoshida M, et al. *Nature*. 2024; 631: 189-198.
4. Yoshida M, Minagawa S, Araya J, et al. *Nat Commun*. 2019; 10: 3145.
5. Watanabe N, Fujita Y, et al. *Am J Respir Cell Mol Biol*. 2022; 67(6): 708-719.

Reproductive Well-Beingのために



不妊症看護認定看護師
生殖医療コーディネーター
認定がん・生殖医療ナビゲーター

稲川 早苗

はじめに

生殖医療の進歩により、子どもを持ちたいと考える人々の選択肢が多様化しています。本稿では、生殖医療の現状とReproductive Well-Being(生殖に関する良い状態)について考察します。

生殖補助医療(体外受精や胚移植)の進展

1978年にイギリスで世界初の体外受精児が誕生し、日本でも1983年に初例が誕生しました。その後、国内の体外受精実施件数は急速に増加し、現在は年間約7万人の体外受精児が誕生しています。2022年4月には一部の不妊治療が保険適用となり、体外受精はより身近な医療となりました。また、反復着床不全の治療や着床前遺伝学的検査など治療の幅も拡大しています。しかし、生殖補助医療はたった46年間の歴史しかなく、いまだ長期的な予後については不明確です。

がん・生殖医療の重要性

化学療法や放射線療法などが妊孕性(妊娠する力)に影響を与えることがあり、昨今、がん治療前後に卵子や精子を保存する妊孕性温存療法が注目されています。当院では2014年にがん・生殖カウンセリング外来を設立し、昨年度までに約500人のカウンセリングを実施、そのうち約250人が妊孕性温存療法を受け、約20人ががん治療後に妊娠を試みています。卵子や精子への影響が不可逆的なこともあるため、治療前の十分な説明と選択肢の提示、患者やパートナーの自己決定が非常に重要です。がん医療の発展により5年生存率が上昇傾向にあることから、診断時から治療後のQOLを見据えた支援が大切であると考えます。また、がん治療後に妊娠を目指す場合には、再発リスクも熟慮する必要があります。

プレ・コンセプションケアの拡充

近年、性差なく社会で活躍する時流や晩婚化、出生率低迷を背景に、自治体や企業による妊娠出産支援が広がっています。医学的適応のない個人の希望による卵子凍結もその一例で、東京都では39歳までの女性を対象に助成金支援を開始しました。女性の進学率上昇や女性活躍に関する法整備などにより、今後ますます卵子凍結の需要は高まると予測されます。

Reproductive Well-Beingの追求

現代社会においては、生殖にまつわる選択肢が多様です。生殖医療の進歩により、生殖外来を受診する患者に複数の選択肢を提示できる一方で、そのどれもが拳児を保証するものではありません。そのため、患者は選択に悩まれます。このような状況下では、個々人が持つWell-Beingを基準に、自分の意思で選択をすることが非常に重要だと考えます。人はそれぞれ異なった価値観やWell-Beingの基準を持っており、その基準をもとに自己決定することで、生活の質や自己肯定感の向上、自分にとっての「正解」に近づくのではないかと考えます。

看護師は、患者のニーズを正確に把握し、通院期間のみならず、その先の人生をも視野に入れて支援をすることが求められています。生殖看護の成果は、妊娠や出産だけでなく、患者やパートナー、その家族の長期的な幸福感や充足感、つまりReproductive Well-Beingを追求することにあると考えます。

今後の展望

今後の課題としては、Reproductive Well-Beingの測定方法を検討することが挙げられます。この分野の研究が進むことで、より多くの患者が自分にとって最良の選択をし、長期的な幸福感を得られるようになることを期待しています。

PDCからPDCAへ

第3期大学基準協会の受審を終えて

本学では、学校教育法第109条第2項に基づき、文部科学省により認証された大学基準協会による大学評価(認証評価)を10月30日(月)・31日(火)の2日間にわたり受審し、その結果、大学基準協会が定める基準に適合しているとの認定を受けました。2009年と2016年に続いて今回で3度目の適合認定であり、認定期間は2024年4月1日から2031年3月31日の7年間です。

今回は、評価基準のうち「社会連携・社会貢献」では卓越した水準(S評価)との評価を得ました。また、本学における「屋根瓦方式での教育体制」および「地域連携看護学実践研究センター(JANPセンター)による地域の健康づくりを推進する活動」は高く評価され、大学基準協会のホームページに本学の「長所・特色」として紹介されています。

一方、是正勧告を受けた事項はありませんでしたが、改善課題として1件の指摘を受けました。この課題については関連する委員会での検討を経て改善案を取りまとめ、2024年6月現在、大学基準協会に改善報告を行う準備を進めている段階です。

尚、大学評価(認証評価)における評定と具体的な評価内容は以下の通りです。

■基準別評定一覧表

No	基準	評定結果
1	理念・目的	A
2	内部質保証	A
3	教育研究組織	A
4	教育課程・学習成果	A
5	学生の受け入れ	A
6	教員・教員組織	A
7	学生支援	A
8	教育研究等環境	A
9	社会連携・社会貢献	S
10-(1)	大学運営・財務(大学運営)	A
10-(2)	大学運営・財務(財務)	A

《評定基準》

S: 大学基準に照らして **極めて良好な状態で卓越した水準**にある。
A: 大学基準に照らして **良好な状態で概ね適切**である。
B: 大学基準に照らして **軽度な問題があり、さらなる努力**が求められる。
C: 大学基準に照らして **重度な問題があり、抜本的な改善**が求められる。



東京慈恵会医科大学 学長補佐
学校法人慈恵大学
内部質保証推進委員会委員長
柳澤 裕之

基準1 目的・使命【評定A】

1. 建学の精神(理念)を明確に定め、これを踏まえて大学及び大学院の目的・使命を適切に設定し、学則等に明示している。
2. 将来を見据えた中・長期事業計画を適切に設定し、定期的な点検・評価を行っている。

基準2 内部質保証【評定A】

1. 「内部質保証に関する方針」と「内部質保証推進に関する各種方針」を定め、大学ホームページに公表している。
2. 法人全体の内部質保証に関する体制を整備し、中長期事業計画、単年度事業計画の策定に関する各部署への指示や改善指示を行う組織があり、規程を制定している。
3. 外部評価委員会による大学への提言を改善に役立てている。
4. アセスメントポリシーを教育の充実及び学生の学習成果の向上につなげている。
5. 学校法人慈恵大学内部質保証推進委員会が中心となり点検・評価を定期的に行い、改善・向上に向けた取組を適切に行っている。
6. 内部質保証に係る組織間の関係や役割を明確にした内部質保証システムの概念図とすることが望まれる。
7. 教育、研究、医療、運営、財務に分散しているIRを全学IRとして発展させることが望まれる。

基準3 教育研究組織【評定A】

1. 将来を見据えた教育研究組織の中・長期事業計画を設定している。さらに認証評価の結果を中長期事業計画に反映できるように構成している。

基準4 教育課程・学習成果【評定A】

1. 医学科教育に携わる「屋根瓦方式教育」を実施している。研修医に「レジデントFD」の出席を義務付け、教える意義・スキルの修得を促している。具体的には、学部学生が研修医の指導のもとに、医療現場における診療や福祉を体験することで、低学年次から医師として患者に寄り添う姿勢や診療に要するコミュニケーション能力を高めるとともに、医師としてのロールモデルを学ぶ機会となっている。【長所】
2. 適切な授業形態、授業方法を採用し、学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置を講じている。
3. 学生の学習成果は、卒業生を対象にアンケート調査を行い、適切に把握および評価している。
4. 教育課程及びその内容、方法については、カリキュラム委員会やカリキュラム編成会議を通じて定期的に点検・評価している。
5. 医学研究科看護学専攻修士後期課程の教育課程の編成・実施方針に教育課程の実施に関する基本的な考え方を示していないため、改善が求められる。

基準5 学生の受け入れ【評定A】

1. 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集、入学者選抜、学科・専攻において試験問題の作成を行っている。
2. 収容定員に沿った学生数比率を適切に管理している。
3. 面接試験の多様性を高めるため2021年度からメディカルスタッフがオブザーバーとして参加し、多面的・総合的評価がなされている。

基準6 教員・教員組織【評定A】

1. 大学として求める教員像や各学科・専攻の教員組織の編成に関する方針を適切に定め教員組織を編成している。
2. 教員組織の男女比及び年齢構成は、いずれも概ね適切である。
3. 教員の募集・採用・昇任など人事に関する事項は、明確な規程・基準に基づき行われている。
4. FD活動を実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上に向けた取り組みを行っている。
5. 教員組織の適切性については定期的に点検・評価を行い、改善・向上に向けて取り組んでいる。
6. 女性教授や外国人数員の全体の割合は低水準にあるため、ダイバーシティの推進が望まれる。

基準7 学生支援【評定A】

1. 学生支援に関する方針を大学ホームページに公表しているほか、学生掲示板、eラーニングに掲載し、適切である。
2. 学生支援の体制を整備し、適切に学生支援を行っている。
3. 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行い、改善・向上に向けて取り組んでいる。

基準8 教育研究等環境【評定A】

1. 学生の学習や教員による教育研究活動に関して、環境や条件を整備するための方針を定め、必要な施設及び設備の整備に努めている。
2. 図書館、学術情報サービスを提供するための体制を備えている。
3. 教育研究活動を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っている。
4. 国内外への留学制度や外部競争的研究費の獲得に向けた支援や臨床試験の方法論的教育活動により研究費の獲得、論文の掲載数、プレスリリース、発明の届出・特許出願件数、知的財産の収入などが増加している。
5. 研究倫理を遵守するため、規程や管理組織を整備し、FDの措置を講じ、適切に対応している。
6. 将来を見据えた中・長期事業計画を適切に設定し、定期的な点検・評価を行っている。

基準9 社会連携・社会貢献【評定S】

1. 地域連携看護学実践研究センター(JANPセンター)を中心に、近隣地域の自治体、保健医療福祉施設、地域住民と大学が連携し、地域の健康づくりを推進する活動を展開している。これらの活動は、大学の使命を体現しており、評価できる。【長所】
2. 大学の教育研究成果を社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針を適切に定め明示している。
3. 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、附属病院における診療・産学連携による教育研究成果の社会への還元、さらに、がんプロフェッショナル、アウトリーチ活動、地域社会や学外機関との連携を実施しており、優れた成果を上げている。

基準10(1) 大学運営【評定A】

1. 建学の精神(理念)、大学・大学院の目的・使命に基づき、中・長期の事業計画を実現するために必要な大学運営に関する大学・大学院としての方針を定め、適切な大学運営を行っている。
2. 大学運営を適切かつ効果的に行うために教職員に対し、定期的なFD・SDを行っている。
3. 大学運営の適切性について定期的に点検・評価を行い、また、その結果をもとに改善・向上を図っている。

基準10(2) 財務【評定A】

1. 教育研究活動を安定して遂行するため、2022年度から2027年度までの中・長期事業計画を策定し、利益目標の達成に向けた予算管理を実施している。
2. 外部資金の獲得を推進しており、科学研究費補助金・日本医療研究開発機構研究費補助金(AMED)は採択数・獲得金額ともに増加傾向にある。

最後に、昨年の大学評価の受審にあたっては、関係各位の多大なるご協力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。今回の評価結果を参考として、今後も、本学の質的向上を図るため活動を推進していきますので、引き続きご協力をお願いいたします。

新たな組織の紹介

がんサバイバーシップ・デジタル医療学講座

産学連携教授
内富 庸介



医療の理念を行動に変えるプログラムを、行動科学と患者・市民との共創アプローチにより開発し、現場に社会実装します。

2024年4月1日、東京慈恵会医科大学医学部に産学連携講座として「がんサバイバーシップ・デジタル医療学講座」が開設されました。人生百年時代を迎え、合併症や複数の問題を抱えるがんサバイバーが毎年100万人増加しています。サバイバーシップケアの計画次第では、地域医療・介護提供体制が逼迫する恐れがあります。がんサバイバー個人の価値観や集団としての特性に応じた社会保障体制の精密最適化は、世界の喫緊課題となっています。この課題に対し、患者・市民の声に耳を傾け共に創るアプローチと、行動科学に基づくデジタル技術を活用して解決を図ります。

講座設置に至る道のりを振り返ると、1995年に国立がん研究センター東病院（柏市）精神腫瘍学研究部の創設に携わった経験が出发点です。当時の東病院は、日本で初めて全患者にがん告知を開始した病院であり、緊迫した告知後の患者対応に苦慮していました。医師、看護師、医療スタッフが悩みながら対応し、慈恵医大柏病院精神科の先生方の援助を受けつつ、患者および医療スタッフのストレス対策に取り組み始めました。

がん患者への面談調査を行った結果、がん種に関係なく告知自体が共通の中心的課題であることが明らかになりました。その予防策として、患者が望む医師向けの共感的コ



写真左から、野口研究補助員、内富教授、栗栖助教、長谷川研究補助員

ミュニケーション技術向上を目指す研修プログラム「SHARE-CST」の開発に繋がりました。SHARE-CSTは、医師の共感的コミュニケーション技術を向上させるとともに、患者のストレスも改善し、厚労省の後押しもあって現在までに16万人の医師が修了しています。このプログラムは、日台韓米中の診療ガイドラインや医学教育のコアカリキュラムに採用され、医療現場の人々の行動が変わる瞬間に立ち会うことができました。しかし、コロナ禍により研修は完全に中断してしまいました。

時代が変わっても変えてはいけないうもの、それは患者と医療者間の温かいコミュニケーションです。一方、時代とともに変えていかなければならないもの、それはデジタル技術による医療です。デジタル技術は現在、身内や仲間、遠くの親戚を結ぶ必須

のアイテムとなり、スマホは24時間の伴走者として信頼できるカウンセラーのようになっています。がんサバイバーの高齢化により、がんの疾患だけでなく患者個人の痛みに向き合うケアの重要性が一層増しています。

この度、ご縁をいただいた慈恵医大の理念、高木学祖の言葉「病気を診ずして病人を診よ」が身に染みしています。「理念」を医療者の「行動」に変える活動を、世界水準で、一つでも多く創出していきます。また、行動科学と患者・市民との共創アプローチを応用し、デジタル技術で統合した健康プログラムを社会に実装してきた知識と経験を惜しみなく提供していきます。いつでも気軽に声をかけていただける、オープンな講座を目指します。旧外来（A）棟3階でお待ちしておりますので、お気軽にお声がけください。

新たな組織の紹介

疲労医学講座

産学連携教授
近藤 一博

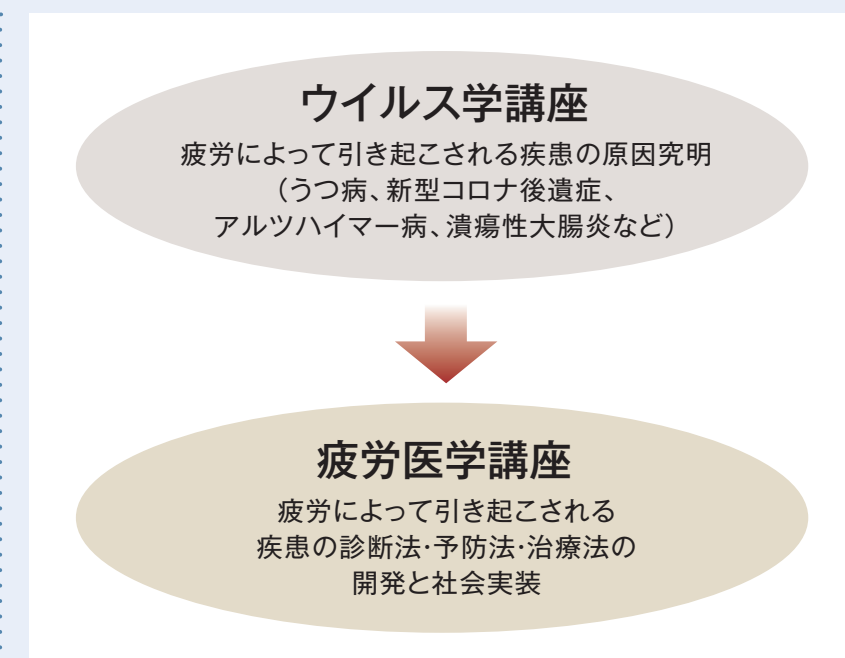


疲労が関係する疾患とウイルスとの関係の基礎研究から、その検査、予防、治療の社会実装をめざす新組織が始まる

2024年4月1日より、産学連携講座「疲労医学講座（Department of Fatigue Science）」が立ち上がりました。本講座の代表である近藤は、本学のウイルス学講座で21年間に渡り、疲労が関係する疾患とウイルスとの関係について主として基礎研究を行って参りました。疲労医学講座は、この基礎研究の成果を利用して、疲労が関係する疾患の検査法、予防法、治療法を開発し、社会実装することを目的としています。

この目的について少し具体的に説明させていただきます。予防法や治療法を開発するためには、薬剤などが作用する標的を同定することが必要です。しかし、例えば疲労やうつ病のメカニズムには不明な点が多く、予防・治療法の標的となる分子が同定されていませんでした。

我々は、まず疲労の分子機構を同定するために、「疲れるとヘルペスという出来物ができる」という現象に注目しました。これは体内に潜伏していたヘルペスウイルスが疲労によって再び活性化（再活性化）することによって生じます。ヘルペスウイルスの一種のヒトヘルペスウイルス6（HHV-6）の再活性化を研究した結果、労働などによって生じる疲労は、タンパク質の産生に関わるeIF2αという因子にリン酸がつくかどうかという単純なメカニズムによって決定されていることが判りました。



このことは、eIF2αが疲労に関する診断や予防・治療の標的となることを示しています。

うつ病のメカニズムもHHV-6の研究から見つけることができました。HHV-6は突発性発疹の原因ウイルスで、100%の人に潜伏感染し、再活性化する際にSITH-1というタンパク質を産生します。このSITH-1タンパク質はストレスを増幅してうつ病を引き起こす作用を持ちます。HHV-6の再活性化はストレスや疲労によって生じるので、人がストレスを受けると、HHV-6が再活性化してSITH-1を産生し、ストレスを増幅することによってうつ病が生じるといわれます。HHV-6は100%の人の体内に潜伏しているのに、ストレスに強い人と弱い人がいるのはおか

しいとお思いの方もおられるかも知れません。我々は、HHV-6にはSITH-1を出しやすい変異を持っているものがHHV-6全体の3割ほど存在し、うつ病患者の多くはこのタイプのHHV-6に感染していることも発見しました。SITH-1を産生しているかどうかは血液検査で知ることができますので、SITH-1を産生している人に対してSITH-1を標的とした予防・治療を行うことで、うつ病の新しい予防・治療ができると考えられます。

疲労医学講座は、このようなウイルスと疲労の基礎研究に基づく疾患の予防・治療法の開発と実用化を目的としています。皆様方には、今後ともご指導ご鞭撻いただけますようお願い申し上げます。



有志共立東京病院から東京慈恵会医院に至る慈善病院が、最後は1,000人近い有志からの寄付によって運営されたことは、高木と渋沢の公利公益の思想が具現化した一大事業でした。

慈恵大学と渋沢栄一

学術情報センター 課長 阿部 信一

渋沢栄一が高木兼寛を敬愛し、その事業を助けるようになったのは、渋沢の大病を高木が二度にわたって治療したことが背景にあったと考えられます。明治期に活躍した渋沢は、戦争のたびに大病するといわれていました。明治27年(1894年)に日清戦争が始まって間もなく、渋沢は「面部」にガンを患い、東京慈恵医院の高木たちが手術を行いました。このとき、多くの医師が再発を恐れる中、高木は根治したことを明言し、渋沢を安心させたと渋沢自身が書き残しています。また、日露戦争が始まった明治37年(1904年)には、渋沢はインフルエンザにかかり、そのため中耳炎になってしまいました。さらには肺炎を併発し、高熱が続き、肺壞疽の初期と診断されるほど悪化しました。皇室から見舞いの品が届けられたり、元の主人の徳川慶喜が病床を見舞うなど、渋沢も死を覚悟するほど重体になりましたが、この時も高木は断固として悲観論を退け、必ず快復することを渋沢に明言しました。ほどなく病気を克服し、渋沢は高木への感謝の思いを深くしたと後に回想しています。高木のこのような姿勢は、自身の医学知識や技術への自信に基づくものであると同時に、「病人を診る」という渋沢に対する思いやりや励まし

の気持ちの表れであったと言えるでしょう。このような渋沢の高木への尊敬と感謝の念は、その後、東京慈恵会の副会長として募金から経営全般にわたる財政基盤確立のための尽力につながります。また、高木と渋沢の強い協力関係には、二人の思想的な共通点も大きく影響していました。高木が診療費をとらない慈善病院である有志共立東京病院をつくったところ、東京には立派な病院がいくつもありましたが、それらは貧しい庶民には近寄りたいたいものでした。高木はある病院の開院式で「これでは金のあるものだけがくる、金儲けのための病院ではないか」と言って周囲を驚かせたと言います。彼は多くの庶民のため

の公利公益の病院を作らなければならないと考えていました。一方、渋沢は「真の事業を営むは私利私欲でなく、すなわち公利公益である。公の利益になることを行えばそれが一家の利益にもなるのである。余の主義はすなわち利己主義でなく公益主義である」と述べています。有志共立東京病院から東京慈恵会医院に至る慈善病院が、医師から華族婦人、皇后陛下、さらに資本家、華族へと時代によって変遷しながら、最後は1,000人近い有志からの寄付によって運営されたことは、高木と渋沢の公利公益の思想が具現化した一大事業でした。

渋沢栄一は、生涯を通じて470もの企業の設立や運営に関与しましたが、支援した公益事業、慈善事業の数はそれを上回る600以上であったと言われています。高木兼寛も、海軍軍医総監としての職責のほか、自らが設立した病院、医学校、看護婦教育所などの運営に尽力し、さらには当時の国民病であった脚気の撲滅にも多大な貢献をしました。高木は脚気の研究を進めるよりも、脚気撲滅のための食事法・栄養学の普及のため、国内だけでなく海外でも講演を重ねました。そのため、脚気の原因

に、ビタミン研究に功績のあった先駆者として南極の半島に「高木岬(Takaki Promontory)」とその名を刻まれました。

渋沢家は太平洋戦争後、一旦はGHQの財閥指定を受けましたが、その後指定を解除された「財なき財閥」でした。渋沢は晩年、子どもたちに「俺がもし一家のためだけに富を積もうと思ったら、岩崎や三井に決して負けはしなかったろうよ」と語っていたと言われています。そのような信念を持った人物を迎え入れることができた東京慈恵会

【参考文献】・松田誠. 東京慈恵会と渋沢栄一. 松田誠. 高木兼寛の医学: 東京慈恵会医科大学の源流. 東京: 東京慈恵会医科大学; 2007. P.787-812.
・渋沢雅英. 高木兼寛先生と渋沢栄一. 東京慈恵会医科大学百三十年史 上巻. 東京: 学校法人慈恵大学; 2011. P.104-5.



精神医学講座
鬼頭 伸輔

120年にわたる講座の歴史と伝統を紡ぎつつ、新規性、多様性を積極的に取り入れながら、精神医学、精神医療をリードできる人材育成に努めてまいります。本学、講座の発展のために尽力する所存です。ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

● 略歴： 1999年 岩手医科大学 卒業
1999年 国立精神・神経センター武蔵病院 精神科
2003年 杏林大学 精神神経科学教室 助手
2008年 杏林大学 精神神経科学教室 講師
2009年 米国ハーバード大学
ベスイスラエルディーコネスメディカルセンター 留学
2015年 国立精神・神経医療研究センター病院 精神診療部 医長
2017年 東京慈恵会医科大学 精神医学講座 准教授
2020年 国立精神・神経医療研究センター病院 精神診療部 部長
2021年 国立精神・神経医療研究センター病院
ニューロモデュレーションセンター センター長
2021年 東京慈恵会医科大学 精神医学講座 客員教授
2024年 東京慈恵会医科大学 精神医学講座 講座担当教授

● 出身地：埼玉県

● 趣味・特技：くらげ採集、料理、ワイン、PMDAとの交渉

2024年4月1日公示

The JIKEI News Flash

慈恵大学で開催された様々なイベントをご紹介します。

2023年12月～2024年5月

12月

令和5年度 医学教育等関係業務 功労者表彰

医学教育等関係業務功労者として
施設課の保科正人さんが表彰されました。

令和5年度医学教育等関係業務功労者の表彰式が、
2023年12月15日文部科学省3階講堂で行われました。

本学からは施設課(慈恵ファシリテーターサービス出向)の保
科正人さん(整備員)が文部科学大臣から表彰されました。



保科さんは34年以上にわたり環境整備等の補助的業
務に関し、顕著な功績があったとして表彰されました。

1月

先端医学推進拠点群・痛み脳科学センターシンポジウム 並びに総合医科学研究センター 神経科学研究部 加藤総夫教授 退任記念講演

シンポジウムに続き、退任された
加藤総夫教授より
退任記念の講演をいただきました。

2024年1月11日(木)、「先端医学推進拠点群・痛み脳科学センターシンポジウム並びに総合医科学研究センター神経科学研究部 加藤総夫教授退任記念講演」が大学1号館講堂にて開催されました。シンポジウムでは鍋倉淳一自然科学研究機構副機構長をはじめ、7名の著名な研究者による講演が行われました。シンポジウムに続き、2023年度に退任された加藤総夫教授(神経科学研究部)より「Jikeiで進めた神経研究～ともに進めた人たち、支えてくれた人たち～」と題して退任記念の講演をいただきました。

シンポジウムおよび講演会は、栗原理事長・松藤学長をはじめ多くの関係者の方々にお集まりいただきました。



1月

第15回上智大学・ 慈恵医大ジョイントシンポジウム開催

2024年1月12日、上智大学四谷キャンパスにて
「プロセスとしての病—移行期支援とパートナーシップ—」
というテーマで開催されました。

2024年1月12日(金)17時より、上智大学四谷キャンパスにおいて第15回上智大学・慈恵医大ジョイントシンポジウムが開催されました。このジョイントシンポジウムは、2001年より開催されており、主に倫理的な課題をテーマに、両大学からの関係者の講演と討論で構成され、毎年開催されています。

今回のテーマは「プロセスとしての病—移行期支援とパートナーシップ—」として、司会を本学の遺伝診療部の川目裕教授と上智大学総合人間科学部看護学科の塚本尚子教授のもと、4名の演者による講演と総合討論が行われました。本学からはリハビリテーション医学講座の中山恭秀准教授より「医療倫理と障害科学の接点～リハビリ

テーション医学の役割」、附属病院遺伝診療部の竹内千仙講師より「移行期医療のナラティブ」という講演があり、上智大学からは「病の体験に意味を見出すプロセスとナースの寄り添い～全体論の立場から～」、「移行期支援における病院地域連携～本人の意向(ACP)をつなぐ～」というそれぞれに深い内容の講演がありました。看護のケアの視点、リハビリテーション医学の視点、遺伝性疾患の移行期医療の視点からの多彩な講演を通じ、病いをその人のプロセスとして捉えること、その文脈での介入のタイミングの難しさ、そして言葉にならないものを含むナラティブの重要性が討論されました。

1月

令和5年度 退任記念講義・退任記念挨拶 並びに退任記念懇親会

名誉教授、同窓生、教職員、学生など250名超が参加し、大いに盛り上がり、退任教授への拍手をもって閉会となりました。

令和6年1月31日(水)、本年3月末日をもって退任される松藤千弥教授(分子生物学講座)による演題「代謝調節に魅せられて」、繁田雅弘教授(精神医学講座)による演題「アルツハイマー型認知症の人との治療的対話:自尊感情の回復を願い絶望に寄り添う」、南沢享教授(細胞生理学講座)による演題「いま、定年を迎えて感じていること」、近藤一博教授(ウイルス学講座)による演題「古くて新しいウイルス学」の退任記念講義が大学1号館講堂(3階)で執り行われました。

退任記念講義の後、同じく定年退任される加藤総夫教授(総合医科学研究センター・神経科学研究部)・小澤隆一教授(人間科学教室・社会科学研究室)・大谷卓也教授(整形外科科学講座)・海渡健教授(臨床検査医学講座)・清川貴子教授(病理学講座)・小林一成教授(リハビリテーション医学講座)・郡司久人教授(眼科学講座)・内山眞幸教授(放射線医学講座)・鳥海弥寿雄教授(外科学講座)・増岡秀一教授(内科学講座・腫瘍・血液内科)・和田靖之教授(小児科学講座)・横山啓太郎教授(大学直属)・二ノ宮邦稔教授(形成外科学講座)・柳澤隆昭教授(脳神経外科学講座)より挨拶があり、竹森重医学科長から永年の大学への貢献に対して感謝の意が表されました。

最後に、大学・同窓会・医学科保護者会・医学科学生会から記念品が贈られ、新旧キャンパスの映像と共に流れた慈恵の歌(学生歌)を斉唱し、退任記念講義は終了となりました。

同日、午後6時30分から会場を東京プリンスホテル2階「プロビデンスホール」に移して、退任記念懇親会が開催されました。名誉教授、同窓生、教職員、学生など250名を超える参加があり、金城雄樹学生部長の開会挨拶の後、退任教授の挨拶、所属部署・学生会・看護学科代表者から花束贈呈が行われました。栗原敏理事長より、退任教授のこれまでの大学発展への貢献に感謝が述べられ、今後の更なる活躍を祈念して、乾杯の発声と共に会がスタートしました。退任教授を囲んで談笑の輪が会場全体に広がり、大いに盛り上がりました。名残を惜しむ多くの声がある中、金城学生部長より閉会の辞が述べられ、退任教授への拍手をもって閉会となりました。



東京慈恵会医科大学・東京理科大学 第7回合同シンポジウムを開催

第一部から第三部までの講演終了後、今後の医理工連携の発展に向けた活発な意見交換が為されました。

2024年2月10日(土)西新橋キャンパス南講堂において、「東京慈恵会医科大学・東京理科大学第7回合同シンポジウム」が開催されました。シンポジウム第一部は「医理工連携成功事例」と題し、クロスアポイントメント教員である藤村宗一郎助教からの報告、第二部「宇宙と防災」では、宇宙航空医学研究室的暮地本宙己講師他2名による宇宙をテーマにした講演の後、防災をテーマにして臨床検査医学講座越智小枝教授、分子疫学研究部浦島充佳教授他1名による講演が行われました。第三部「今後の連携で目指すもの」では、内視鏡医学講座炭山和毅教授より現在進行中の医理工連携研究の紹介があり、すべての講演終了後、今後の医理工連携の発展に向けた活発な意見交換が為されました。

2月

第7回 東京慈恵会医科大学・東京理科大学 合同シンポジウム	
開催日時：2024年2月10日(土) 13:00～18:00 情報交換会18:00～ 会 場：東京慈恵会医科大学 西新橋校 高木2号館南講堂(地下1階) (〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8)	
13:00- オープニングリハーサス	東京慈恵会医科大学 学長 後藤 正樹 先生 東京理科大学 学長 石川 正俊 先生
第一部 【医理工連携成功事例】	
座長 東京理科大学 助教授 生命創薬科学科 後藤 健一 先生	
13:10- 講演1: 東京理科大学 工学部 機械工学科 後藤/東京慈恵会医科大学 先端医療技術研究部 藤村 宗一郎 先生・東京理科大学 工学部 機械工学科 後藤 山本 誠 先生	【藤村/藤村大による脳神経外科手術における医理工連携研究への取り組み】
第二部 【宇宙と防災】	
座長 東京慈恵会医科大学 URAグループ 腎臓・高血圧内科 講師 藤村 真 先生 東京理科大学 中込研学長 総合研究部長 田原 寛 先生	
13:40- 講演2: 東京理科大学 特任助教授 宇宙飛行士 講師 藤村 真 先生	【宇宙飛行士における医学的見地からみた課題】
14:00- 講演3: 東京理科大学 機械工学科 先端医療科学科 後藤 山本 誠 先生	【宇宙飛行士と地上利用のデジタルヘルス技術と人々等が直面する課題】
14:30- 講演4: 東京慈恵会医科大学 臨床生体工学部 先端医療技術研究部 講師 高橋 謙二 先生	【宇宙へのハビタビリティ構築に向けた取り組み】 ～藤村/藤村大による脳神経外科手術における医理工連携研究への取り組み～
15:00- コーヒー・ブレイク	
15:30- 講演5: 東京理科大学 機械工学科 社会基盤工学科 後藤 二風 教授 先生 総合研究部デジタルヘルス・中込研学長 総合研究部長 田原 寛 先生	【マルチハブ・中込研学長 総合研究部長 田原 寛 先生】
16:00- 講演6: 東京慈恵会医科大学 臨床生体工学部 後藤 謙二 先生	【宇宙・防災から見た社会インフラとしての防災】
16:30- 講演7: 東京慈恵会医科大学 分子疫学研究部 後藤 満島 秀俊 先生	【感染症と、自然災害、そして環境衛生】
第三部 【今後の連携で目指すもの】	
座長 東京慈恵会医科大学 URAグループ 腎臓・高血圧内科 講師 藤村 真 先生 東京理科大学 内務総務学部長 主任教授 炭山 和毅 先生	
17:00- 講演8: 東京慈恵会医科大学 内務総務学部長 主任教授 炭山 和毅 先生	【「育七」市内避難所における医理工連携の発展】
17:30- 会終礼	
17:50- クロージングリハーサス	東京慈恵会医科大学 助学員(研究員) 岡部 正樹 先生
18:00- 情報交換会	
問い合わせ先: 東京慈恵会医科大学 大学事務局 研究推進課 URA部門 E-mail:ura@jh.u-tokyo.ac.jp TEL:03-5400-1200 内線2338	

第1269回成医会例会 『ヒトの老いと死について生物学的に考える』 東京大学定量生命科学研究所教授 小林武彦先生

2月



4機関テレビ会議システムのほか、eラーニングを利用した動画配信も実施され、多くの教職員が視聴しました。

2024年2月16日(金)、第1269回成医会例会が、2号館講堂で開催されました。今回は、東京大学定量生命科学研究所の小林武彦氏をお招きし、「ヒトの老いと死について生物学的に考える」と題して、老いの意味、生きる意味についてご講演いただきました。4機関テレビ会議システムのほか、eラーニングを利用した動画配信も実施され、多くの教職員が視聴しました。

3月

報告：能登半島地震への慈恵からの支援 東京慈恵会医科大学 救急医学講座 武田 聡

地震発生直後から情報収集を進め、1月から3月まで継続的に支援に関わらせていただきました。



輪島市門前の避難所での被災現場直接支援

1月1日に発生した能登半島地震では、半年経過した7月1日時点での災害関連死を含む死者数が299人にのぼり、今なお避難所生活を余儀なくされている方々も多くいらっしゃると思います。犠牲となられた方々のご家族に心よりお悔やみ申し上げるとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

本学としても地震発生直後から情報収集を進め、1月から3月まで継



現地で活躍した慈恵大学病院救急車



穴水保健医療福祉調整本部での活動

続的に、厚生労働省災害派遣医療チーム(DMAT)としての石川県庁や七尾市穴水町での本部調整業務だけではなく、慈恵医師会・日本医師会災害医療チーム(JMAT)としても慈恵大学病院の救急車も活用した輪

島市や能登町や穴水町の避難所・高齢者施設での被災現場直接支援にも関わらせていただきましたので、その様子の一部を報告します。少しでもお役に立てたならば幸いに存じます。

3月

令和5年度 医学科・看護学科卒業式

本年度は参列者に制限を設けずに執り行い、会場は600名を超える多くの教職員、同窓、学生、保護者で埋め尽くされました。

令和6年3月7日(木)午後1時30分より、2号館講堂において東京慈恵会医科大学医学部第99回医学科・第29回看護学科卒業式が挙行されました。本年度は参列者に制限を設けずに執り行い、会場は600名を超える多くの教職員、同窓、学生、保護者で埋め尽くされました。はじめに卒業生1人ひとりの氏名が読み上げられ、松藤千弥学長より卒業生を代表して馬場有夢さん(医学科)、長谷川あゆみさん(看護学科)へ卒業証書(学位記)が授与されました。

続いて、慈大賞が香取春菜さん(医学科)、川島舞子さん(看護学科)に、同窓会賞が原田瑠衣さん(医学科)、川村茉奈美さん(看護学科)に、保護者会賞が馬場有夢さん(医学科)、林なつ紀さん(看護学科)に授与されました。

次いで、令和5年度に最も充実した活動を行ったクラブに贈られる樋口一成記念杯が音楽部(文化部門)に授与されました。

その後、松藤学長より式辞を、栗原敏理事長より祝辞をい



ただき、在学生代表の吉川穰司さん(医学科)、石川ほの香さん(看護学科)より送辞が述べられ、卒業生代表の香取春菜さん(医学科)、川島舞子さん(看護学科)より謝辞が述べられました。

終わりに、慈恵の歌「曙満ち来る」を斉唱し、厳かな凛とした空気に包まれ卒業式は閉会しました。



4月

桐朋学園との高大接続協定締結

看護学科として初めての高大接続に関する協定の調印式が、桐朋学園本部仙川キャンパスにて執り行われました。

2024年4月1日付で本学と桐朋高等学校・桐朋女子高等学校は、お互いの教育の活性化を図るために高大連携に関する協定を締結しました。調印式は4月30日に桐朋学園本部仙川キャンパス(調布市)で執り行われました。看護学科として初めての高大接続に関する協定締結となります。これまで両高等学校から本学に進学し卒業した者は137名にのぼり、現役教授3名を筆頭に多くの同窓生が大学および附属病院に従事しています。過去15年以上続けてきた同校生徒を対象としたキャリアパス教育や研究室見学などのアウトリーチ活動だけでなく、今後は教育に関する情報交換や合同研修、医学・看護学に関するワークショップなどを新たに実施して連携を深めて行きます。



4月

2024年度 新入職員就任式

512名の新入職員が、新しい一步を踏み出しました。

2024年4月1日(月)午前10時より2号館講堂において新入職員就任式が挙行されました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染対策を講じての挙行となりましたが、出席した新入職員の表情は一様に晴れやかでした。式典では栗原理事長より告辞を賜り、その内容はテレビ会議システムを用いて各附属病院に配信されました。

当日は期待と緊張の入り混じった雰囲気の中厳かに進められ、512名の新入職員が喜びとともに大きな期待と希望を胸に慈恵大学での第一歩を踏み出す門出となりました。



4月

令和6年度 医学部入学式

今年は2号館講堂にて、合計約600名の参列を得て会場は埋め尽くされ、盛大に挙行することができました。

令和6年4月4日(木)午後2時より、2号館講堂において医学科・看護学科の入学式が執り行われました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、過去4年間は入学式を中止あるいは規模を縮小して開催してきましたが、今年は制限を廃し、入学生と保護者および教職員の合計約600名の参列を得て会場は埋め尽くされ、盛大に挙行することができました。

冒頭、松藤千弥学長より医学科105名、看護学科60名の入学許可が宣言され、入学生を代表して田中優月菜さん(医学科)、堤楓恋さん(看護学科)より宣誓が述べられました。

次いで、松藤千弥学長より告辞を、栗原敏理事長より祝辞をいただき、松藤千弥学長より入学生代表の細金茉弥さん(医学科)、稲田ゆめさん(看護学科)に同窓会・保護者会・大学からの記念品が贈呈されました

その後、心温まる祝電が披露され、終わりに慈恵の歌「曙満ち来る」が流れる中、晴れやかな空気に包まれ入学式は終了しました。



5月

第4回慈恵－Mayo Clinicジョイントシンポジウム開催

本学にて開催され本シンポジウムの在り方などディカッションされました。

2024年5月11日(土)、第4回慈恵-Mayo Clinicジョイントシンポジウムが、本学にて開催されました。

Mayo Clinicからは、本シンポジウムの開催を炭山和毅教授(内視鏡医学講座)とコーディネートされたDr. James S. Newmanのほか、講演者として、Dr. William J. Hogan(血液内科)、Dr. Daniel R. Brown(麻酔科)、Dr. Christopher E. Colby(小児科)の参加がありました。本学からは、金城雄樹教授(細菌学講座)、熱田真人助教(泌尿器科学講座)、山田早彌助教(小児科学講座)の講演がありました。

本シンポジウムの在り方をテーマとしたディスカッションでは、本学においては、Mayo Clinicの教育・研究・診療活動についてより広く理解することにより今後の協力活動の可能性を考え、その内容をシンポジウムに反映させていく必要性が挙げられました。



5月

東京慈恵会医科大学附属病院外来棟が「医療福祉建築賞2023」受賞

「貴学の外来棟は、慈恵大学の皆さんの想いをカタチにされ、それを見事に実現した“新しいカタチの都市型病院”である」とのご講評をいただきました。

2020年に竣工した附属病院外来棟は「医療福祉建築賞2023」を受賞しました。

医療福祉建築賞は、一般社団法人 日本医療福祉建築協会が主催する1991年に創設された顕彰事業で、今年度で33回目となる権威ある賞です。

この賞は、建築の質が高いことに加え、患者さんなどの利用者側、並びに教職員など病院で働くスタッフ側にとって、快適で利便性、機能性に優れていることを条件とし、毎年、竣工後1年以上3年以内の新しい医療福祉施設のなかから選考されます。

今般、附属病院外来棟は、この厳正なる審査の上「中身と器が見事に調和している優秀な医療福祉施設」として認められ、「医療福祉建築賞2023」の栄誉に輝きました。

選考は、日本医療福祉建築協会が構成した選考委員会により、書類審査、現地審査が行われました。選考委員による現地審査の際は、栗原敏理事長、谷口郁夫専務理事から、西新橋キャンパス再整備計画の理念や方針、外来棟のコンセプト及び機能、そして、その実現に至るまでの教職員の取り組みを詳細にご説明いただきました。本学まで足を運ばれた選考委員からは、「貴学の外来棟は、慈恵大学の皆さんの想いをカタチにされ、それを見事に実現した“新しいカタチの都市型病院”である」とのご講評をいただきました。



組みを詳細にご説明いただきました。本学まで足を運ばれた選考委員からは、「貴学の外来棟は、慈恵大学の皆さんの想いをカタチにされ、それを見事に実現した“新しいカタチの都市型病院”である」とのご講評をいただきました。

本年5月15日、表彰式が挙行政され、井田博幸理事が出席し、表彰状、表彰盾が授与されました。今回の受賞は慈恵大学にとって大変、名誉なことであるとともに、教職員の大きな励みになると思われます。

患者さん、行政、地域の自治会の皆様、設計・施工、開院にあたりご協力いただいた関係者の皆様方に改めまして心より深く感謝申し上げます。

一般社団法人 日本医療福祉建築協会
医療福祉建築賞2023表彰式

2024年(令和6年)主な行事予定表(8月～12月)

8月4日(日)	看護学科第2回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
8月5日(月)	医学科第1回オープンキャンパス(2号館講堂)(午後1時)
8月6日(火)	医学科第2回オープンキャンパス(2号館講堂)(午後1時)
8月19日(月)	共用試験CBT(医学科4年生)(4階講堂他)
8月20日(火)	共用試験CBT(医学科4年生)(4階講堂他)
8月24日(土)	診療参加型臨床実習前客観的臨床能力試験(Pre-CC OSCE)(7階実習室・8階演習室他)
9月7日(土)	大学院医学研究科(看護学専攻博士前期課程・博士後期課程)入学試験
9月19日(木)	大学院医学研究科(看護学専攻博士前期課程・博士後期課程)合格発表(午後1時)
9月20日(金)	診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(Post-CC OSCE)(7階実習室・8階演習室他)
9月21日(土)	診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験(Post-CC OSCE)(7階実習室・8階演習室他)
9月30日(月)	慈恵医大夏季セミナー・東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム(大学1号館講堂)
10月5日(土)	同窓会支部長会議・学術連絡会議(午後3時30分から大学2号館講堂)
10月10日(木)	第141回成医会総会
10月11日(金)	第141回成医会総会
10月12日(土)	大学休業日
10月19日(土)	卒後50周年記念大学招待懇親会(昭和49年卒)(午後5時から東京プリンスホテル)
10月21日(月)	第2回学位記授与式(午後2時30分から大学1号館講堂)
10月27日(日)	看護学科第3回オープンキャンパス(看護学科1階大講堂)
10月28日(月)	第120回解剖諸霊位供養法会(午後1時から増上寺)
11月2日(土)	医学科保護者会秋期総会(午後3時40分から2号館講堂)
11月9日(土)	学祖墓参(午後2時30分 2号館前集合)
12月25日(水)	教授・准教授懇談会(午後6時からパレスホテル)

2023年12月から2024年6月までの慈恵大学の各種情報をお伝えします

大学公報

行事

- 令和6年、全機関同時開催(テレビ会議システム)による新年挨拶交歓会を下記の通り行った。

1.日時	令和6年1月4日(木)午後4時より
2.場所	・法人、大学、附属病院 2号館講堂
	・葛飾医療センター 講堂A・B・C
	・附属第三病院 3号館
	3階ホールAB
	・附属柏病院 C棟2階
	G会議室
- 小澤 隆一教授・高橋 衣教授の最終講義を下記の通り行った。

1.日時	令和6年1月20日(土)午後3 時より
2.場所	看護学科1階大講堂
- 松藤 千弥教授、繁田 雅弘教授、南沢 享教授、近藤 一博教授の退任記念講義を下記の通り行った。

1.日時	令和6年1月31日(水)午後2時より
2.場所	大学1号館講堂(3階)
- 第99回医学科 第29回看護学科卒業式が下記の通り挙行された。

1.日時	令和6年3月7日(木)午後1時30分より
2.場所	2号館講堂

大学公報

行事

- 慈恵看護専門学校並びに看護専門学校合同卒業式が下記の通り挙行された。

慈恵看護専門学校	
1.日時	令和6年3月9日(土)午後10時30分より
2.場所	2号館講堂
- 慈恵第三看護専門学校 慈恵柏看護専門学校 合同卒業式

1.日時	令和6年3月9日(土)午後2時より
2.場所	2号館講堂
- 東日本大震災発生十三年となる3月11日における弔意を表する為、次の事が実施された。

1.日時	令和6年3月11日(月)
2.弔旗を掲揚する	
3.午後2時46分を期して黙とう1分間	
- 令和6年度入学式が下記の通り挙行された。

1.日時	令和6年4月4日(木)午後2時より
2.場所	2号館講堂
- 慈恵看護専門学校、慈恵第三看護専門学校、並びに慈恵柏看護専門学校合同入学式が下記の通り挙行された。

1.日時	令和6年4月5日(金)午前10時より
2.場所	2号館講堂
- 6月8日(土)午後3時より大学1号館講堂(3階)に於いて第62回実験動物慰霊祭が執り行われた。

公示

- 2023年12月1日

年末年始の休業を下記の通りとする

令和5年12月29日(金)より

令和6年1月3日(水)まで
- 2023年12月15日

保科正人整備員(法人事務局財務部施設課)は、医学教育等関係業務功労者として文部科学大臣より表彰されました

故 馬詰 良樹名誉教授に次の叙位・叙勲がありました。

叙位	正五位
叙勲	瑞宝中綬章
- 2024年1月1日

三澤 健之氏に、客員教授を委嘱する

青木 拓也講師に、准教授を命ずる
- 2024年1月25日

尾尻 博也教授に、学術情報センター長を命ずる(就任年月日 2024年4月1日)
- 2024年2月1日

藤原 千江子准教授に、客員教授を委嘱する

池田 圭一准教授に、教授を命ずる

加藤 壮紀講師に、准教授を命ずる

宮村 紘平講師に、准教授を命ずる(但し、派遣中)
- 2024年2月22日

池田 圭一教授に、附属第三病院副院長を命ずる(就任年月日 2024年4月1日)

戸谷 直樹教授に、附属柏病院副院長を命ずる(就任年月日 2024年4月1日)
- 2024年3月31日

松藤 千弥教授は、定年により職を解く

繁田 雅弘教授は、定年により職を解く

南沢 享教授は、定年により職を解く

近藤 一博教授は、定年により職を解く

加藤 総夫教授は、定年により職を解く

小澤 隆一教授は、定年により職を解く

大谷 卓也教授は、定年により職を解く

Notice

大学公報

公示

海渡 健教授は、定年により職を解く
清川 貴子教授は、定年により職を解く
小林 一成教授は、定年により職を解く
郡司 久人教授は、定年により職を解く
内山 眞幸教授は、定年により職を解く
鳥海 弥寿雄教授は、定年により職を解く
増岡 秀一教授は、定年により職を解く
和田 靖之教授は、定年により職を解く
横山 啓太郎教授は、定年により職を解く
二ノ宮 邦稔教授は、定年により職を解く
柳澤 隆昭教授は、定年により職を解く
看護学科 高橋 衣教授は、定年により職を解く

● 2024年4月1日

大学 大学院医学研究科 医科学専攻を設置する
大学 産学連携講座 疲労医学講座を設置する
大学 産学連携講座 がんサバイバーシップ・デジタル医療学講座を設置する
藤岡 秀一教授に、客員教授を委嘱する
鬼頭 伸輔氏に、精神医学講座担当教授を命ずる
松藤 千弥氏に、特命教授を命ずる
清川 貴子氏、臨床専任教授を命ずる
(任命期間 2024年4月1日～2027年3月31日)
鳥海 弥寿雄氏に、臨床専任教授を命ずる
(任命期間 2024年4月1日～2027年3月31日)
増岡 秀一氏に、臨床専任教授を命ずる
(任命期間 2024年4月1日～2027年3月31日)
横山 啓太郎氏に、臨床専任教授を命ずる
(任命期間 2024年4月1日～2027年3月31日)
秋元 哲夫氏に、臨床専任教授を命ずる
(任命期間 2024年4月1日～2027年3月31日)
新 智文氏に、教授を命ずる
古田 昭准教授に、教授を命ずる
橋口 正行特任教授に、教授を命ずる
堀野 哲也准教授に、教授を命ずる
麻生 多聞氏に、教授を命ずる
海老原 孝枝氏に、教授を命ずる
(特任期間 2024年4月1日～2025年3月31日)
佐久間 亨准教授に、教授を命ずる
(特任期間 2024年4月1日～2025年3月31日)

鈴木 英明准教授に、教授を命ずる
(特任期間 2024年4月1日～2026年3月31日)
内富 庸介氏に、産学連携教授を命ずる
平野 景太講師に、准教授を命ずる
牛久 智加良講師に、准教授を命ずる
堀口 浩史講師に、准教授を命ずる
池田 亮講師に、准教授を命ずる
野呂 隆彦講師に、准教授を命ずる
高橋 衣氏に、看護学科特任教授を命ずる
(特任期間 2024年4月1日～2025年3月31日)
川目 裕教授に、大学院医学研究科医科学専攻長を命ずる
平野 景太氏に、附属第三病院腎臓・高血圧内科診療部長を命ずる
藤井 英紀氏に、附属第三病院整形外科診療部長を命ずる
海老原 孝枝氏に、附属柏病院総合診療部診療部長を命ずる
堀口 浩史氏に、附属柏病院眼科診療部長を命ずる
佐藤 峻氏に、附属柏病院病院病理部診療部長を命ずる
佐藤 智彦氏に、附属病院輸血・細胞治療部診療部長代行を命ずる
小島 博己氏に、附属病院晴海トリートメントクリニック診療部長代行を命ずる
木村 郁夫氏に、葛飾医療センターリハビリテーション科診療部長代行を命ずる
南波 広行氏に、附属柏病院小児科診療部長代行を命ずる
長谷川 雄紀氏に、附属柏病院リハビリテーション科診療部長代行を命ずる
宮脇 剛司氏に、附属第三病院形成外科診療部長(兼任)を命ずる
西脇 嘉一氏に、附属柏病院輸血部診療部長(兼任)を命ずる
繁田 雅弘氏に、名誉教授の称号を贈る
南沢 享氏に、名誉教授の称号を贈る
小澤 隆一氏に、名誉教授の称号を贈る
加藤 総夫氏に、名誉教授の称号を贈る
和田 靖之氏に、客員教授を委嘱する
大谷 卓也氏に、客員教授を委嘱する
郡司 久人氏に、客員教授を委嘱する

Notice

大学公報

公示

小林 一成氏に、客員教授を委嘱する
海渡 健氏に、客員教授を委嘱する
内山 眞幸氏に、客員教授を委嘱する
鳥田 敏樹氏に、客員教授を委嘱する
中山 次久氏に、客員教授を委嘱する
二ノ宮 邦稔氏に、看護学科特任教授を命ずる
(特任期間 2024年4月1日～2025年3月31日)
鬼頭 伸輔氏に、附属病院精神神経科診療部長を命ずる
近藤 一博氏に、産学連携教授を命ずる
増田 均氏に、連携大学院教授を命ずる

2024年度 互助会役員

会長 谷口 郁夫(専務理事)

役 名	甲種役員(職員側)	乙種役員(大学側)
副会長	滝川 祐(附属病院)	加藤 一人(法人)
幹 事	佐野 真一(附属病院)	川久保 孝(附属病院)
委 員	星 洋輔(大学)	山本 裕康(大学)
〃	大堀 由香利(附属病院)	菊地 譲(法人)
〃	横山 亮(葛飾医療センター)	相曽 好司郎(大学)
〃	高橋 真一(葛飾医療センター)	玉上 淳子(附属病院)
〃	友野 義晴(第三病院)	横山 秀彦(附属病院)
〃	黒田 祐規(第三病院)	伊藤 敬夫(葛飾医療センター)
〃	泉澤 友宏(柏病院)	峰 隆志(第三病院)
〃	鈴木 亮平(柏病院)	相馬 陽一(柏病院)
監 査	山本 律子(附属病院)	濱 裕宣(附属病院)

2024年4月1日現在

職員(管理職)人事を下記の通り命ずる

	等 級	氏 名	辞 令 文		等 級	氏 名	辞 令 文
1	十等級	相曽 好司郎	大学教育センター事務長(兼務)を命ずる	17	七等級	渡部 雅代	八等級に任ずる
2	九等級	小松 一光	十等級に任ずる	18	七等級	内藤 安子	八等級に任ずる
3	九等級	山下 正和	十等級に任ずる				葛飾医療センター看護部主事を命ずる
4	八等級	近藤 きよ美	九等級に任ずる	19	七等級	鈴木 由香	八等級に任ずる
5	八等級	和気 江利子	九等級に任ずる	20	七等級	佐々木 朝麻	八等級に任ずる
6	八等級	中村 豊	附属柏病院管理課課長を命ずる	21	七等級	永倉 健司	八等級に任ずる
7	八等級	勝又 和夫	法人事務局広報課課長を命ずる				附属病院放射線部技師長補佐を命ずる
8	八等級	大亀 和之	法人事務局人事課課長を命ずる	22	七等級	齋藤 亮	八等級に任ずる
			法人事務局ナース就職支援室課長(兼務)を命ずる				附属病院放射線部技師長補佐を命ずる
9	八等級	赤石 和久	大学学事課課長を命ずる	23	七等級	遠藤 智久	八等級に任ずる
10	八等級	加塩 大吾	大学研究推進課課長を命ずる				附属病院臨床工学部技士長補佐を命ずる
11	八等級	並木 佳世	附属柏病院看護部師長を命ずる	24	七等級	原 美砂子	八等級に任ずる
12	八等級	嶋田 裕子	附属柏病院看護部師長を命ずる				附属柏病院中央検査部技師長補佐を命ずる
13	八等級	和田 美恵	附属第三病院看護部師長を命ずる	25	七等級	川崎 基弘	法人事務局秘書課係長(課長業務代行)を命ずる
14	八等級	河合 昭人	附属柏病院中央検査部技師長を命ずる	26	七等級	福田 徹朗	附属第三病院管理課係長(課長業務代行)を命ずる
15	七等級	加邊 隆子	八等級に任ずる	27	七等級	北島 健	慈恵第三看護専門学校事務長を命ずる
16	七等級	中尾 みさ子	八等級に任ずる				

(2024年4月1日)

Notice

大学公報

公示

● 2024年4月17日

5月1日(水)は、本学創立記念日につき、休業とする

● 2024年4月25日

丸毛 啓史氏に、学校法人慈恵大学副理事長を命ずる

(就任年月日 2024年5月1日)

藤原 誠氏に、学校法人慈恵学顧問を委嘱する

(就任年月日 2024年5月1日)

● 2024年5月1日

後藤 恭子准教授に、教授を命ずる

三木 健太講師に、准教授を命ずる

田村 宏美氏に、看護学科臨床准教授を命ずる

● 2024年6月1日

田中 康広氏に、客員教授を委嘱する

加畑 好章講師に、准教授を命ずる

古谷 裕講師に、准教授を命ずる

荒川 泰弘講師に、准教授を命ずる

原 貴敏講師に、准教授を命ずる(但し、派遣中)

学事

● 大学院修了者

2023. 12. 13 下山 雄也 神岡 洋

2023. 12. 27 平石 千佳 角皆 季樹 深澤 寧

2024. 1. 10 笠松 亜由

2024. 1. 24 大戸 亜沙子 松井 賢治

2024. 2. 14 沖野 麻加 内海 智博

2024. 2. 28 高野 靖大 菅野 万規 新村 涼香
市川 晶博

2024. 3. 13 竹下 宏太郎 細谷 聡史
長嶋 大輔 藤本 浩 白石 朋敬
高橋 紘 松井 寛昌

2024. 3. 27 富田 詩織 佐藤 奈保子
平林 源希

2024. 4. 24 茂木 晴彦

● 学位論文通過者

2023. 12. 13 小野 真吾 金森 大輔 宮崎 亮佑

奥田 慶太郎 天谷 美里

2023. 12. 27 平木 那奈 宮崎 絵里佳 亀山 洋

2024. 1. 10 山下 諒 今井 悠

2024. 1. 24 堀内 英華 長谷川 雄紀

2024. 2. 14 渡邊 信之 谷井 一夫

2024. 2. 28 上田 薫 田島 果林

2024. 3. 13 長岡 真人 仲長 奈央子
岡本 敦子 田中 康太 石川 将史

2024. 3. 27 吉賀 真之

2024. 4. 10 中藺 実 山口 知紀

2024. 4. 24 荻原 翔 吉田 拓磨 村山 雄輔

2024. 5. 8 鈴木 隆之

2024. 5. 22 青木 建

Notice

大学公報

訃報

▶レフアー アラン非常勤講師(看護学専攻博士後期課程)は、8月29日逝去されました。

▶前川 喜平名誉教授(小児科学講座)は、10月17日逝去されました。

▶中山 俊憲非常勤講師(熱帯医学講座)は、11月2日逝去されました。

▶同窓会顧問 林 栄太郎先生(昭和30年卒)は、11月23日逝去されました。

▶松葉 健客員教授(整形外科学講座)は、12月1日逝去されました。

▶藏原 惟治元教授(国領校 外国語教室)は、12月3日逝去されました。

▶佐々木 三男客員教授(精神医学講座)は、12月6日逝去されました。

▶磯貝 行秀客員教授(旧第3内科)は、12月17日逝去されました。

▶五味 誠元教授(放射線医学講座)は、12月26日逝去されました。

▶高野 一夫非常勤講師(薬理学講座)は、1月13日逝去されました。

▶小森 亮顧問は、1月20日逝去されました。

▶藤城 敏幸名誉教授(国領校 自然科学教室)は、2月4日逝去されました。

▶大畠 襄客員教授(附属柏病院元院長)は、2月9日逝去されました。

▶松田 誠名誉教授(生化学講座)は、3月23日逝去されました。

▶法橋 建客員教授(内科学講座(総合診療内科))は、5月18日逝去されました。

東京慈恵会公報

● 教職員人事

(慈恵看護専門学校)

2024年4月1日 昇級 7等級・看護教員

伴 美智子 6等級・看護教員

昇級 6等級・看護教員

松澤 亜希子 5等級・看護教員

昇級 5等級・看護教員

平田 依理 4等級・看護教員

転入 5等級・看護教員

門脇 玲子 5等級・附属病院 看護部

転入 4等級・事務員

轟 あゆみ 4等級・附属柏病院 業務課

転出 7等級・看護教員

河野 直美 7等級・慈恵第三看護専門学校

転出 5等級・看護教員

石井 麻子 5等級・附属病院 看護部

新任 3等級・看護教員

中島 暁美

● 行 事

2024年3月 9日(土) 慈恵看護専門学校卒業式が举行された。 卒業生96名

2024年3月12日(火) 東京慈恵会理事会・評議員会・総会が開催された。

2024年4月 5日(火) 慈恵看護専門学校入学式が举行された。 入学生(75期生)96名

財務報告

2023年度(令和5年度)決算

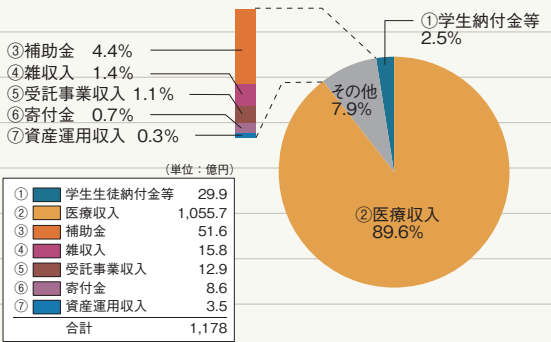
1、はじめに

2023年度は、新型コロナウイルス感染症は5類となりましたが実際の影響は残存し、患者数はコロナ前の水準にまで回復しませんでした。感染対策補助金については、金額は減少しながらも2020年度から続き2023年度も受領いたしましたが、結果として、医療経費の増加やその他の支出も多く2023年度決算の基本金組入前当年度収支差額(利益)は予算に届かず、19期ぶりの赤字となりました。

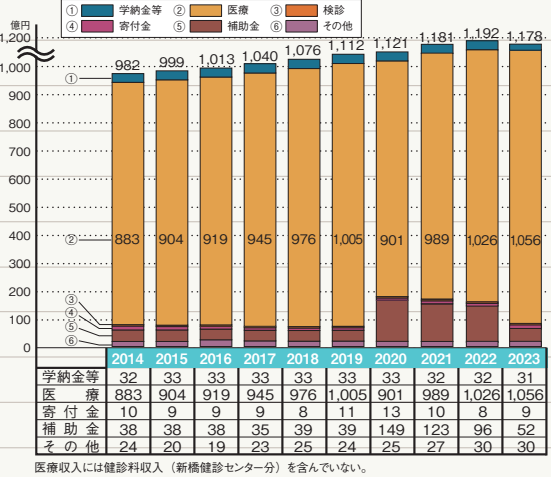
2、資金収支計算書

施設関係支出は53.7億円、設備関係支出は39.1億円でした。施設関係の主な支出は、建物が8億円、土地16億円、第三病院のリニューアルに伴う建設仮勘定29億円

2023年度(令和5年度)事業活動収入の構成



事業活動収入の推移 2014年度(平成26年度)～2023年度(令和5年度)



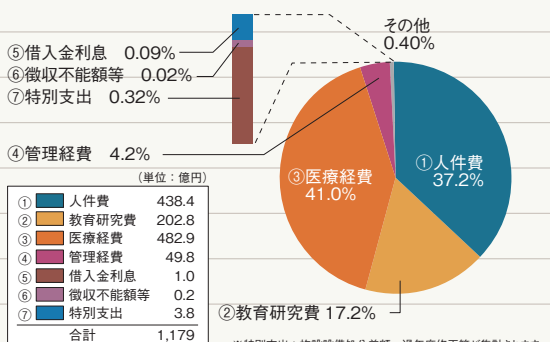
医療収入には健診料収入（新橋健診センター分）を含んでいない。

の支払い、設備関係の主な支出は医療器械14億円、システム関連20億円の支払いでした。また、銀行借入100億円を実施しました。この結果、次年度繰越金は638.0億円と前年度比114億円増加しました。これ以外に本学は有価証券を309億円保有している為、前期末の現金預金有価証券残高は947億円となります。但し、この増加分114億円のはほとんどは2024年度に第三病院のリニューアルに関する支払いに充当されます。

3、事業活動収支計算書

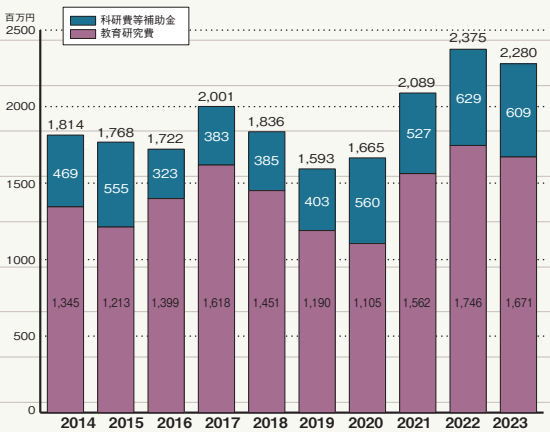
2022年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響が残存し患者数が伸びず、医療収入は1055.7億円(予算比▲49.3億円)、医療収支(医療粗利益)は603.2億円(予算比▲53.5億円)と予算に届きませんでした。一方で、医

2023年度(令和5年度)事業活動支出の構成



※特別支出：施設設備処分差額、過年度修正等が集計されます。

教育研究費の推移 2014年度(平成26年度)～2023年度(令和5年度)



※ここで用いた「教育研究費」とは、各講座・教室等で購入した教員等固定資産に分類されるものも含めた実質的教育研究に供された費用の合計を示している。「科研費等補助金」とは、文部科学省の日本学術振興会、厚生労働省の科学研究費、その他公的機関からの委託研究費等の合計額である。
※2021年度より教育研究予算に合わせて、学術情報センター経費も算入した。

財務報告

療経費は、452.5億円(予算比+4.2億円)と予算を超える水準でした。感染対策補助金については2022年度に続き金額は減少しましたが11億円交付されました。結果、基本金組入前当年度収支差額は▲1.0億円(予算比▲10.7億円)と予算に届かず、赤字となりました。

4、貸借対照表

純資産の増加▲1.0億円は基本金組入前当年度収支差額(利益)です。長期借入金の増加額82.2億円は銀行借入100億円実施の影響であり、流動資産の現金預金の増加、未収入金の減少などになっています。固定資産の内、建物の減価償却費分の減少分32.2億円は、同じ固定資産の土地16.1億円、建設仮勘定の18.5億円の増加分となっており、医療器械9.8億円減少分は教具(システム)7.0億円の増加分となっています。自己資金比率など主要な指標について、全体として健全で安全性の高い内容になっています。

2023年度(令和5年度)事業活動収支計算書

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
教育活動支出		教育活動収入	
人件費	43,836,099,381	学生生徒納付金	2,992,388,000
教育研究経費	68,567,268,951	手数料収入	143,127,000
教育研究経費	20,279,551,129	寄付金収入	820,438,491
医療経費	48,287,717,822	經常費等補助金	5,019,966,629
管理経費	4,984,506,100	事業収入	106,856,625,400
		医療収入	105,568,365,996
		受託事業収入	1,288,259,404
徴収不能額等	24,694,358	雑収入	1,429,345,174
徴収不能引当金繰入額	24,694,358	雑収入	49,166
教育活動支出計	117,412,568,790	教育活動収入計	117,185,890,694
		教育活動収支差額	△ 226,678,096
教育活動外支出		教育活動外収入	
借入金等利息	101,557,769	その他の受取利息・配当金	345,114,566
教育活動外支出計	101,557,769	収益事業収入	8,067,147
		教育活動外収入計	353,181,713
		教育活動外収支差額	251,623,944
特別支出		經常収支差額	24,945,848
資産処分差額	377,347,290	特別収入	
その他の特別支出	0	資産売却差額	0
過年度修正額	0	その他の特別収入	252,023,315
		施設設備寄付金	76,000,000
		現物寄付	35,755,315
		施設設備補助金	140,268,000
		過年度修正額	0
特別支出計	377,347,290	特別収入計	252,023,315
		特別収支差額	△ 125,323,975
基本金組入前当年度収支差額	△ 100,378,127	基本金組入額合計	△ 19,741,693,653
		当年度収支差額	△ 19,842,071,780
		前年度繰越収支差額	△ 53,897,261,349
		基本金取崩額	0
		翌年度繰越収支差額	△ 73,739,333,129

(参考)

令和6年6月文部科学省へ提出

(単位：円)

2023年度(令和5年度)資金収支計算書

自 2023年4月1日
至 2024年3月31日

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費支出	43,786,162,965	学生生徒納付金収入	2,992,388,000
教育研究経費支出	60,309,347,954	手数料収入	143,127,000
教育研究費支出	14,351,406,278	寄付金収入	820,438,491
医療経費支出	45,957,941,676	補助金収入	5,160,234,629
管理経費支出	4,124,358,932	国庫補助金	3,591,241,701
		地方公共団体補助金	1,566,892,928
		その他の補助金	2,100,000
		事業収入	106,864,692,547
		医療収入	105,568,365,996
		受託事業収入	1,288,259,404
		収益事業収入	8,067,147
		受取利息・配当金収入	345,114,566
借入金等支払利息支出	101,557,769	資産売却収入	1,000,000
借入金等返済支出	1,778,570,000	雑収入	1,429,296,008
施設関係支出	5,370,393,135	借入金収入	10,000,000,000
設備関係支出	3,912,333,357	前受金収入	530,775,800
資産運用支出	4,200,000,000	その他の収入	27,325,996,417
その他支出	21,262,746,647	資金収入調整勘定	△ 20,527,625,672
資金支出調整勘定	△ 21,131,439,018	期末未収入金	△ 19,904,566,372
期末未払金	△ 21,131,439,018	前期末前受金	△ 623,059,300
次年度繰越支払資金	63,795,760,866	前年度繰越支払資金	52,424,354,821
支出の部合計	187,509,792,607	収入の部合計	187,509,792,607

令和6年6月文部科学省へ提出

(単位：円)

2023年度(令和5年度)貸借対照表

2024年3月31日現在

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	153,154,496,330	152,082,388,834	1,072,107,496
有形固定資産	120,755,552,269	120,977,794,483	△ 222,242,214
土地	9,049,612,502	7,444,357,987	1,605,254,515
建物	85,746,644,628	88,961,508,124	△ 3,214,863,496
構築物	218,786,251	246,226,555	△ 27,440,304
教育研究用機器備品	19,731,333,352	20,003,494,097	△ 272,160,745
管理用機器備品	1,009,113,730	1,180,002,496	△ 170,888,766
図書	2,842,165,068	2,831,847,320	10,317,748
車両	9,130,664	8,895,996	234,668
建設仮勘定	2,125,604,166	278,300,000	1,847,304,166
放射性同位元素	23,161,908	23,161,908	0
特定資産	1,600,000,000	1,600,000,000	0
退職給付引当資産	1,600,000,000	1,600,000,000	0
その他の固定資産	30,798,944,061	29,504,594,351	1,294,349,710
施設利用権	401,615,013	397,650,978	3,964,035
有価証券	29,853,363,220	28,654,363,220	1,199,000,000
長期貸付金	543,965,828	452,580,153	91,385,675
ソフトウェア	0	0	0
流動資産	86,033,795,516	78,396,990,806	7,636,804,710
現金預金	63,795,760,866	52,424,354,821	11,371,406,045
未収入金	19,778,011,765	21,597,145,471	△ 1,819,133,706
貯蔵品	1,260,236,217	1,214,927,651	45,308,566
有価証券	1,000,000,000	3,000,000,000	△ 2,000,000,000
仮払金	199,786,668	160,562,863	39,223,805
資産の部合計	239,188,291,846	230,479,379,640	8,708,912,206

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	44,170,774,860	36,243,584,186	7,927,190,674
長期借入金	22,589,120,000	14,367,690,000	8,221,430,000
長期未払金	660,094,045	1,004,269,787	△ 344,175,742
退職給付引当金	20,921,560,815	20,871,624,399	49,936,416
流動負債	23,952,149,358	23,070,049,699	882,099,659
短期借入金	1,778,570,000	1,778,570,000	0
未払金	21,119,503,457	20,112,375,944	1,007,127,513
前受金	530,775,800	623,059,300	△ 92,283,500
預り金	522,435,101	554,939,455	△ 32,504,354
保証金	865,000	1,105,000	△ 240,000
負債の部 合計	68,122,924,218	59,313,633,885	8,809,290,333

純資産の部			
基本金	244,804,700,757	225,063,007,104	19,741,693,653
第1号基本金	236,058,503,941	216,679,996,629	19,378,507,312
第4号基本金	8,746,196,816	8,383,010,475	363,186,341
翌年度繰越収支差額	△ 73,739,333,129	△ 53,897,261,349	△ 19,842,071,780
繰越収支差額	△ 73,739,333,129	△ 53,897,261,349	△ 19,842,071,780
純資産の部 合計	171,065,367,628	171,165,745,755	△ 100,378,127
負債及び純資産の部合計	239,188,291,846	230,479,379,640	8,708,912,206

令和6年6月文部科学省へ提出

(単位：円)

Notice

財務報告

2024年度(令和6年度)予算

1. 予算編成方針

・例年は8月の夏季常任理事会で検討された長期資金計画を次年度の予算編成方針としてきたが、昨年度と同様に予算編成方針を変更。4—9月の実績から導かれた10月時点における2023年度の医療収支の着地見込みについて予算比マイナスが大きく、当初の医療収支を663億円から641億円への下方修正を中心とした変更を実施し、11月の常任理事会にて報告。

◎予算編成方針：【当年度収支差額3億円】を目指す。

・尚、コロナの影響について、ポストコロナを前提に補助金はゼロとした。

2. 2024年度予算概要(損益計算書、尚、文中の前年度見込みについては2024年1月時点における見込である。)

(1)事業活動収支計算書(損益計算書)

【収入合計】は1,239億円(前年度見込比+57億円／同比+4.8%)、【支出合計】は1,230億円(前年度見込比+43億円／同比+3.6%)、【当年度収支差額(利益)】は9億円(前年度見込比+14億円)となり、予算編成方針の【当年度収支差額(利益)3億円】を約6億円上回る予算となった。

・予算編成方針を上回った理由は、人件費を始めとした経費が増加する中で、4病院における【医療収支】が662億円(予算編成方針比+21億円/2023年度見込比+51億円)となったことによる。因みに【医療収入】は1,130億円(2023年度見込比+66億円)、【医療経費】は468億円(同比+15億円)、【医療経费率】41.4%(同比▲1.2%)となった。

・但し①【医療収支】において2024年度予算662億円は2023年度見込み611億円を51億円と大きく上回る水準であること、②2024年度予算では【医療経费率】が41.4%を前提としており、2023年度見込み42.6%と乖離していること、には留意が必要である。①について、各病院の予算策定の前提における入院収入増

加が4病院の平均病床稼働率78%程度をベースとしている点から、過去実績など勘案すると実現は可能な水準である。②について、医療経费率は、薬品費の上昇が継続する可能性も否定できず、月次の医療経费率の確認にて医療収入のさらなる増加による医療収支の改善を図るなど対応すること、にて当面は①②ともに数値をフォローしていく。

・【その他経費】では2023年度見込と比較すると、全体で+28億円、内訳は人件費+13億円、消耗品+2億円、委託費+4億円、光熱水費+7億円。教職員補充や物価、資源価格高騰の影響が大きい。

(2)活動区分資金収支計算書(キャッシュフロー計算書)

・施設整備活動資金支出

2024年度の施設整備活動資金支出予算は165億円(前年度見込比+84億円)と、前年度比で大きく増加する予算となっている。主な増加要因は以下の通り。

建設仮勘定98億円(前年度見込比+67億円)：第三病院の本館工事費96億円、建物17億円(同比+7億円)：本院救命救急センターE-ICU6億円、医療器械27億円(同比+13億円)、借入金100億円(同比+100億円)：第三病院リニューアル総工費(含む医療器械など)約300億円に対する一部ファイナンス分、金利動向に留意しタイミングを図る。

・全体の資金繰り

上述の通り、施設整備活動資金支出は減価償却費予算91億円を上回る規模である165億円となるが、いよいよ第三病院のリニューアルに関する支払いが本格化するためである。期末の現預金残高については、今年度見込み521億円から約7億円増加し年度末では528億円程度となる見込み。但し、前述の通り予定している銀行借入100億円を含んだ金額である。

加えて、有価証券は300億円程度の残高を維持する見込であることから、2024年度末の現金・預金・有価証券の合計残高は約828億円となる見込である。

Notice

財務報告

2024年度(令和6年度)事業活動収支予算書				(単位：千円)		自 2024年4月1日 至 2025年3月31日	
支出の部				収入の部			
科目	2023年度(R5)	2024年度(R6)	対前年比較	科目	2023年度(R5)	2024年度(R6)	対前年比較
教育活動支出				教育活動収入			
人件費	44,823,069	45,136,321	313,252	学生生徒納付金	3,059,570	2,987,150	▲72,420
教育研究経費	69,807,574	72,024,821	2,217,247	手数料	137,126	135,255	▲1,871
教育研究経費	22,029,165	22,121,421	92,256	寄付金	817,105	699,498	▲117,607
医療経費	47,778,409	49,903,400	2,124,991	経常費等補助金	4,018,738	3,760,197	▲258,541
管理経費	5,475,554	5,505,050	29,496	付随事業収入	111,750,280	114,482,822	2,732,542
				医療収入	110,497,651	112,975,980	2,478,329
				受託事業収入	1,252,629	1,506,842	254,213
徴収不能額等	34,000	34,000	0	雑収入	1,308,364	1,393,753	85,389
教育活動支出計	120,140,197	122,700,192	2,559,995	教育活動収入計	121,091,183	123,458,675	2,367,492
				教育活動収支差額	950,986	758,483	▲192,503
教育活動外支出				教育活動外収入			
借入金等利息	102,166	193,266	91,100	その他の受取利息・配当金	310,762	327,151	16,389
教育活動外支出計	102,166	193,266	91,100	教育活動外収入計	310,762	327,151	16,389
				教育活動外収支差額	208,596	133,885	▲74,711
				経常収支差額	1,159,582	892,368	▲267,214
特別支出				特別収入			
資産処分差額	365,069	138,640	▲226,429	資産売却差額	0	0	0
その他の特別支出	0	0	0	その他の特別収入	176,306	102,722	▲73,584
				施設設備寄付金	145,000	70,000	▲75,000
				施設設備補助金	31,306	32,722	1,416
特別支出計	365,069	138,640	▲226,429	特別収入計	176,306	102,722	▲73,584
				特別収支差額	▲188,763	▲35,918	152,845
基本金組入前当年度収支差額	970,819	856,450	▲114,369	基本金組入額合計	▲1,697,564	▲3,563,211	▲1,865,647
				当年度収支差額	▲726,745	▲2,706,761	▲1,980,016
				前年度繰越収支差額	▲56,844,084	▲57,738,163	▲3,114,157
				基本金取崩額	0	0	0
				翌年度繰越収支差額	▲57,570,829	▲60,444,924	▲5,094,173
(参考)							
事業活動支出計	120,607,432	123,032,098	2,424,666	事業活動収入計	121,578,251	123,888,548	2,310,297

2024年度(令和6年度)資金収支予算書				(単位：千円)		自 2024年4月1日 至 2025年3月31日	
支出の部				収入の部			
科目	2023年度(R5)	2024年度(R6)	対前年比較	科目	2023年度(R5)	2024年度(R6)	対前年比較
人件費支出	44,692,499	45,483,347	790,848	学生生徒納付金収入	3,059,570	2,987,150	▲72,420
教育研究経費支出	61,464,923	63,746,473	2,281,550	手数料収入	137,126	135,255	▲1,871
教育研究費支出	16,077,819	16,367,595	289,776				
医療経費支出	45,387,104	47,378,878	1,991,774	寄付金収入	962,105	769,498	▲192,607
管理経費支出	4,604,647	4,671,239	66,592	補助金収入	4,050,044	3,792,919	▲257,125
				国庫補助金	3,535,789	3,461,648	▲74,141
				地方公共団体補助金	511,255	327,871	▲183,384
				その他の補助金	3,000	3,400	400
				事業収入	111,750,280	114,482,822	2,732,542
				医療収入	110,497,651	112,975,980	2,478,329
借入金等支払利息支出	102,166	193,266	91,100	受託事業収入	1,252,629	1,506,842	254,213
				受取利息・配当金収入	310,762	327,151	16,389
借入金等返済支出	1,778,570	1,778,570	0	雑収入	1,308,364	1,393,753	85,389
施設関係支出	4,746,991	11,448,464	6,701,473	借入金等収入	0	10,000,000	10,000,000
設備関係支出	4,662,120	5,005,150	343,030	前受金収入	623,059	530,776	▲92,283
資産運用支出	3,000,000	4,500,000	1,500,000	その他の収入	25,444,743	24,905,004	▲539,739
その他支出	20,755,204	2,921,784	▲17,833,420				
[予備費]	700,000	700,000	0				
資金支出調整勘定				資金収入調整勘定	▲20,488,607	▲22,446,442	▲1,957,835
期末未払金	▲18,194,089	▲4,296,204	13,897,885	期末未収入金	▲19,865,548	▲21,915,666	▲2,050,118
				前期末前受金	▲623,059	▲530,776	92,283
次年度繰越支払資金	52,386,617	52,841,790	455,173	前年度繰越支払資金	53,542,202	52,115,993	▲1,426,209
支出の部合計	180,699,648	188,993,879	8,294,231	収入の部合計	180,699,648	188,993,879	8,294,231

補助金・助成金

2023年度
科学研究費助成事業(科研費)交付決定一覧

1.科学研究費助成事業(科研費)交付決定一覧(2022年度、2023年度) (単位：千円)

研究種目	2022年度			2023年度		
	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)
新学術領域研究	1	3,300	990	1	3,400	1,020
基盤研究(A)	0	0	0	0	0	0
基盤研究(B)	25	102,600	30,780	24	83,200	24,960
基盤研究(C)	136	145,300	43,590	142	141,520	41,469
挑戦的研究(萌芽)	7	13,200	3,960	9	22,100	6,630
基盤研究(S)	0	0	0	0	0	0
若手研究	87	89,500	26,850	81	90,678	26,970
研究活動スタート支援	8	8,200	2,460	5	5,000	1,500
特別研究員奨励費	4	3,500	1,050	1	800	0
国際共同研究加速基金 (帰国発展研究)	1	14,400	4,320	1	14,400	4,320
国際共同研究強化(A)	0	0	0	0	0	0
国際共同研究強化(B)	1	4,300	1,290	0	0	0
学術変革領域研究(A)	1	10,600	3,180	1	11,600	3,480
学術変革領域研究(B)	1	11,000	3,300	1	2,000	600
合計	272	405,900	121,770	266	374,698	110,949

2.科学研究費助成事業(科研費)交付決定一覧(新規採択分+継続分) (単位：千円)

研究種目	2023年度(継続分)			2023年度(新規採択分)		
	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)	件数	金額 (直接経費)	金額 (間接経費)
新学術領域研究	1	3,400	1,020	0	0	0
基盤研究(A)	0	0	0	0	0	0
基盤研究(B)	23	79,700	23,910	1	3,500	1,050
基盤研究(C)	105	91,820	26,559	37	49,700	14,910
挑戦的研究(萌芽)	7	16,700	5,010	2	5,400	1,620
基盤研究(S)	0	0	0	0	0	0
若手研究	60	62,478	18,510	21	28,200	8,460
研究活動スタート支援	4	4,400	1,320	1	600	180
特別研究員奨励費	1	800	0	0	0	0
国際共同研究加速基金 (帰国発展研究)	1	14,400	4,320	0	0	0
国際共同研究強化(A)	0	0	0	0	0	0
国際共同研究強化(B)	0	0	0	0	0	0
学術変革領域研究(A)	1	11,600	3,480	0	0	0
学術変革領域研究(B)	1	2,000	600	0	0	0
合計	204	287,298	84,729	62	87,400	26,220

注)①採択件数は、独立基盤形成支援を含み、年度途中の転入者及び転出者は除く。
②延長(基金)、繰越(補助金)、学外分担者を除く。

プレスリリース (2023.12～2024.5)

ホームページでもご覧いただけます
http://www.jikei.ac.jp/jikei/press.html



配信日	タイトル	発信者
2023.12.5	行動タスクに応じて正負の情動価を調節する経路を発見～内的・外的環境による情動価の変容を担う中枢基盤の解明に期待～	臨床医学研究所 渡部文子教授、永瀬将志助教
12.11	脊椎動物が極めて多様な味覚を持つことを発見 旨味と甘味の味覚の起源に迫る	解剖学講座 岡部正隆講座担当教授
12.15	嫌悪学習に伴い扁桃体の2種類の興奮性細胞が異なる抑制性制御を受けることが判明 PTSD等の疾患のメカニズム解明に期待	総合医科学研究センター 臨床医学研究所 森島美絵子特任講師、松村颯大医学科生、渡部文子教授
12.20	ヒト胎児の肺における免疫細胞の発生・成熟と、免疫応答以外の新たな役割を解明 ～世界初、免疫細胞がヒト肺組織の発生を誘導するメカニズムを明らかに～ 呼吸器疾患の病態解明・再生医療への応用に期待	内科学講座(呼吸器内科) 吉田昌弘助教 (University College London 研究員)
12.22	B型肝炎の完治が見込まれる新たな抗ウイルス薬の候補を発見 ―新規の化合物ICDM-34がウイルスゲノムの合成を抑制―	臨床検査医学講座 古谷裕講師、永森收志教授、松浦知和客員教授
2024.1.11	東京慈恵会医科大学とにきびの病態解明を目指す共同研究を開始	皮膚科学講座 出来尾格講師
2.9	Pax3遺伝子の欠失が聴覚に必須なメラノサイトの多様な細胞数減少を引き起こすことを発見 ―ワーデンブルグ症候群の先天性難聴に対する遺伝子治療への応用に期待―	耳鼻咽喉科学講座 宇田川友克講師、高橋恵里沙大学院生、小島博己講座担当教授、解剖学講座 辰巳徳史講師、岡部正隆講座担当教授
2.9	東京慈恵会医科大学 大学院医学研究科 2024年4月、医科学専攻修士課程遺伝カウンセリング学を新たに開設 ～遺伝医学の最新知識と人間性溢れる認定遺伝カウンセラーの育成を目指します～	東京慈恵会医科大学
2.13	うつ病になりやすい体質が遺伝する仕組みを世界で初めて解明 ―メンデル遺伝を覆す新たな遺伝メカニズムの発見―	ウイルス学講座 小林伸行准教授、近藤一博講座担当教授
2.20	抗体産生を促進する機能的iNKT細胞の誘導因子の発見 ～ワクチン特異的抗体産生の誘導機構の解明から期待される感染症の予防戦略～	細菌学講座 金城雄樹講座担当教授、林崎浩史助教、内科学講座(呼吸器内科) 荒屋潤講座担当教授、上井康寛医師
2.28	肝がん予防のための患者層別化マーカーを発見 ―血中MYCNで肝がん再発予防薬の効果を予測―	臨床検査医学講座 越智小枝講座担当教授、古谷裕講師
3.1	パーキンソン病における新規オートファジーの障害を世界で初めて解明 ―エストロゲンの神経保護作用における新規オートファジーの重要性―	再生医学研究部 岡野 James 洋尚教授、内科学講座(脳神経内科) 井口保之講座担当教授、坊野恵子助教、白石朋敬助教(再生医学研究部：大学院生)
3.4	コロナ禍で年間5人に1人が「かかりつけ医」を失うか変更～かかりつけ医定着の鍵を握るのは、プライマリ・ケア機能の強化～	総合医科学研究センター 臨床疫学研究部 青木拓也准教授、瑞慶寛聡太大学院生、松島雅人教授
3.6	2025年度に「東京慈恵会 教務主任養成講習会」を再開します ～2022年度以来の開講 明日の看護教育を担う、質の高い教育管理者(リーダー)を養成～	公益社団法人東京慈恵会
3.22	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 令和6年度「革新的がん医療実用化研究事業」への採択のお知らせ	生化学講座 山田幸司准教授
3.23	光活性化アデニル酸シクラーゼをプレシナプスに局在化させる技術を開発～細胞内シグナル伝達系と神経活動の光操作による可塑性誘導に応用～	臨床医学研究所 渡部文子教授、永瀬将志助教
3.25	トウモロコシ由来化合物で肥満や脂肪肝を改善 ―コーンオリゴペプチドの肥満、脂肪性肝炎抑制効果を発見―	臨床検査医学講座 古谷裕講師
3.28	日本初のスタルガルト病に対する全国13施設によるコホート解析研究 遺伝子治療を見据えた日本人の遺伝学的・臨床的特徴についての解明	眼科学講座 溝渕圭助教、林孝彰教授、中野匡講座担当教授
3.28	LGBTの患者を診療する技能を測定する尺度「日本語版LGBT-DOCSS」を開発 ～医療従事者に対する性の多様性の教育に活用しケアの質向上へ～	総合医科学研究センター 臨床疫学研究部 金久保祐介大学院生、杉山佳史講師、吉田絵理子訪問研究員、青木拓也准教授、松島雅人教授、医学部看護学科 務基理恵子准教授
4.6	光で記憶を操る！新たな技術「光駆動型ホスホリパーゼCβ」を開発 光で細胞の脂質シグナルを自在に操り、記憶形成の強化に成功	臨床医学研究所 渡部文子教授
4.8	ポリマー結合型の新規抗がん剤を研究開発 ―アンスラサイクリン系抗がん剤をがん組織へ選択的に集積・作用―	疼痛制御研究講座 上園保仁教授
4.23	慈恵医大の「iCBiofilm法」を利用した透明化試薬「iCBiofilm-D」を東京 化成工業が発売 ～業界で初めてバイオフィルムを生きたまま瞬時に透明化が可能に～	細菌学講座 杉本真也准教授、金城雄樹講座担当教授

Notice

プレスリリース

配信日	タイトル	発行者
4.24	「多階層的アプローチ」でトランスポーターの隠れた働きを解明 ～腎臓病の早期発見に新たな光～	安定同位体(SI)医学応用研究センター、臨床検査医学講座 Pattama Wiriyasermkul特任講師(現・岩手大学准教授)、 宮坂政紀助教、永森收志教授(SI医学応用研究センター長兼務)
5.7	肺由来のエクソソーム等の細胞からの分泌物に高い抗炎症作用を発見 ～ステロイドに代わる天然成分の治療薬として急性肺傷害に効果～	総合医科学研究センター次世代創薬研究部 藤田雄准教授、 内科学講座(呼吸器内科) 門田幸助教、荒屋潤講座担当教授、 外科学講座(呼吸器外科) 大塚崇講座担当教授
5.10	東京慈恵会医科大学と桐朋高等学校・桐朋女子高等学校は高大連携に 関する協定を締結しました	東京慈恵会医科大学
5.16	水虫が発がんに関与～足白癬とメラノーマの相関を発見～	東京慈恵会医科大学 皮膚科学講座 延山嘉真教授、 脇裕磨助教、中川秀己名誉教授、朝比奈昭彦講座担当教授
5.22	身体運動と発声認知課題を統合した二重課題(デュアルタスク)訓練 は、「身体機能」と「認知機能」の双方を改善する	リハビリテーション医学講座 安保雅博講座担当教授、 中山恭秀准教授

生涯学習・公開セミナー等

慈恵医大生涯学習センター	附属病院(本院)	慈恵医師会
慈恵医大 生涯学習セミナー 月例セミナーと夏季セミナーを開催し、受講者 には「日本医師会生涯教育制度参加証」を交付 します。 月例セミナー ●開催日時 第2土曜日(4月、6月、11月) 16:00～18:00 ●場所 附属病院(本院) 中央棟8階会議室 第268回 月 日 2024年11月9日(土) 時 間 16:00～17:00 テーマ 日常診療における発疹の見方 ～乾癬を含めて～ 演 者 皮膚科 梅澤 慶紀 時 間 17:00～18:00 テーマ アトピー性皮膚炎の最新治療 演 者 皮膚科 出来尾 格 注)一部変更することもあります。 第44回慈恵医大夏季セミナー 東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラム ●日時 2024年9月30日(月) 19:00～20:30 ●テーマ 「日常診療で知っておきたい 他科の知識II」 お問合せ先:生涯学習センター TEL：03-3433-1111(大代表)内線2634	2024年度 みんなの健康教室 “人生100年時代”を謳歌するために ～伸ばそう、健康寿命～ (共催：NHK 放送博物館・東京慈恵会医科大学) ●開催時間 14:00～15:15(開場13:30) ●場所 NHK放送博物館内 第3回 月日 2024年9月21日(土) テーマ 肝臓病は何時でも静かに忍び寄る ～予防の要は健康診断～ 演者 消化器 肝臓内科 石川 智久 先生 (教授/患者支援 医療連携センター センター長) テーマ 生活習慣病を予防するための効果的な運動について 演者 大高 愛子 理学療法士 第4回 月日 2024年11月2日(土) テーマ 知っておきたい心臓病・不整脈や心筋梗塞について 演者 循環器内科 高橋 弘武 先生(助教/診療医員) テーマ 自分のこころやからだの変化に気づいて うまく対処する「セルフモニタリング」とは 演者 中島 麻衣 慢性疾患看護専門看護師 第5回 月日 2025年1月18日(土) テーマ 脳卒中を防ぐために ～危険因子とその管理～ 演者 脳神経内科 三村 秀毅 先生(准教授/診療副部長) テーマ 利用できる社会福祉制度について 演者 上澤 梨紗 ソーシャルワーカー 第6回 月日 2025年3月15日(土) テーマ 息切れを年のせいにしていませんか? 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の診断と治療 演者 呼吸器内科 原 弘道 先生(教授/診療副部長) テーマ 毎日の習慣で肺炎予防 演者 中島 麻衣 慢性疾患看護専門看護師 お問合せ先:患者支援・医療連携センター 医療連携室 TEL:03-5400-1202(直通)	慈恵医師会産業医研修会 2025年1月、5月に開催を予定しています。 (主催)慈恵医師会 (共催)東京都医師会 お問合せ先:慈恵医師会 TEL：03-3433-1111(大代表)内線2636 柏病院 医療連携フォーラム ●日時 2024年10月22日(火) 19:00～21:00 ●場所 ザ・クレストホテル柏

Notice

メディア掲載一覧

(2023.12～2024.5)

ホームページでもご覧いただけます
http://www.jikei.ac.jp/jikei/media.html

月日	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
12月1日	ミクス online	インタビュー～ MR の存在意義は” 情報収集” にあり ～東京慈恵会医科大学附属病院 薬剤部 部長 川久保 孝 氏	附属病院 (本院) 薬剤部長 川久保孝
12月1日	医業情報・ マーケティング雑誌 ミクス 12月号	インタビュー～ MR の存在意義は” 情報収集” にあり～	附属病院 (本院) 薬剤部長 川久保孝
12月5日	時事メディカル	行動タスクに応じて正負の情動価を調節する経路を発見～内的・外的環境による情動価の 変容を担う中枢基盤の解明に期待—東京慈恵会医科大学～	臨床医学研究所 助教 永嶋宇、教授 渡部文子
12月5日	PressWalker	行動タスクに応じて正負の情動価を調節する経路を発見	臨床医学研究所 助教 永嶋宇、教授 渡部文子
12月7日	毎日新聞 web	ほむほむ先生のアレルギー入門 エビペンは 2 本セットで＝堀向健太 (東京慈恵会医科大葛 飾医療センター小児科助教)	葛飾医療センター 小児科 助教 堀向健太
12月7日	毎日新聞	ほむほむ先生のアレルギー入門 エビペンは 2 本セットで＝堀向健太 (東京慈恵会医科大葛 飾医療センター小児科助教)	葛飾医療センター 小児科 助教 堀向健太
12月8日	北国新聞、八重 山毎日新聞	健康&医療 AI 診断、実用化へ がん化するタイプも 初期の自覚乏しい鼻副鼻腔乳頭腫	耳鼻咽喉科学講座 助教 由井亮輔
12月9日	日本経済新聞	カラダづくり 心房細動 脳梗塞の発生リスク 5 倍	内科学講座 (循環器内科) 教授 山根禎一
12月10日	十勝毎日新聞電子版	【健康】がん化するタイプも 鼻副鼻腔乳頭腫	耳鼻咽喉科学講座 助教 由井亮輔
12月10日	時事メディカル	繰り返すぼうこう炎～原因にがんや糖尿病も (東京慈恵会医科大学付属病院 本田真理子講師) ～	泌尿器科学講座 講師 本田真理子
12月14日	PressWalker	脊椎動物が極めて多様な味覚を持つことを発見 旨味と甘味の味覚の起源に迫る	解剖学講座 講座担当教授 岡部正隆
12月14日	時事メディカル	脊椎動物が極めて多様な味覚を持つことを発見～旨味と甘味の味覚の起源に迫る～近畿大学、 明治大学、東京慈恵会医科大学、情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所、京大大学 レビー小体型認知症とアルツハイマー病の鑑別における CIS の診断精度	解剖学講座 講座担当教授 岡部正隆
12月14日	Care Net	レビー小体型認知症とアルツハイマー病の鑑別における CIS の診断精度	内科学講座 (脳神経内科) 助教 浅原有揮
12月14日	十勝毎日新聞電子版	【健康】運動習慣とB M I が「二極化」コロナの影響で	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智小枝
12月14日	NEWS CAST	脊椎動物が極めて多様な味覚を持つことを発見 旨味と甘味の味覚の起源に迫る	解剖学講座 講座担当教授 岡部正隆
12月14日	日本経済新聞 web	近畿大・明大・慈恵医大・国立遺伝学研・東大、脊椎動物が極めて多様な味覚を持つことを発見	解剖学講座 講座担当教授 岡部正隆
12月15日	時事メディカル	嫌悪学習に伴い扁桃体の 2 種類の興奮性細胞が異なる抑制性制御を受けることが判明～ PTSD 等の疾患のメカニズム解明に期待～	総合医科学研究センター 臨床医学研究所 特任講師 森島美絵子、 医学科生 松村颯大、教授 渡部文子
12月15日	PressWalker	嫌悪学習に伴い扁桃体の 2 種類の興奮性細胞が異なる抑制性制御を受けることが判明	総合医科学研究センター 臨床医学研究所 特任講師 森島美絵子、 医学科生 松村颯大、教授 渡部文子
12月17日	読売新聞	明日への考 認知症「治療と共生」新時代 レカネマブ 進行抑制に	精神医学講座 講座担当教授 繁田雅弘
12月20日	時事メディカル	ヒト胎児の肺における免疫細胞の発生・成熟と、免疫応答以外の新たな役割を解明～世界初、 呼吸器疾患の病態解明・再生医療への応用に期待—東京慈恵会医科大学～	内科学講座 (呼吸器内科) 助教 吉田昌弘
12月20日	PressWalker	ヒト胎児の肺における免疫細胞の発生・成熟と、免疫応答以外の新たな役割を解明	内科学講座 (呼吸器内科) 助教 吉田昌弘
12月20日	QLifePro	嫌悪や恐怖を感じると活動する扁桃体、学習に伴い情報伝達の仕組みが変化—慈恵大	総合医科学研究センター 臨床医学研究所 特任講師 森島美絵子、 医学科生 松村颯大、教授 渡部文子
12月20日	現代ビジネス	人が「疲れる」のは「ウイルス」が原因だった…「お酒が好きな人」ほど注意が必要なワケ	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
12月21日	毎日新聞 WEB	アルツハイマー新薬発売 医師「人生考える機会に」／当事者「それぞれの判断尊重を」	精神医学講座 講座担当教授 繁田雅弘
12月21日	毎日新聞	アルツハイマー新薬 販売開始 医師 投与 患者が判断を	精神医学講座 講座担当教授 繁田雅弘
12月21日	日刊工業新聞	脊椎動物はヒトよりグルメ 近畿大、味覚遺伝子 11 種発見	解剖学講座 講座担当教授 岡部正隆
12月22日	日本経済新聞 Web	慈恵医大など、B 型肝炎の完治が見込まれる抗ウイルス薬の候補を発見	臨床検査医学講座 講師 古谷裕、教授 永森收志 客員教授 松浦知和
12月22日	時事メディカル	B 型肝炎の完治が見込まれる新たな抗ウイルス薬の候補を発見～新規の化合物 ICDM-34 が ウイルスゲノムの合成を抑制～東京慈恵会医科大学、慶應義塾大学、理化学研究所、京都 大学、明治薬科大学	臨床検査医学講座 講師 古谷裕、教授 永森收志、 客員教授 松浦知和
12月25日	AERAdot.	【2023 年 3 月に読まれた記事㉔】脳卒中の 5 つのサイン 症状が出たら迷わず救急車を呼ん で 脳梗塞には前兆がみられることも	内科学講座 (脳神経内科) 講座担当教授 井口保之
12月25日	WORKPORT plus	B 型肝炎の完治が見込まれる新たな抗ウイルス薬の候補を発見	臨床検査医学講座 講師 古谷裕、教授 永森收志、 客員教授 松浦知和
12月25日	PressWalker	B 型肝炎の完治が見込まれる新たな抗ウイルス薬の候補を発見	臨床検査医学講座 講師 古谷裕、教授 永森收志、 客員教授 松浦知和
12月26日	読売新聞	フレイル講座＝フレイルに該当 40 ～ 50 歳代増加	附属柏病院 院長 吉田博
12月26日	QLifePro	B 型肝炎、完治が期待できる抗ウイルス薬候補化合物を発見—慈恵大ほか	臨床検査医学講座 講師 古谷裕、教授 永森收志、 客員教授 松浦知和
12月26日	BtoB プラットフォー ム業界 ch	B 型肝炎の完治が見込まれる新たな抗ウイルス薬の候補を発見	臨床検査医学講座 講師 古谷裕、教授 永森收志、 客員教授 松浦知和
12月28日	OCEANS	ポイントは「肥満」と「アルコール」! 痛風のメカニズムと対策を専門家が解説	大学名誉教授 細谷龍男
12月29日	河北新報	男性はかかりつけ医持たない傾向	臨床疫学研究部 講師 青木拓也、教授 松島雅人
12月30日	MEDICAL TRIBUNE	【2024 年医学はこうなる】越智小枝	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智小枝
12月31日	神奈川新聞	認知症基本法 「一人じゃない居場所を」若年発症、介護施設開く	精神医学講座 講座担当教授 繁田雅弘
1月1日	大学ジャーナル ONLINE	多くの脊椎動物にヒトを上回る種類の旨味・甘味受容体を発見、多様な味覚を示唆	解剖学講座 講座担当教授 岡部正隆
1月4日	NHK 総合	あしたが変わるトリセツショー ビタミン D のトリセツ	分子疫学研究部 教授 浦島充佳
1月5日	女性セブン	名医が選んだ心臓と血管 最強の名医 43 人	外科学講座 (血管外科) 講座担当教授 大木隆生
1月9日	yomiDr.	フレイル状態の 4 0 ～ 5 0 歳代増加 コロナ禍で在宅勤務が増えたことが影響か…医師の 意識調査	附属柏病院 院長 吉田博
1月11日	PR TIMES	【KINS】東京慈恵会医科大学とにきびの病態解明を目指す共同研究を開始	皮膚科学講座 講師 出来尾格
1月11日	NHK E テレ	きょうの健康 急増!帯状疱疹 後遺症を防ぐには?	皮膚科学講座 非常勤講師 松尾光馬
1月12日	AERA.dot	【前立腺がん】男性の罹患数第 1 位のがん 尿が出にくい、血尿で見つかることも 増加は 肉を食べることが影響	泌尿器科学講座 講座担当教授 木村高弘
1月13日	日経バイオテク	KINS、東京慈恵会医科大とにきびの病態解明を目指す共同研究を開始	皮膚科学講座 講師 出来尾格

Notice

月日	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
1月15日	読売新聞	医療、医師の本質に迫る 高校生向けオンラインセミナー 6 大学で	脳神経外科学講座 講座担当教授 村山雄一、 准教授 結城一郎、講師 加藤直樹、助教 柳沢毅
1月15日	NHK ワールド	Medical Frontiers 「The Power of Vitamin D：From Osteoporosis to Cancer」	分子疫学研究部 教授 浦島充佳
1月15日	NHK E テレ	マイあさ! 健康ライフ 骨粗しょう症を防ぐビタミン D	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智小枝
1月16日	読売新聞	医療ルネサンス 子どものうんち（4） 自立へ 便秘予防く治療	泌尿器科学講座 准教授 古田昭
1月18日	中部経済新聞	科学トピックス / 授乳中は青魚や白身魚を	分子疫学研究部 教授 浦島充佳
1月20日	読売新聞	前立腺肥大症 負担軽い手術治療に幅	泌尿器科学講座 准教授 古田昭
1月21日	diamond online	「免疫力が強い子」の親がしている 4 大習慣	分子疫学研究部 教授 浦島充佳
1月22日	日刊スポーツ Web	疲労や外敵に負けないからだづくりが大切 / 「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	栄養部 管理栄養士 赤石定典
1月23日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（1）免疫力をアゲて病気から身を守る	栄養部 管理栄養士 赤石定典
1月23日	PressWalker	2月3日「糖尿病」に関する市民講座及び医療従事者向け研修会を開催します（主催：区中央部糖尿病医療連携検討会、共催：慈恵医師会）	患者支援・医療連携センター
1月24日	河北新報	授乳中は青魚や白身魚を 乳児の DHA 上昇	分子疫学研究部 教授 浦島充佳
1月24日	NHK 総合	ひるまえばつと バランス力を鍛えて元気に歩こう!	リハビリテーション医学講座 講座担当教授 安保雅博
1月24日	BS テレビ東京	居間からサイエンス 最新技術で医療に活用!? 厄介な寄生虫の研究者	熱帯医学講座 教授 石渡賢治
1月24日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（2）病後にも関係する免疫力	栄養部 管理栄養士 赤石定典
1月25日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（3）免疫力を落とさないために	栄養部 管理栄養士 赤石定典
1月25日	日刊スポーツ Web	体内のいたるところを循環し駆けつける / 「免疫力をアゲる元気食」	栄養部 管理栄養士 赤石定典
1月26日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（4）免疫力を落とさないために	栄養部 管理栄養士 赤石定典
1月26日	はたわらワイド	「やりたい」に真っ直ぐ突き進んできた耳鼻科医のスペシャリスト大村医師。彼が歩んだこれまでの道のり	耳鼻咽喉・頭頸部外科 診療医長 大村和弘
1月26日	日刊スポーツ Web	免疫力を下げる NG 行動とは / 「免疫力をアゲる元気食」	栄養部 管理栄養士 赤石定典
1月28日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（5）免疫力を落とさないために	栄養部 管理栄養士 赤石定典
1月28日	日刊スポーツ Web	「バランスのよい食生活」が大前提 / 「免疫力をアゲる元気食」	栄養部 管理栄養士 赤石定典
1月30日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（6）3 大栄養素「タンパク質」の年齢別摂取量は	栄養部 管理栄養士 赤石定典
1月30日	日刊スポーツ Web	3 大栄養素の筆頭「タンパク質」 / 「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	栄養部 管理栄養士 赤石定典
1月31日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（7）食事から摂取が必要な必須アミノ酸	栄養部 管理栄養士 赤石定典
1月31日	日刊スポーツ Web	必須アミノ酸は食事からの摂取が必要 / 「免疫力をアゲる元気食」	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月1日	日刊スポーツ Web	脂質のエネルギーはタンパク質の倍以上 / 「免疫力をアゲる元気食」	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月1日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（8）脂質エネルギーはたんぱく質の 2 倍	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月1日	日刊自動車新聞	連載「交通安全 医療現場からの発信」（18）てんかんと自動車運転 東京慈恵会医科大	附属第三病院 リハビリテーション科 診療部長
	電子版	学 渡邊修	（リハビリテーション医学講座 教授）渡邊修
2月1日	毎日新聞 Web	ほむほむ先生のアレルギー入門 アトピーの新しい薬＝堀向健太（東京慈恵会医科大葛飾医療センター小児科助教）	葛飾医療センター小児科 助教 堀向健太
2月1日	毎日新聞	ほむほむ先生のアレルギー入門 堀向健太 東京慈恵会医科大葛飾医療センター小児科助教	葛飾医療センター小児科 助教 堀向健太
2月3日	antenna	老化のサイン、猫背を防ぐ「背筋のトレーニング」週 3 回の「家トレ」メニュー 東京慈恵会医科大学附属病院副院長・安保雅博先生	リハビリテーション医学講座 講座担当教授 安保雅博
2月3日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（9）3 大栄養素は車のガソリン	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月3日	日刊スポーツ Web	3 大栄養素は車のガソリン / 「免疫力をアゲる元気食」	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月3日	Yomi.Dr	前立腺肥大症 40～50 歳代に膨らみ始めて 80 歳代では 9 割に…内視鏡を使った二つの新治療登場	泌尿器科学講座 准教授 古田昭
2月4日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（10）ビタミンミネラルは" エンジンオイル"	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月4日	日刊スポーツ Web	ビタミンミネラルは" エンジンオイル" / 「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月5日	ヨミドクター	前立腺肥大症 40～50 歳代に膨らみ始めて 80 歳代では 9 割に…内視鏡を使った二つの新治療登場	泌尿器科学講座 准教授 古田昭
2月5日	天然生活	肩こり・首こり、腰痛の解消に「肩のトレーニング」週 3 回の「家トレ」メニュー 東京慈恵会医科大学附属病院副院長・安保雅博先生	リハビリテーション医学講座 講座担当教授 安保雅博
2月5日	日刊スポーツ Web	さまざまな役割があるビタミン / 「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月5日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（11）ビタミンの役割はさまざま	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月6日	TBS テレビ	THE TIME BUTAの腎臓 胎児に移植へ 国内初の計画	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月6日	NHK 総合	BUTAの腎臓 病の胎児に移植計画	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月6日	FNN プライムオン	重い腎臓病の胎児に BUTAの腎臓を一時的に移植する臨床研究 慈恵医大などのチームが計画	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月6日	日本経済新聞 online	BUTA腎臓を胎児に移植、慈恵医大など計画 国内初	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月6日	THE SANKEI SHIMBUN	胎児に BUTAの腎臓を一時的に移植 慈恵医大計画、年内申請も 国内初「異種移植」に	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月6日	NHK オンライン	胎児に BUTAの腎臓移植 国内初の臨床研究計画 年内の申請目指す	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月6日	共同通信	BUTAの腎臓 病の胎児に移植計画	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月6日	テレビ朝日	グッド! モーニング BUTA腎臓 胎児に移植	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月6日	読売新聞オンライン	BUTAの腎臓を胎児に移植、透析までの「橋渡し」に…国内初「異種移植」を慈恵医大など計画	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月6日	読売新聞	BUTA腎臓 胎児に移植 透析までの代替計画 慈恵医大など	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月7日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（12）ミネラルも大事な" エンジンオイル"	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月7日	産経新聞	胎児に BUTA腎臓移植 慈恵医大、年内申請目指す	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月7日	東京新聞、他	胎児に豚腎臓一時移植 国内初「異種移植」慈恵医大など計画	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月7日	日刊スポーツ Web	ミネラルも大事な" エンジンオイル" / 「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月7日	時事通信	胎児に BUTA腎臓移植計画 国内初、透析までの「橋渡し」—慈恵医大など	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月7日	日本経済新聞	BUTA腎臓 胎児に移植、慈恵医大など計画 年内にも申請 人工透析前の橋渡しに	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆

Notice

月日	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
2月8日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（13）総死亡率減らす第 6 の栄養素「食物繊維」	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月8日	静岡新聞	豚腎臓 胎児に移植 慈恵医大計画 透析までの「橋渡し」	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月8日	日刊スポーツ Web	第 6 の栄養素「食物繊維」 / 「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月8日	ヨミドクター	インフルエンザや新型コロナだけではなく 冬に悪化しやすい呼吸器の病気…間質性肺炎、気管支喘息、COPD も	エクスゾーム創薬研究講座 講師 藤田雄
2月9日	時事メディカル	東京慈恵会医科大学 大学院医学研究科 2024 年 4 月、医科学専攻修士課程遺伝カウンセリング学を新たに開設	東京慈恵会医科大学 耳鼻咽喉科学講座講師 宇田川友克大学院生
2月9日	時事メディカル	Pax3 遺伝子の欠失が聴覚に必須なメラノサイトの多様な細胞数減少を引き起こすことを発見〜ワーデンブルグ症候群の先天性難聴に対する遺伝子治療への応用に期待〜	高橋 恵里沙講座担当教授 小島博己解剖学講座講師 辰巳 徳史講座担当教授 岡部正隆
2月9日	PressWalker	東京慈恵会医科大学 大学院医学研究科 2024 年 4 月、医科学専攻修士課程遺伝カウンセリング学を新たに開設	東京慈恵会医科大学
2月9日	PressWalker	Pax3 遺伝子の欠失が聴覚に必須なメラノサイトの多様な細胞数減少を引き起こすことを発見	耳鼻咽喉科学講座講師 宇田川友克大学院生 高橋 恵里沙講座担当教授 小島博己解剖学講座講師 辰巳 徳史講座担当教授 岡部正隆
2月10日	m3.com	連載：大学別リレー 筑波大学 Vol.39 伝統女子校から 10 倍の難関突破、筑波大の推薦入試が面白い!	耳鼻咽喉科学講座 講師 森恵莉
2月10日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（14）密接な関係にある腸は第 2 の脳	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月10日	日刊スポーツ Web	腸は「第 2 の脳」 / 「免疫力をアゲる元気食」	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月11日	山梨日日新聞	元気甲州人 東京慈恵医大熱帯医学講座教授 嘉糠洋陸さん「ニッチ」な研究に自負	熱帯医学講座 講座担当教授 嘉糠 洋陸
2月11日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（15）通じて分かる腸内環境	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月11日	日本経済新聞	グルメな人類、実は味に鈍感? 進化とともにセンサー変化	解剖学講座 講座担当教授 岡部 正隆
2月11日	日刊スポーツ Web	通じて分かる腸内環境 / 「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月12日	日刊スポーツ Web	成人男性は 1 日 21 グラムの食物繊維を / 「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月12日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（16）成人男性は 1 日 21 グラムの食物繊維を	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月12日	NHK ラジオ第 1	マイあさ!「健康ライフ」	栄養部 主任 種村陽子
2月13日	PressWalker	うつ病になりやすい体質が遺伝する仕組みを世界で初めて解明	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月13日	時事メディカル	うつ病になりやすい体質が遺伝する仕組みを世界で初めて解明 ―メンデル遺伝を覆す新たな遺伝メカニズムの発見― 東京慈恵会医科大学	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博 栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月13日	Web 女性自身	“国民的野菜” になるブロッコリー「筋トレだけではなく、寝たきりの防止にも期待」と栄養士指南	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月14日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（17）夜に活発になる腸内細菌	
2月14日	日刊スポーツ Web	夜に活発になる腸内細菌 / 「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月14日	読売テレビ	かんざい情報ネット ten BUTAの腎臓の胎児への移植の臨床研究について	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月15日	マイナビニュース	うつ病になりやすい体質が遺伝する仕組み、慈恵医大が解明	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月15日	テレ朝 news	うつ病誘発しやすいウイルス遺伝子変異 慈恵医大研究班が発見 遺伝との関係も判明	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月15日	start home	世界初、うつ遺伝はは母から子への「ウイルス感染」ルートがあると判明!	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月15日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（18）主食、主菜、プラス副菜	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月15日	日刊スポーツ Web	主食、主菜、プラス副菜 / 「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月15日	livedoor news	“うつ病” 誘発しやすい遺伝子発見 慈恵医大研究班が発表	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月15日	日刊工業新聞 web	うつ病遺伝 仕組み解明 慈恵医大 常在微生物 伝搬が影響	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月15日	日刊工業新聞	うつ病遺伝 仕組み解明 慈恵医大 常在微生物 伝搬が影響	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月16日	日刊スポーツ Web	免疫細胞を活性化するベータグルカン / 「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月16日	朝日新聞 digital	うつ病のなりやすさ ウイルスによって親から子へ伝わる可能性?	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月16日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（19）大麦をコメに混ぜるだけ	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月17日	m3.com	連載：大学別リレー 筑波大学 Vol.40 部活に熱中、試験は「ビリじゃない」筑波大医女子の青春	耳鼻咽喉科学講座 講師 森恵莉
2月17日	日刊スポーツ Web	発酵食品を取り入れよう / 「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月17日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（20）発酵食品を取り入れよう	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月17日	時事通信	がん化するタイプも～鼻副鼻腔乳頭腫（東京慈恵会医科大学 由井亮輔助教）～	耳鼻咽喉科学講座助教 由井亮輔
2月18日	CBC テレビ	「鼻づまり」放置で視力低下・意識障害なども…専門医に学ぶ! 長引く鼻づまりの原因や解消法	耳鼻咽喉科学講座教授 鴻信義
2月18日	TBS テレビ	健康カブゼリ! ゲンキの時間 テーマ「鼻づまり」	耳鼻咽喉科学講座教授 鴻信義
2月19日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（21）植物性乳酸菌は腸まで届く	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月19日	日刊スポーツ Web	植物性乳酸菌は腸まで届く / 「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月19日	女性自身	“国民的野菜” になるブロッコリー「筋トレだけではなく、寝たきりの防止にも期待」と栄養士指南	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月19日	NCC 長崎文化放送	スマホで支える『戦地医療』本格侵攻から 2 年…先細る「ウクライナ支援」に日本は	脳神経外科学講座 講座担当教授 村山雄一
2月19日	テレビ朝日	報道ステーション ウクライナ復興支援 医療関係者間コミュニケーションアプリ JOIN	脳神経外科学講座 講座担当教授 村山雄一
2月19日	ヨミドクター	インフルエンザや新型コロナだけではなく 冬に悪化しやすい呼吸器の病気…中高年女性や高齢者が気をつけたいものも	エクスゾーム創薬研究講座 講師 藤田雄
2月20日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（22）細菌を攻撃する「ジンゲロール」	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月20日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（23）抗酸化食品は免疫力を向上させる働き	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月20日	時事メディカル	抗体産生を促進する機能的 iNKT 細胞の誘導因子の発見〜ワクチン特異的抗体産生の誘導機構の解明から期待される感染症の予防戦略〜 東京慈恵会医科大学、かずさ DNA 研究所	細菌学講座 講座担当教授 金城雄樹、助教 林崎浩志、 呼吸器内科 講座担当教授 荒屋潤、医師 上井康寛
2月20日	Ojii.jp	半身浴の正しいやり方 温度や時間は? より効果的な入浴方法・注意点も	乳腺・甲状腺・内分泌外科 特任教授 島海弥寿雄
2月20日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食!（22）細菌を攻撃する「ジンゲロール」	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月20日	日刊ゲンダイ	ここまで分かった 疲労の謎を解く(2) 近藤一博 東京慈恵会医科大学教授 休んでも回復しない	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月20日	日刊ゲンダイ	ここまで分かった 疲労の謎を解く(1) 近藤一博 東京慈恵会医科大学教授 疲労の程度は唾液で測定できる	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月20日	日刊ゲンダイ digital	【疲労の謎がここまで分かった】疲労の程度は唾液で測定できる…ヘルペスウイルスの数でわかる	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月20日	PressWalker	抗体産生を促進する機能的 iNKT 細胞の誘導因子の発見	細菌学講座 講座担当教授 金城雄樹、助教 林崎浩志、 呼吸器内科 講座担当教授 荒屋潤、医師 上井康寛
2月20日	医療 NEWS QlifePro	うつ病になりやすい体質の遺伝、ウイルス感染に関わるメカニズムを発見―慈恵大	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博

Notice

月日	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
2月20日	日刊スポーツ Web	細菌を攻撃する「ショウガオール」／「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月21日	日刊ゲンダイ	ここまで分かった 疲労の謎を解く (3) 近藤一博 東京慈恵会医科大学教授 なぜ軽い運動が疲労を減少させるのか	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月21日	日刊スポーツ Web	抗酸化食品は免疫を抑制するはたらきも！「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月21日	日刊ゲンダイ digital	【疲労の謎がここまで分かった】休んでも回復しない「病的疲労」は脳内で炎症が起きている	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月22日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食！(24) 腸内環境整えて免疫アップするネバネバ成分	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月22日	日刊ゲンダイ	ここまで分かった 疲労の謎を解く (4) 近藤一博 東京慈恵会医科大学教授 見えてきた新型コロナ後遺症の治療薬	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月22日	日刊ゲンダイ digital	【疲労の謎がここまで分かった】なぜ軽い運動が疲労を減少させるのか…酵素の産生を増やす	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月22日	日刊スポーツ Web	腸内環境整えて免疫アップするネバネバ成分／「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月23日	日刊ゲンダイ digital	【疲労の謎がここまで分かった】見えてきた新型コロナ後遺症の治療薬…アセチルコリンを補充	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月24日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食！(25) 健康長寿は「なんでも食べる」	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月24日	毎日新聞 web	認知症を診ずして人を診よ 対話する医師・繁田雅弘さん 積み重ねた認知症医療の現在地	精神医学講座 講座担当教授 繁田雅弘
2月24日	m3.com	連載：大学別リレー 筑波大学 Vol. 41 「女には厳しい」と言われ発奮 “日本一の医局”で一人前に！	耳鼻咽喉科学講座 講師 森恵莉
2月24日	日本経済新聞	カラダづくり＝ライター仲道匡代 卵アレルギー最新知見 不必要な「除去」は避けて	分子疫学研究部 教授 浦島充佳
2月24日	日刊スポーツ Web	健康長寿は「なんでも食べる」／「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月25日	Abema TV	Abema 的ニュースショー 「なぜ生体肝移植にブタが利用されるのか？」	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月25日	日刊スポーツ	免疫力をアゲる元気食！(26) 免疫を高める生活	栄養部 管理栄養士 赤石定典
2月25日	日刊スポーツ Web	免疫を高める生活／「免疫力をアゲる元気食」医療ライター・しんどうとも	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月25日	Abema TV	Abema 的ニュースショー 生体肝移植にブタが利用されるのはなぜ など	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月27日	朝日新聞	赤ちゃん時にウイルス感染 うつ病になりやすく？ 慈恵医大チーム発表	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月27日	ナゾロジー	世界初、うつ遺伝には母から子への「ウイルス感染」ルートがあると判明！	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
2月27日	Abema Times	【独白】動物の臓器をヒトに移植、遺伝子改変で拒絶反応回避“ブタ”が選ばれる理由を医師が解説「大きさも解剖学的な構造も非常によく似ている」	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月28日	共同通信 PRwire	肝がん予防のための患者層別化マーカーを発見－血中 MYCN で肝がん再発予防薬の効果を予測－	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智小枝、講師 古谷裕
2月28日	時事メディカル	肝がん予防のための患者層別化マーカーを発見－血中 MYCN で肝がん再発予防薬の効果を予測－理化学研究所、岐阜大学、東京慈恵会医科大学	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智小枝、講師 古谷裕
2月28日	日経バイオテク	岐阜大、肝がん予防のための患者層別化マーカーを発見－血中 MYCN で肝がん再発予防薬の効果を予測－	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智小枝、講師 古谷裕
2月28日	PressWalker	肝がん予防のための患者層別化マーカーを発見－血中 MYCN で肝がん再発予防薬の効果を予測－	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智小枝、講師 古谷裕
2月28日	毎日新聞	認知症を診ずして人を診よ 医師・繁田雅弘さん（1）＝人生を取り戻す対話	精神医学講座 講座担当教授 繁田雅弘
2月28日	毎日新聞 web	認知症を診ずして人を診よ 医師・繁田雅弘／1 人生を取り戻す対話	精神医学講座 講座担当教授 繁田雅弘
2月28日	日経産業新聞	慈恵医大など ブタの腎臓 胎児に移植	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月29日	朝日新聞	Dのまちから 認知症フレンドリーをめざして 慈恵医大精神医学講座 繁田雅弘教授に聞く	精神医学講座 講座担当教授 繁田雅弘
2月29日	読売新聞	「異種移植」計画 国内外で ブタから臓器 研究加速 規制や社会の理解 課題 「クローン羊」進展の転機	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
2月29日	yahoo ニュース	あきらめていた命を救う 国内初のブタからヒトへの臓器の「異種移植」の意義を医師が説明「すごくいい治療」「ドナーはこれ以上増えない」	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
3月1日	時事メディカル	パーキンソン病における新規オートファジーの障害を世界で初めて解明～エストロゲンの神経保護作用における新規オートファジーの重要性－東京慈恵会医科大学～	再生医学研究部 教授 岡野 James 洋尚、内科学講座（脳神経内科）講座担当教授 井口保之、助教 坊野恵子、助教 白石朋敬
3月1日	PressWalker	パーキンソン病における新規オートファジーの障害を世界で初めて解明～エストロゲンの神経保護作用における新規オートファジーの重要性－東京慈恵会医科大学～	再生医学研究部 教授 岡野 James 洋尚、内科学講座（脳神経内科）講座担当教授 井口保之、助教 坊野恵子、助教 白石朋敬
3月1日	講談社ブルーバックス	「うつ病」はどのように遺伝するのか…「日本の研究者」が世界で初めて発見した「その仕組み」	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
3月1日	朝日新聞 digital	「自分で決める」が幸せに生きる力に 認知症社会、専門医に聞く	精神医学講座 講座担当教授 繁田雅弘
3月2日	m3.com	連載：大学別リレー 筑波大学 Vol. 42 「嗅覚愛」で手術は半年待ち！名門医局で掴んだ自分の専門性	耳鼻咽喉科学講座 講師 森恵莉
3月2日	毎日新聞 web	睡眠「成人は6時間以上」新ガイドは日本人の眠りを変えられるか	葛飾医療センター精神神経科 診療部長（教授）山寺亘
3月2日	朝日新聞 re ライフ.net	<連載> がん患者のもやもや 第3回 がん闘病に沈む心 支えたものは 読者会議メンバー座談会「知ろう！語ろう！がん患者のもやもや」から	客員教授 高橋都
3月3日	TBS テレビ	健康カブセル 元気の時間 病の大敵！内臓脂肪を攻略 お腹へこませ大作戦	栄養部 管理栄養士 赤石定典
3月3日	日本経済新聞	感染症防ぐ奴、量産迫る	熱帯医学講座 講座担当教授 嘉藤洋陸
3月4日	時事メディカル	コロナ禍で年間5人に1人が「かかりつけ医」を失うか変更～かかりつけ医定着の鍵を握るのは、プライマリ・ケア機能の強化～	臨床疫学研究部 講師 青木拓也、教授 松島雅人
3月4日	PressWalker	コロナ禍で年間5人に1人が「かかりつけ医」を失うか変更～かかりつけ医定着の鍵を握るのは、プライマリ・ケア機能の強化～	臨床疫学研究部 講師 青木拓也、教授 松島雅人
3月4日	ラジオ NIKKEI	杏林シンポジウムシリーズ「消化管疾患治療の最新情報」第21回クローン病に対する治療	内科学講座（消化器・肝臓内科）講座担当教授 猿田雅之
3月5日	タ刊フジ	老化から守る ホネの健康 最新事情 (1) 安達純子 東京慈恵会医科大学 加藤智弘教授と伊藤恭子准教授が解説	新橋健診センター 教授 加藤智弘、准教授 伊藤恭子
3月5日	QLifePro	肝がん再発予防薬への応答性、予測可能な患者層別化マーカー発見－理研ほか	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智小枝、講師 古谷裕
3月6日	タ刊フジ	老化から守る ホネの健康 最新事情 (3) 安達純子 東京慈恵会医科大学 斎藤充主任教授に聞く	整形外科学講座 講座担当教授 斎藤充
3月6日	日刊自動車新聞 電子版	連載「交通安全 医療現場からの発信」(20) 認知症の基礎知識と予防 東京慈恵会医科大学 渡邊 修	附属第三病院 リハビリテーション科 診療部長（リハビリテーション医学講座 教授）渡邊修
3月6日	PressWalker	2025 年度に「東京慈恵会 教務主任養成講習会」を再開します	公益社団法人東京慈恵会

Notice

月日	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
3月6日	時事メディカル	2025 年度に「東京慈恵会 教務主任養成講習会」を再開します	公益社団法人東京慈恵会
3月7日	タ刊フジ	老化から守る ホネの健康 最新事情 (4) 安達純子 東京慈恵会医科大学 斎藤充主任教授に聞く	整形外科学講座 講座担当教授 斎藤充
3月7日	NHK	あさいチ 続々登場 アトピー性皮膚炎の新薬	皮膚科学講座 講師 石氏陽三
3月8日	タ刊フジ	老化から守る ホネの健康 最新事情 (5) 安達純子 東京慈恵会医科大学 斎藤充主任教授に聞く	整形外科学講座 講座担当教授 斎藤充
3月8日	医療 NEWS QiifePro	かかりつけ医、コロナ禍で日本住民の約2割が喪失または変更－慈恵大	臨床疫学研究部 講師 青木拓也、教授 松島雅人
3月9日	日本経済新聞	からだづくり 働く世代のフレイル 40～50歳代でも増加傾向	附属柏病院 院長 吉田博
3月9日	労働新聞社	5年前と違う対応を がん治療の進歩踏まえ 神奈川・セミナー	客員教授 高橋都
3月12日	読売新聞（大阪）	前立腺肥大症 負担軽い手術 保険適用に 排尿トラブル治療の選択肢増	泌尿器科学講座 准教授 古田昭
3月12日	cama+aid	メディカルオンコロジー 第7回 直腸がんの術後の排便障害「LARS」について知る【前編】 発症のメカニズムと食事について（大腸外科医に聞く）	附属第三病院 外科 診療医員 榎本浩也
3月12日	cama+aid	メディカルオンコロジー 第8回 直腸がんの術後の排便障害「LARS」について知る【後編】 排便障害の本質的な辛さ「人間の尊厳」との関わりとは（看護学の教授に聞く）	看護学科 教授 佐藤正美
3月13日	京都新聞	授乳中は青魚や白身魚を	分子疫学研究部 教授 浦島充佳
3月13日	毎日新聞	認知症を診ずして人を診よ 医師・繁田雅弘さん（3）＝自分らしさ捨てずに	精神医学講座 講座担当教授 繁田雅弘
3月13日	毎日新聞	「睡眠軽視」から目覚めよう	葛飾医療センター精神神経科 診療部長（教授）山寺亘
3月14日	日経ヘルス	2024 年春号 新しいアンチエイジング成分「タウリン&ポリアミン」について	分子生物学講座 講座担当教授 松藤千弥
3月15日	婦人公論	リハビリの名医に聞く「安静」は麻薬、「歩く」は万能薬です。女優 大場久美子・医学博士 安保雅博対談	リハビリテーション医学講座 講座担当教授 安保雅博
3月15日	PRESIDENT Online	難聴は認知症のリスクになる…「耳が遠くなった」を甘くみてはいけない医学的理由 補聴器を適切に使用すれば、悪化を抑制できる可能性も	耳鼻咽喉科学講座 講師 栗原涉、講座担当教授 小島博己
3月16日	毎日新聞 web	「静かにさせたい」から思いやりへ、家族の願い変化 認知症の診察室	精神医学講座 講座担当教授 繁田雅弘
3月16日	産経新聞 WEB	「失われた遺伝子」と呼ばれる鬱病の遺伝 メンデルの法則とは異なる仕組みを解明	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
3月18日	NHK WORLD JAPAN	NHK WORLD JAPAN	耳鼻咽喉科学講座 講師 大村和弘
3月19日	Care Net	早期アルツハイマー病における攻撃的行動と関連する脳の変化	精神医学講座 助教 亀山洋
3月19日	HF net	専門家に聞きました 体脂肪・内臓脂肪・皮下脂肪とは	臨床検査医学講座 教授 吉田博
3月20日	関東医事新報	講座クローズアップ 東京慈恵会医科大学内科学講座 循環器内科	内科学講座（循環器内科）講座担当教授 吉村道博
3月20日	毎日新聞	認知症を診ずして人を診よ 医師・繁田雅弘（4）＝家族の声 本人目線に	精神医学講座 講座担当教授 繁田雅弘
3月20日	関東医事新報	講座クローズアップ 東京慈恵会医科大学内科学講座 循環器内科	内科学講座（循環器内科）講座担当教授 吉村道博
3月22日	PressWalker	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）令和6年度「革新的がん医療実用化研究事業」への採択のお知らせ	生化学講座 准教授 山田幸司
3月22日	時事メディカル	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）令和6年度「革新的がん医療実用化研究事業」への採択のお知らせ	生化学講座 准教授 山田幸司
3月22日	日経バイオテク	ヘルセウスプロテオミクス、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）令和6年度「革新的がん医療実用化研究事業」への採択のお知らせ	生化学講座 准教授 山田幸司
3月23日	時事メディカル	光活性化アデニル酸シクラーゼをプレシナプスに局在化させる技術を開発～細胞内シグナル伝達系と神経活動の光操作による可塑性誘導に応用－東京慈恵会医科大学、山梨大学～	臨床医学研究所 助教 永瀬将志、教授 渡部文子
3月23日	PressWalker	光活性化アデニル酸シクラーゼをプレシナプスに局在化させる技術を開発	臨床医学研究所 助教 永瀬将志、教授 渡部文子
3月24日	神戸新聞、静岡新聞ほか	1型糖尿病に「20歳の壁」 助成打ち切り 月3万円の負担重荷に 現行の治療諦める例も 専門医「何らかの支援必要」	内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科）講座担当教授 西村理明
3月25日	PressWalker	トウモロコシ由来化合物で肥満や脂肪肝を改善－コーンオリゴペプチドの肥満、脂肪性肝炎抑制効果を発見－	臨床検査医学講座 講師 古谷裕
3月25日	時事メディカル	トウモロコシ由来化合物で肥満や脂肪肝を改善－コーンオリゴペプチドの肥満、脂肪性肝炎抑制効果を発見－理化学研究所、東京慈恵会医科大学	臨床検査医学講座 講師 古谷裕
3月25日	日経バイオテク	理化学研究所、トウモロコシ由来化合物で肥満や脂肪肝を改善－コーンオリゴペプチドの肥満、脂肪性肝炎抑制効果を発見－	臨床検査医学講座 講師 古谷裕
3月26日	静岡新聞 SBS	1型糖尿病に「20歳の壁」 助成途切れ 望む治療諦める患者も 専門医「何らかの支援必要」	内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科）講座担当教授 西村理明
3月26日	OPTRONICS online	慈恵医大ら、細胞内シグナル伝達と神経活動を光操作	臨床医学研究所 助教 永瀬将志
3月27日	medical tribune	医療費節約し血糖不良一成人 1型糖尿病問題	内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科）講座担当教授 西村理明
3月27日	毎日新聞医療プレミア	認知症と診断されたらどうする？ 不安と悩みを軽減するために知っておきたい“予防策”	精神医学講座 講座担当教授 繁田雅弘
3月27日	毎日新聞	認知症を診ずして人を診よ 医師・繁田雅弘（5）＝あなたの人生 大切に	精神医学講座 講座担当教授 繁田雅弘
3月28日	PressWalker	日本初のスタルガルト病に対する全国13施設によるコホート解析研究	眼科学講座助教 溝淵圭、教授 林孝彰、講座担当教授 中野匡
3月28日	時事メディカル	日本初のスタルガルト病に対する全国13施設によるコホート解析研究 遺伝子治療を見据えた日本人の遺伝学的・臨床的特徴についての解明－東京慈恵会医科大学	眼科学講座助教 溝淵圭、教授 林孝彰、講座担当教授 中野匡
3月28日	毎日新聞 Web	災害への備え、忘れずに＝堀向健太（東京慈恵会医科大葛飾医療センター小児科助教）	葛飾医療センター小児科 助教 堀向健太
3月28日	産経新聞	助成途切れ、高額療養費の負担重く 1型糖尿病に「20歳の壁」	内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科）講座担当教授 西村理明
3月28日	毎日新聞	ほむほむ先生のアレルギー入門 堀向健太 東京慈恵会医科大葛飾医療センター 小児科助教	葛飾医療センター小児科 助教 堀向健太
3月29日	毎日新聞	どうすれば安全・安心 1型糖尿病に「20歳の壁」 助成停止で最新治療中断も 難病指定要望 退けられ	内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科）講座担当教授 西村理明
3月29日	Web	総医研H D (2385) 東京慈恵会医科大学との産学連携講座設置および共同研究契約締結に関するお知らせ～疲労およびうつ病に関する研究成果の社会実装～	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
3月29日	読売新聞	「紅麹」サブリ、入院2人「尿管障害」 摂取の再開後、また悪化 医師「成分原因の可能性」	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
3月29日	読売新聞 online	小林製薬「紅麹」サブリ、摂取の再開後に再入院…治療の医師「サブリ含有物質が原因の可能性高い」	内科学講座（腎臓・高血圧内科）講座担当教授 横尾隆
3月29日	時事メディカル	LGBTの患者を診療する技能を測定する尺度「日本語版 LGBT-DOCSS」を開発～医療従事者に対する性の多様性の教育に活用しケアの質向上へー東京慈恵会医科大学～	臨床疫学研究部 大学院生 金久保佑介、教授 松島雅人

Notice

月日	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
3月30日	現代ビジネス	「うつ病」はどのように遺伝するのか…「日本の研究者」が世界で初めて発見した「その仕組み」	ウイルス学講座 講座担当教授 近藤一博
4月1日	すこやかファミリー 2024 年 4 月号	始めるのは今！ 糖尿病対策は超早めがポイント	内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科） 講座担当教授 西村理明
4月1日	毎日新聞 web	認知症を診ずして人を診よ 認知症の「絶望」に寄り添う 本当の意味で本人を救うためには	名誉教授 繁田雅弘
4月3日	毎日新聞	認知症を診ずして人を診よ 医師・繁田雅弘（6）=生徒が教えてくれた	名誉教授 繁田雅弘
4月5日	ホスピタリス・ファイル	患者に敬意を持って接し人間中心の医療を	附属柏病院 院長・臨床検査医学講座 教授 吉田博
4月6日	西日本新聞 ほか	小林製薬紅こうじサプリ 腎臓に成分集積 障害か ほぼ全員「ファンコニー症候群」	内科学講座（腎臓・高血圧内科） 講座担当教授 横尾隆
4月6日	Digital PR Platform	光で記憶を操る!新たな技術「光駆動型ホスホリパーゼ Cβ」を開発	臨床医学研究所 教授 渡部文子
4月6日	毎日新聞 web、他	光で記憶を操る!新たな技術「光駆動型ホスホリパーゼ Cβ」を開発	臨床医学研究所 教授 渡部文子
4月6日	日本経済新聞 web	山梨大、慈恵大と光で細胞の脂質シグナルを自在に操る技術「光駆動型ホスホリパーゼ Cβ」を共同開発	臨床医学研究所 教授 渡部文子
4月6日	東京新聞	核心 紅こうじサプリ摂取 腎疾患 47 人分析 ほぼ全員「ファンコニー症候群」	内科学講座（腎臓・高血圧内科） 講座担当教授 横尾隆
4月8日	PressWalker	ポリマー結合型の新規抗がん剤を研究開発	疼痛制御研究講座 教授 上園保仁
4月8日	時事メディカル	光で記憶を操る!新たな技術「光駆動型ホスホリパーゼ Cβ」を開発 光で細胞の脂質シグナルを自在に操り、記憶形成の強化に成功	臨床医学研究所 教授 渡部文子
4月8日	時事メディカル	ポリマー結合型の新規抗がん剤を研究開発ーアンスラサイクリン系抗がん剤をがん組織へ選択的に集積・作用ー	疼痛制御研究講座 教授 上園保仁
4月8日	日本経済新聞 web	東レ・慈恵医大・帝京大、ポリマー結合型の新規抗がん剤を研究開発	疼痛制御研究講座 教授 上園保仁
4月9日	ミクス online	東レ ポリマー結合型抗がん剤の導出先を検討 非臨床研究で抗がん性抗生物質の心毒性などの「低減」確認	疼痛制御研究講座 教授 上園保仁
4月9日	日経バイオテック	慈恵大、ポリマー結合型の新規抗がん剤を研究開発ーアンスラサイクリン系抗がん剤をがん組織へ選択的に集積・作用ー	疼痛制御研究講座 教授 上園保仁
4月9日	日刊薬業 web	東レ、抗がん剤の非臨床で好結果、慈恵医大、帝京大と共同研究	疼痛制御研究講座 教授 上園保仁
4月9日	Digital PR Platform	ポリマー結合型の新規抗がん剤を研究開発	疼痛制御研究講座 教授 上園保仁
4月9日	化学工業日報	ポリマー結合型で選択的作用 東レの新規抗がん剤 30 年代実用化へ	疼痛制御研究講座 教授 上園保仁
4月9日	日刊薬業	東レ、抗がん剤の非臨床で好結果、慈恵医大、帝京大と共同研究	疼痛制御研究講座 教授 上園保仁
4月10日	繊維ニュース	東レ 選択的に集積・作用 ポリマー結合型抗がん剤	疼痛制御研究講座 教授 上園保仁
4月10日	日刊工業新聞	ポリマー結合型抗がん剤 東レ、心毒性低減確認	疼痛制御研究講座 教授 上園保仁
4月10日	毎日新聞	認知症を診ずして人を診よ 医師・繁田雅弘（7）=生徒が教えてくれた	名誉教授 繁田雅弘
4月10日	OPTRONICS ONLINE	山梨大ら、光で細胞の脂質シグナルを操り記憶を強化	臨床医学研究所 教授 渡部文子
4月10日	毎日新聞 Web	認知症を診ずして人を診よ 医師・繁田雅弘／7 止 もっと知りたい、力に	名誉教授 繁田雅弘
4月11日	読売新聞（静岡版）	搬送遅れ改善へ救急専門医 富士市立中央病院に初配置	救急医学講座 助教 光永敏哉
4月11日	下野新聞	きになるとちぎ 話題の人に聞く とちぎ JRAT 代表 船越政範（ふなこしまさのり）さん 災害時高齢避難者ら支援	リハビリテーション医学講座 准教授船越政範
4月12日	化学工業日報	コーンオリゴペプチドに知見 肥満や NASH 改善効果 理研・慈恵医大	臨床検査医学講座 講師 古谷裕
4月13日	BS 朝日	「太陽生命 Presents 草野仁の名医が寄りそう!カラダ若返り TV」 高血圧の患者さんに行動変容外来で用いる性格別指導による運動療法を紹介	晴海トリートクリニック 所長 横山啓太郎
4月14日	長崎新聞	1 型糖尿病に「20 歳の壁」 助成途切れ 医療費の負担	内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科） 講座担当教授 西村理明
4月15日	NHK E テレ	「きょうの健康」 春到来！ウォーキング時の“足のトラブル” 「反外母趾」	葛飾医療センター 整形外科 診療部長窪田誠
4月16日	ITmedia ビジネスオンライン	トウモロコシ由来のオリゴペプチドが肥満や脂肪肝を改善する	臨床検査医学講座 講師 古谷裕
4月16日	タリフジ	健活手帖 東京慈恵会医科大学附属病院総合健診・予防医学センター新橋健診センター	新橋健診センター 教授 加藤智弘、准教授 伊藤恭子
4月16日	メディカルトリビューン	LGBT の患者を診療する技能を測定する尺度「日本語版 LGBT-DOCSS」を開発～医療従事者に対する性の多様性の教育に活用しケアの質向上へー東京慈恵会医科大学～	臨床疫学研究部 大学院生 金久保佑介
4月17日	GIZMODO	バッチで 1 分毎にデータ取得、異常値はアラームで。糖尿病医療の最先端とは	内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科） 講座担当教授 西村理明
4月17日	Yahoo! ニュース Japan	お出かけが増える行楽シーズンは要注意! 死亡事故が多発する“漫然運転”とは?	附属第三病院リハビリテーション科 診療部長 渡邊修
4月17日	日本テレビ	Oha! 4 NEWS LIVE 「死亡事故につながる“漫然運転”あたたかなる春は要注意」	附属第三病院リハビリテーション科 診療部長 渡邊修
4月17日	テレビ朝日	健求者～こたわりの元気食 ビタミン D と骨粗しょう症について	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智小枝
4月20日	北海道新聞	20 歳で助成切れ 1 型糖尿病支援を 医療費重く治療中断も	内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科） 講座担当教授 西村理明
4月24日	Digital PR Platform	「多階層的アプローチ」でトランスポーターの隠れた働きを解明	臨床検査医学講座 特任講師 Pattama Wiriyasermkul、 助教 宮坂政紀、教授（安定同位体 (S) 医学応用研究センター長兼務）永森収志
4月24日	日経バイオテック	慈恵大、「多階層的アプローチ」でトランスポーターの隠れた働きを解明～腎臓病の早期発見に新たな光～	臨床検査医学講座 特任講師 Pattama Wiriyasermkul、 助教 宮坂政紀、教授（安定同位体 (S) 医学応用研究センター長兼務）永森収志
4月24日	日本経済新聞 web	慈恵医大、慶大・九大などと「多階層的アプローチ」でトランスポーターの隠れた働きを解明	臨床検査医学講座 特任講師 Pattama Wiriyasermkul、 助教 宮坂政紀、教授（安定同位体 (S) 医学応用研究センター長兼務）永森収志
4月24日	時事メディカル	「多階層的アプローチ」でトランスポーターの隠れた働きを解明～腎臓病の早期発見に新たな光～	臨床検査医学講座 特任講師 Pattama Wiriyasermkul、 助教 宮坂政紀、教授（安定同位体 (S) 医学応用研究センター長兼務）永森収志
4月24日	PressWalker	「多階層的アプローチ」でトランスポーターの隠れた働きを解明	臨床検査医学講座 特任講師 Pattama Wiriyasermkul、 助教 宮坂政紀、教授（安定同位体 (S) 医学応用研究センター長兼務）永森収志

Notice

月日	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
4月24日	時事メディカル	慈恵医大の「iCBiofilm 法」を利用した透明化試薬「iCBiofilm-D」を東京化成工業が発売	細菌学講座 准教授 杉本真也、講座担当教授 金城雄樹
4月24日	Digital PR Platform	慈恵医大の「iCBiofilm 法」を利用した透明化試薬「iCBiofilm-D」を東京化成工業が発売	細菌学講座 准教授 杉本真也、講座担当教授 金城雄樹
4月24日	PressWalker	慈恵医大の「iCBiofilm 法」を利用した透明化試薬「iCBiofilm-D」を東京化成工業が発売	細菌学講座 准教授 杉本真也、講座担当教授 金城雄樹
4月27日	New ポストセブン	辛い腰部脊柱管狭窄症手術も「TSCP」で最小侵襲が可能に	整形外科（脊椎・脊髄センター） 副センター長 篠原光
4月27日	日本経済新聞	アトピー治療、小児で「新手」	皮膚科学講座 講師 石氏陽三
4月28日	神戸新聞	日本人の食塩摂取 推奨の 2 倍 レモンでおいしく減塩を 塩やしょうゆの代わりに	附属病院（本院）栄養部部长 濱裕宣
5月3日	読売新聞	カラダの質問箱＝鈴木正彦 東京慈恵会科大学病院リハビリテーション科教授	リハビリテーション医学講座 教授 鈴木正彦
5月3日	中部経済新聞	1 型糖尿病に「20 歳の壁」/ 助成途切れ医療費の負担/ 望む治療諦める患者も	内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科） 講座担当教授 西村理明
5月3日	読売新聞 online	〔からだの質問箱〕足裏指のつけ根に違和感	リハビリテーション医学講座 教授 鈴木正彦
5月4日	読売新聞	生成 AI 考＝医療 任せられるか 悩みに「共感」 正確性懸念 薬の開発 大幅加速も 患者を真に理解 難しい	人工知能医学研究部 センター長 中田典生
5月7日	タリフジ	G W 集中講座 糖尿病の最新治療（4）＝安達純子 持続血糖モニター（C G M）の重要性	内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科） 講座担当教授 西村理明
5月7日	PressWalker	肺由来のエクソソーム等の細胞からの分泌物に高い抗炎症作用を発見	次世代創薬研究部 准教授 藤田雄、内科学講座(呼吸器内科) 助教 門田幸、講座担当教授 荒屋潤、 外科学講座(呼吸器外科) 講座担当教授 大塚崇
5月7日	日本経済新聞 web	慈恵医大と東京医大、肺由来のエクソソーム等の細胞からの分泌物に高い抗炎症作用を発見	次世代創薬研究部 准教授 藤田雄、内科学講座(呼吸器内科) 助教 門田幸、講座担当教授 荒屋潤、 外科学講座(呼吸器外科) 講座担当教授 大塚崇
5月7日	時事メディカル	肺由来のエクソソーム等の細胞からの分泌物に高い抗炎症作用を発見～ステロイドに代わる天然成分の治療薬として急性肺傷害に効果～	次世代創薬研究部 准教授 藤田雄、内科学講座(呼吸器内科) 助教 門田幸、講座担当教授 荒屋潤、 外科学講座(呼吸器外科) 講座担当教授 大塚崇
5月7日	Digital PR Platform	肺由来のエクソソーム等の細胞からの分泌物に高い抗炎症作用を発見	次世代創薬研究部 准教授 藤田雄、内科学講座(呼吸器内科) 助教 門田幸、講座担当教授 荒屋潤、 外科学講座(呼吸器外科) 講座担当教授 大塚崇
5月8日	タリフジ	G W 集中講座 糖尿病の最新治療（5）＝安達純子 AI 利用で自動的にインスリン補充	内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科） 講座担当教授 西村理明
5月9日	タリフジ	G W 集中講座 糖尿病の最新治療（6）＝安達純子 東京慈恵会医科大学 西村理明主任教授に聞く	内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科） 講座担当教授 西村理明
5月10日	タリフジ	G W 集中講座 糖尿病の最新治療（7）＝安達純子 東京慈恵会医科大学 西村理明主任教授に聞く	内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科） 講座担当教授 西村理明
5月10日	時事メディカル	東京慈恵会医科大学と桐朋高等学校・桐朋女子高等学校、高大連携に関する協定を締結	大学 学長 松藤千弥
5月10日	Digital PR Platform	東京慈恵会医科大学と桐朋高等学校・桐朋女子高等学校、高大連携に関する協定を締結	大学 学長 松藤千弥
5月10日	PressWalker	東京慈恵会医科大学と桐朋高等学校・桐朋女子高等学校、高大連携に関する協定を締結	大学 学長 松藤千弥
5月11日	Yahoo! ニュース Japan	「生理で迷惑をかけることに罪悪感があった」子宮内膜炎に苦しんだアナウンサーが語る、性について学ぶことの大切さ	産婦人科学講座 講師 柳田聡
5月12日	Yahoo! ニュース Japan	【前立腺がん治療部】病院ランキング 2024 年版・全国トップ 40 2 位は茨城県立中央病院、1 位は？	泌尿器科 診療部長 木村高弘
5月12日	NEWS ポストセブン	脚の痛み、しびれ、歩行障害、排尿障害などの症状で生活の質が低下する重症の「腰部脊柱管狭窄症」LIF など新治療が改善へ導く	整形外科（脊椎・脊髄センター） 講師 篠原光
5月13日	qlifepro.com	肺由来の細胞外小胞に、ステロイドに値する抗炎症作用があることを発見ー慈恵医大ほか	次世代創薬研究部 准教授 藤田雄、内科学講座(呼吸器内科) 助教 門田幸、講座担当教授 荒屋潤、 外科学講座(呼吸器外科) 講座担当教授 大塚崇
5月14日	共同通信	1 型糖尿病に「2 0 歳の壁」助成途切れ医療費の負担 望む治療諦める患者も	内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科） 講座担当教授 西村理明
5月15日	リシード	慈恵医大と桐朋、医学・看護学の教育活性化で連携	大学 学長 松藤千弥
5月16日	時事メディカル	水虫が発がんに関与 ～足白癬とメラノーマの相関を発見～	皮膚科学講座 教授 延山嘉真
5月16日	PressWalker	水虫が発がんに関与	皮膚科学講座 教授 延山嘉真
5月17日	medical tribune	「触覚」を有する手術支援ロボット、使用感は？「サロア」を用いた泌尿器科手術の初期経験	附属柏病院 泌尿器科 診療部長 三木淳
5月17日	@DIME	心電図から夜間の自殺企図を予測できる可能性、東京慈恵会医科大学研究報告	附属柏病院 精神神経科 診療医員 亀山洋
5月17日	集英社オンライン	<5 月 17 日は世界高血圧デー> 高血圧・脳卒中・心臓病のリスクを減らす、3 つの正しい減塩テクニックとは	附属病院（本院）栄養部部长 濱裕宣、管理栄養士 赤石定典
5月17日	Yomi.Dr	両足裏の指のつけ根あたりに水疱ができていような違和感 原因と治療法は？	リハビリテーション医学講座 教授 鈴木正彦
5月17日	下野新聞	減塩 あの手この手で / 血圧対策 病院食プロに聞く / 少しずつ薄味慣れよう	附属病院（本院）栄養部部长 濱裕宣、管理栄養士 赤石定典
5月18日	京都新聞 Web	「継続できる減塩生活」の秘訣とは 管理栄養士が語る「小さな工夫」	附属病院（本院）栄養部部长 濱裕宣、管理栄養士 赤石定典
5月18日	中国新聞	小さな工夫で減塩を まずは 1 週間から 専門家に聞く秘訣 レモン果汁や香辛料「味気無さ」補う	附属病院（本院）栄養部部长 濱裕宣、管理栄養士 赤石定典
5月18日	読売新聞（大阪版）	減塩 味付けで工夫 3 割減 厚労省が目標値 酸味や香りでメリハリ 塩不使用ポテチ 湖池屋	附属病院（本院）栄養部部长 濱裕宣
5月18日	読売新聞	減塩 味付けで補う 厚労省「食塩摂取量の 3 割減」目標値に うまみや酸味、かおり利かせる	附属病院（本院）栄養部部长 濱裕宣
5月18日	北海道新聞	医療・福祉従事者ら帯広に団体 傷害、病気のある人の日常支援 とかち CAST IT 機器で意思疎通目指す	先端医療情報技術研究部 訪問研究員高橋宜盟
5月20日	Digital PR Platform	水虫が発がんに関与	皮膚科学講座 教授 延山嘉真
5月20日	建設通信新聞	医療福祉建築賞に 6 作品を選定 JIHa 東京慈恵会医科大学附属病院 外来棟	東京慈恵会医科大学附属病院（本院）
5月20日	山陰中央新報デジタル	減塩で血圧下げ病気を予防 少しずつ薄味に慣れて 病院食のプロに秘訣聞く	附属病院（本院）栄養部部长 濱裕宣、管理栄養士 赤石定典
5月21日	Care Net	心電図所見から夜間の自殺企図を予測できる？	附属柏病院 精神神経科 診療医員 亀山洋
5月21日	山陽新聞	工夫重ねて減塩を 管理栄養士が助言 調味料や食べ方 病気予防へ早めに対策	東京慈恵会医科大学附属病院（本院）栄養部部长 濱裕宣

Notice

月日	媒体名	コーナー名・タイトル	掲載・出演者
5月22日	読売新聞	医療ルネサンス 緑内障（1）＝点眼治療続けず視界欠損	眼科学講座 講座担当教授 中野匡
5月22日	Digital PR Platform	身体運動と発声認知課題を統合した二重課題（デュアルタスク）訓練は、「身体機能」と「認知機能」の双方を改善する	リハビリテーション医学講座 講座担当教授 安保雅博
5月22日	PressWalker	身体運動と発声認知課題を統合した二重課題（デュアルタスク）訓練は、「身体機能」と「認知機能」の双方を改善する	リハビリテーション医学講座 講座担当教授 安保雅博
5月22日	時事メディカル	身体運動と発声認知課題を統合した二重課題（デュアルタスク）訓練は、「身体機能」と「認知機能」の双方を改善する	リハビリテーション医学講座 講座担当教授 安保雅博
5月22日	日本経済新聞 web	慈恵医大、身体運動と発声認知課題を統合した二重課題訓練は「身体機能」と「認知機能」の双方を改善することを解明	リハビリテーション医学講座 講座担当教授 安保雅博
5月22日	日刊ゲンダイヘルスケア	「血糖トレンド」が重要…糖尿病の合併症はHbA1cを下げるだけでは回避できない	内科学講座（糖尿病・代謝・内分泌内科） 講座担当教授 西村理明
5月23日	TBS	ひるおび！ 骨の正確検査デキサ法” 検査事情”とポイント / 骨密度改善”のカギ 不足 98% ビタミンD	臨床検査医学講座 講座担当教授 越智小枝
5月23日	薬事新聞	ポリマー結合型抗がん剤「TXB-001」 非臨床研究の内容公表 導出先の探索へ	疼痛制御研究講座 教授 上園保仁
5月24日	時事ドットコム	水虫が足裏のがんに関与 治療で発生予防に効果か―慈恵医大	皮膚科学講座 教授 延山嘉真
5月24日	建設通信新聞	医療福祉建築 2024 卓越した建築的工夫で課題解決 エルピザの里 東京慈恵会医科大学附属病院外来棟ほか	東京慈恵会医科大学附属病院（本院）
5月24日	北国新聞	<健康 & 医療> 病気不安症 重病疑い、とらわれる 身体症状検査で異常なくても	精神医学講座 准教授 館野歩
5月25日	神戸新聞	穏やかな減塩で病気予防を 病院食のプロ、ポイント紹介、調味料カギ、食べ方も工夫 / まず 1 週間、薄味に慣れる	附属病院（本院）栄養部部长 濱裕宣、管理栄養士 赤石定典
5月31日	十勝毎日新聞 電子版	【健康】重病を疑いにとらわれる 病気不安症	精神医学講座 准教授 館野歩
5月31日	福井新聞 D 刊	減塩「ゆるく」 食事楽しく 病院食のプロがこつ指南 しょうゆはかけずに付ける レモン果汁で塩味不足補完	附属病院（本院）栄養部部长 濱裕宣、管理栄養士 赤石定典

院内表彰受賞者

(2023.12～2024.5)

年月	部署	職種	受賞者	表彰理由
附属病院（本院）	2023.12	慈恵実業（ダスキン）	清掃員	青井 英子
	2023.12	眼科	医師	小川 俊平
	2023.12	19H病棟（看護部）	19H病棟一同（看護師）	19H病棟一同（看護部）
	2023.12	8E病棟（看護部）	8E病棟一同（看護師）	8E病棟一同（看護部）
	2024.1	画像診断部	医師	内山 真幸
	2024.1	5E病棟（看護部）	5E病棟一同（看護師）	5E病棟一同（看護部）
	2024.2	14H病棟（看護部）	14H病棟一同（看護師）	14H病棟一同（看護部）
	2024.2	15H病棟（看護部）	15H病棟一同（看護師）	15H病棟一同（看護部）
	2024.3	10H病棟（看護部）	10H病棟一同（看護師）	10H病棟一同（看護部）
	2024.5	感染対策部	感染対策部一同	感染対策部一同
葛飾医療センター	2024.5	ICU	ICU一同	ICU一同
	2024.5	呼吸器内科	呼吸器内科一同	呼吸器内科一同
	2024.3	消化器・肝臓内科	医師	松本 尚樹
	2024.3	腎臓・高血圧内科	医師	畑中 彩恵子
	2024.3	循環器内科	医師	塚田 尚子
	2024.3	小児科	医師	大川 佑子
	2024.3	小児科	医師	藤田 由見
	2024.3	耳鼻咽喉・頭頸部外科	医師	中澤 圭史
	2024.3	初期臨床研修医	医師	福島 爽太郎
	2024.3	総合診療部	医師	高根 啓輔
附属第三病院	2024.3	看護部(5B)	5B スタッフ一同	5B スタッフ一同
	2024.3	施設課(営繕)	営繕員	山田 悟朗
	2024.3	看護部(手術室)	手術室スタッフ一同	手術室スタッフ一同
	2024.3	看護部(脳神経外科外来)	看護師	遠藤 広一
	2024.3	患者・家族相談窓口(総合案内)	スタッフ一同	スタッフ一同
	2024.3	総合診療部	医師	高根 啓輔

Notice

ガバナンス

学校法人 慈恵大学 行動憲章

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に

貢献します。

5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

学校法人 慈恵大学 行動規範

(目的)	(日常の業務処理)
第1条 慈恵大学（以下「大学」という）が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。	第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。
(基本理念)	2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。	3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
(法令の遵守)	4. 会計処理にあたって、不明朗、不透明な処理を行ってはならない。
第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。	(虚偽の報告・隠蔽)
(人間の尊重)	第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。
第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。	(教育・指導)
(取引業者との関係)	第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。
第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。	(告発)
(反社会的勢力との関係)	第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案(告発)窓口に提案することができる。
第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。	2. 提案者(告発者)については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。
(過剰な接待接受の禁止)	(監査・報告)
第7条 正常な取引関係(患者関係含む)に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の接受を禁止する。	第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。
(環境保護)	(違反の処理)
第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。	第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。
(公私の区別)	附 則
第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。	1. 本規範は、平成17年4月1日から実施する。
	2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

Notice

寄付のお願い

平素より本学に対してご支援、ご協力を賜り、
心から厚く御礼申し上げます。

2023年度は新型コロナウイルス感染症も5類となりましたがその影響は残存し、本学は教育、研究、医療の各現場で依然として影響を受けました。コロナ関連補助金を受領しましたが、ポストコロナにおいて患者の受診行動も変化しており厳しい環境が続いています。

現在、第三病院の建替えが進んでおり、2024年度は本格化していきます。物価高騰や働き方改革など社会の変化は大きく決してやさしい状況ではありませんが、本学は今後も一貫して教育、研究、医療の充実を図っていき社会に貢献していくための様々な取組みを行って参ります。本学として変化していく社会や環境に対応していくことが大変重要であり、そのためにはこれからも多くの資金が必要となります。引き続き自助努力も重ねて参りますが、資金の調達も限りがあります。

皆様には、引き続きご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

学校法人 慈恵大学 理事長 栗原 敏

【お知らせ】

一般のご寄付につきましても記念事業募金と同様、100万円以上のご寄付をいただいた方のお名前をドナーズボードに掲載させていただきます。また、税務上の優遇措置につきましても記念事業募金と同じ取扱いとなります。

Notice

寄付のお願い

寄付者名簿

・2023年11月1日～2024年5月31日の寄付者

● 企業等

SDPジャパン株式会社
代表取締役社長 永用万人

医療法人社団レディースクリニック京野
理事長 京野廣一

株式会社永谷園ホールディングス

株式会社世田谷自然食品
代表取締役 河西英治

合同会社 フィールドビレッジ
野村達也

はらメディカルクリニック

● 同窓生

医療法人社団 敬智会 梶原病院

医療法人社団オーケーエム会
オーククリニックフォーミズ病院
理事長 森本紀

医療法人社団くまさんこどもクリニック
理事長 大山亘

医療法人社団 慈生会
梶ヶ谷クリニック
理事長 羽生健

足立信一
川口良人

銀座 慈秀会クリニック
中田秀二

倉島富代
後藤健吉
田中正史
橋本朋子
三戸岡克哉

● 同窓会支部会・クラス会

昭和58年卒業生一同

同窓会北海道支部

● 父兄

後藤田由紀
齋藤良一
坂井幸治
田中裕之
多根与四秀

● 保護者会

東京慈恵会医科大学医学科
保護者会 会長 古谷徹

● 一般個人

石井登希恵
伊藤博
堅山壽子
河野哲治
佐々木敬子
佐藤ひろみ
佐野雄太
富井実
永坂恵子
中島寛久
丹羽克己
堀野百合子
山田弘徳

※クラウドファンディングによるご寄付は除いています。

専門医紹介動画のご紹介

慈恵大学では、患者さんにとってプラスになる医療関連の情報をお届けできるよう、動画による情報発信も積極的に行っております。
今回ご紹介する専門医紹介動画以外にも、「NHKみんなの健康教室（本院）」や公開講座などの動画も配信しておりますので、ぜひご覧ください。

JIKEI VIDEOSは
こちらをご覧ください



心臓外科

心臓大動脈弁病変の外科的治療 ～柔軟に選択する患者さんに合った治療～



心臓外科
國原 孝 診療部長

大動脈弁の治療では、専門家ハートチームが協力して、患者様にとって最適な治療方法をご提案しています。また、大動脈弁閉鎖不全症で比較的若い方の場合、患者様ご自身の弁を使う大動脈弁形成術を実施しています。この手術を行っている医療機関は全国でも少なく、國原診療部長はドイツの専門施設でトレーニングも受けています。

僧帽弁閉鎖不全症に対する 小切開内視鏡下手術 (MICS)

～早期社会復帰をめざす低侵襲手術～



心臓外科
有村 聡士 医師

3D内視鏡を用いてMICS（体への負担が少ない手術法）を行います。従来の開胸手術と比較し痛みや出血が少なく、術後の回復が早いのが特徴です。傷が小さく目立たないこともメリットの一つです。当院では3D内視鏡による4K映像を用いることで、より小さな傷からクオリティを維持した手術をおこなっています。

下部消化管外科

増える大腸がん

～早期発見・治療をめざす検診の重要性～



下部消化管外科
衛藤 謙 診療部長

臓器別がん罹患数では、大腸がんは男性、女性ともに2位になっており、食生活など生活習慣の変化から男女ともに大腸がんが増えています。大腸がんは検査によって早期発見が可能です。大腸がんが表面の粘膜に留まっている場合は内視鏡で治療が可能です。一方、より大腸がんが進行している場合は手術が必要となります。腹腔鏡手術は傷が小さいため痛みも出血も少なく、開腹手術に比べて早期に回復が可能です。

下部消化管の主な病気と治療

～最適な検査と治療の提案～



下部消化管外科
大熊 誠尚 診療医員

本院の消化管外科は、日本の私学の中で最も古い歴史を誇っています。日本人の痔核・痔ろう・裂肛などの患者数は人口の約28%、約3000万人と推計されていますが、受診していない患者さんも相当数いると考えられています。当診療科はできるだけ患者さんの負担を減らし、羞恥心などにも配慮を心がけ診療を実践しています。

なお、JIKEI VIDEOSで配信中の動画は、
学校法人慈恵大学公認
広報課 YouTubeチャンネルでもご覧になれます。

広報課 YouTube
チャンネルは
こちらをご覧ください



医療連携窓口のご紹介

本学附属病院では、地域のかかりつけ医と当院の医師が互いに連携し、
共同で継続的に治療を行う「2人主治医制」を推進し、
地域の先生方との密なる医療連携を目指します。
患者さんをご紹介頂く際は、各病院の担当窓口までご連絡をお願い致します。



附属病院（本院）

患者支援・医療連携センター 医療連携室



〒105-8471 東京都港区西新橋3-19-18
TEL 03-5400-1202 (直通)
FAX 03-5401-1879 (直通)



葛飾医療センター

入退院・医療連携センター 医療連携室



〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2
TEL 03-3603-2111 (代表) 内線5145
FAX 03-3690-7474 (直通)



第三病院

総合医療支援センター 医療連携室



〒201-8601 東京都狛江市和泉本町4-11-1
TEL 03-3480-1151 (代表) 内線3804、3830
FAX 03-3430-3611 (直通)



柏病院

患者支援センター 医療連携室



〒277-8567 千葉県柏市柏下163-1
TEL 04-7164-1111 (代表) 内線2158
FAX 04-7164-1197 (直通)



岡本 愛光

Aikou Okamoto

東京慈恵会医科大学
産婦人科学講座 講座担当教授

初代講座担当教授である樋口繁次先生のお言葉に「慈心妙手」があります。これは、名医はすべての患者さんに慈悲の心を持って診るだけでなく、他人に負けない自分の腕をもち、その腕を磨くために精進しなさいという意味です。腕とは手術の腕かもしれませんが、教育の腕、診療の腕、研究の腕、何でもいいのです。

私は、世界中の女性と子供を幸せにするために毎日努力している医局員らに感謝の気持ちを毎週行われる産婦人科のカンファレンスの中で伝えています。当講座のモットーは、調和を大切にしつつ個性を尊重し、国際化の重要性を理解することです。そして、新しい診断法と治療法を開発し、世界中の女性と子供の幸福に貢献できるように日々努めております。

ぜひ、若い方々には診療だけでなく研究もしていただき、自分ならではの腕を見つけて、その腕をもって世界レベルで活躍し、そして慈恵に、日本に還元していただきたいと思います。

東京慈恵会医科大学 産婦人科学講座
<https://jikei-obgyn.jp/index.html>

編集後記

今年7月に新紙幣が発行されました。そして新一万円札には本学とも関係が深い渋沢栄一翁の肖像が使われています。生涯に約500もの企業の設立に関わったと言われる渋沢翁ですが、支援した公益事業や慈善事業の数はそれを上回るとされ、慈善病院から始まった東京慈恵会の副会長として財政基盤確立に尽力されました。

「日本資本主義の父」と称された渋沢翁は日本で初めて銀行を設立したことで知られますが、新たな日本が近代国家へと進化するためには資本主義を導入することが不可欠だと考えていました。この先進的な思想は幕末にパリの万国博覧会を視察し、海外の産業や制度を見聞したことが源流だと言われています。

常に海外に目を向けることは医療の世界でも重要です。今回の特集では世界から注目される本学のブタの腎臓を使った異種移植と世界内視鏡学会の活動と展望をお伝えしました。これらの取り組みを通して、本学が世界という舞台からどう見られているのかご理解いただければ幸いです。

本誌では本学に関係する皆さんと価値観と方向性を共有することを目的に、これからも変わりつつある本学の姿をお伝えしていきます。より役立つ法人誌にするために、是非、本誌をご覧いただき、ご意見やご感想をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

法人広報委員会委員長 浅野 晃司

経歴

1986年 3月 東京慈恵会医科大学 卒業
1986年 6月 東京慈恵会医科大学産婦人科学講座研修医
1988年 5月 東京慈恵会医科大学産婦人科学講座助手
1989年 4月 財団法人がん研究振興財団リサーチレジデント
1990年 2月 国立がんセンター研究所がん転移研究室研究員
1991年 4月 東京慈恵会医科大学産婦人科学講座助手
1992年 12月 Laboratory of Human Carcinogenesis, National Cancer Institute, National Institutes of Health, Bethesda, MD, U.S.A. Guest Researcher (米国国立がん研究所招待研究員)
1995年 2月 東京慈恵会医科大学産婦人科学講座助手 Laboratory of Chemoprevention, National Cancer Institute, National Institutes of Health, Bethesda, MD, U.S.A. Guest Researcher兼任
1997年 4月 東京慈恵会医科大学DNA研究所遺伝子治療部門兼任
2001年 6月 東京慈恵会医科大学産婦人科学講座講師、診療医員
2009年 2月 東京慈恵会医科大学産婦人科学講座准教授
2012年 4月 東京慈恵会医科大学産婦人科学講座 講座担当教授 現在に至る

所属学会・研究会

日本産科婦人科学会(常務理事、学術委員会委員長、渉外委員会前委員長、男女共同参画・ワークライフバランス前委員長、第75回学術講演会会長(2023))／東京産科婦人科学会(会長(2021.5～2022.4))／婦人科悪性腫瘍研究機構(JGOG)(理事長、国際連携委員長、GCIG委員)／日本婦人科腫瘍学会(副理事長、常務理事、渉外委員会委員長、前会計委員会委員長、代議員、第60回学術講演会(IGCS2018合同開催)会長(2018))／日本臨床細胞学会(理事長、前計理委員会委員長、第63回総会春期大会会長(2022))／国際胎盤学会(IFPA)(前渉外委員、IFPA2018会長)／日本HBOCコンソーシアム(常務理事、評議員、第7回学術総会会長(2019))／日本産科婦人科遺伝診療学会(常務理事、第5回学術講演会会長(2019))／日本産科婦人科内視鏡学会(理事)／日本産科婦人科栄養・代謝研究会(前理事)／日本癌治療学会(代議員)／日本産婦人科乳癌医学会(理事)／日本胎盤学会(前理事、評議員)／婦人科がんバイオマーカー研究会(前理事、第2回研究会会長)／日本絨毛性疾患研究会(世話人、第6回当番世話人)／日本婦人科がん分子標的研究会(世話人)／東京低侵襲婦人科手術研究会(世話人)／Japan Society for the Advancement of Women's Imaging (JSAWI, 第17回シンポジウム当番世話人)／日本エンドメトリオーシス学会、日本生殖医学会、日本受精着床学会、日本周産期・新生児医学会、日本人類遺伝学会
International Gynecologic Cancer Society (IGCS), Former Council member／Gynecologic Cancer Intergroup (GCIG), Former Ovarian Cancer committee chair／International Federation of Gynecology and Obstetrics (FIGO), Former Council, Gynecologic Oncology Former Committee member, Women's Cancer／Oncology Reports, Editorial Board／Editorial Advisor, Journal of Gynecologic Oncology (JGO)／International Journal of Clinical Oncology (IJCO), Editorial Board／Japanese Journal of Clinical Oncology (JJCO), Editorial Board／American Association for Cancer Research (AACR), Active member, referee／American Society of Clinical Oncology (ASCO), member／European Society of Gynecology Oncology (ESGO), member 他

認定医・専門医

日本産科婦人科学会産婦人科専門医(第17-19860341号)／日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医(第070047号)／日本婦人科腫瘍学会専門医制度婦人科腫瘍指導医(第S-150059号)／日本臨床細胞学会細胞診専門医(第2980号)／日本臨床細胞学会教育研修指導医(第0410号)／日本がん治療認定医機構がん治療認定医(第07180250号)／日本産婦人科医会母体保護法指定医(第013-12-12-83020号)／日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医(第3782-092-18-18号)／日本内視鏡外科学会技術認定医(第23-GO-007号)／日本女性医学学会女性ヘルスケア暫定指導医(第99-0190号)／da Vinci Certificate

発行 学校法人 慈恵大学

発行人 理事長 栗原 敏

連絡先 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
学校法人 慈恵大学 広報課

TEL 03-3433-1111(大代表)

FAX 03-5400-1281

e-mail koho@jikei.ac.jp

号数 第42号

発行日 2024年8月1日

<http://www.jikei.ac.jp/>